ISSN 1342-6831

考古学財団

研究紀要 22

# かながわの考古学

2017.3

公益財団法人 かながわ考古学財団

研 究 紀 要 22

# かながわの考古学

2017.3

公益財団法人 かながわ考古学財団

# はじめに

当財団の前身である財団法人かながわ考古学財団は、1993（平成5）年10月21日に神奈川県によって設立されました。

この研究紀要は、1990（平成2）年11月に神奈川県立埋蔵文化財センターによって刊行された『かながわの考古学』第1集から受け継がれてきたものです。

その『かながわの考古学』は、1995（平成7）年11月刊行の第5号で終刊となりましたが、1996（平成8）年3月には神奈川県立埋蔵文化財センターと財団法人かながわ考古学財団とによって新たに研究紀要1『かながわの考古学』を刊行しました。二つの機関による刊行は1999（平成11）年3月の研究紀要4まで続き、研究紀要5からは財団法人かながわ考古学財団単独の刊行物となりました。

さらに当財団が財団法人から公益財団法人に移行し、2012（平成24）年の研究紀要17からは公益財団法人かながわ考古学財団として刊行を続けています。

神奈川県の組織改編や当財団の変遷にかかわらず、『かながわの考古学』は神奈川県内の考古学に関する資料を各時代の研究プロジェクトがさまざまな形で提供しております。

本誌は、上記のとおり、その前身から数え既に20年以上にわたり、継続的に刊行してまいりました。この間、各プロジェクトのメンバーも少しずつ変わりながらも、毎年度各プロジェクトのでで趣向を凝らし、グループ研究であるからこそ可能なテーマに取り組んできました。今年度は、2つのプロジェクトが新たな課題に、他のプロジェクトは継続的な課題に取り組んでおります。

今後もプロジェクト内のみならず、各プロジェクト間でもより良い刺激を相互に享受しながら真摯に取り組んでまいりたいと考えております。皆さまのご高評、ご批判をお待ちしております。

2017（平成29）年3月

公益財団法人かながわ考古学財団

# 目　次

神奈川県伊勢原・秦野地域の関東ロームの層序について
旧石器時代研究プロジェクトチーム …… 1

神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅷ
－後期前葉期　堀之内式土器文化期の様相　その8－
縄文時代研究プロジェクトチーム …… 13

弥生時代後期竪穴住居の研究（1）
弥生時代研究プロジェクトチーム …… 19

考古学の先駆者　赤星直忠博士の軌跡（14）　－通称「赤星ノート」の古墳時代資料の紹介－
古墳時代研究プロジェクトチーム …… 29

神奈川県における古代の鉄（7）　－生産関連遺構・遺物の集成－
奈良・平安時代研究プロジェクトチーム …… 39

神奈川県の県央地域の中世遺跡（2）
中世研究プロジェクトチーム …… 55

近世道状遺構の集成（2）
近世研究プロジェクトチーム …… 67

# 例　言

1．本書は、公益財団法人かながわ考古学財団の職員で構成する研究プロジェクトチームが、時代ごとに共同研究を行った結果を掲載するものである。

2．各研究プロジェクトチームの構成は以下のとおりである。
（五十音順・◎はプロジェクトリーダー、○はサブリーダーを示す）

**・旧石器時代研究プロジェクトチーム**
井関文明・大塚健一・加藤勝仁・絹川一徳・○栗原伸好・鈴木次郎・砂田佳弘・畠中俊明・三瓶裕司・◎脇　幸生

**・縄文時代研究プロジェクトチーム**
阿部友寿・天野賢一・井辺一徳・岡　稔・◎小川岳人・○粕谷　隆・野坂知広・町田賢一・村松　篤・山田仁和

**・弥生時代研究プロジェクトチーム**
後川恵太郎（平成27年度）・飯塚美保・池田　治・宍戸信悟・新開基史・○戸羽康一・◎渡辺　外

**・古墳時代研究プロジェクトチーム**
◎植山英史・○柏木善治・岸本泰緒子・長澤保崇・新山保和・吉澤　健

**・奈良・平安時代研究プロジェクトチーム**
○加藤久美・川嶋実佳子・◎相良英樹・諏訪間直子・高橋　香・中田　英・西田真由子・宮井　香

**・中世研究プロジェクトチーム**
菊川英政・継　実・◎松葉　崇・○宮坂淳一・山口正紀

**・近世研究プロジェクトチーム**
◎木村吉行・桑原安須美・福佐美智子・眞鍋早紀・○南出俊彦

# 神奈川県伊勢原・秦野地域の関東ロームの層序について

旧石器時代研究プロジェクトチーム

## はじめに

今年度のテーマは「層序」である。特に神奈川県西部にあたる伊勢原・秦野市域に焦点をあてた。この地域は、過去にも旧石器時代の調査事例は幾つかあるが、相模野台地における綾瀬市早川天神森遺跡のような指標となる層序の提示は稀有である。また、近年の新東名高速道路建設事業等の大規模開発に伴う発掘調査事例の増加に伴い県西部での「層序」の確立が急務となったため、本テーマを設定した。

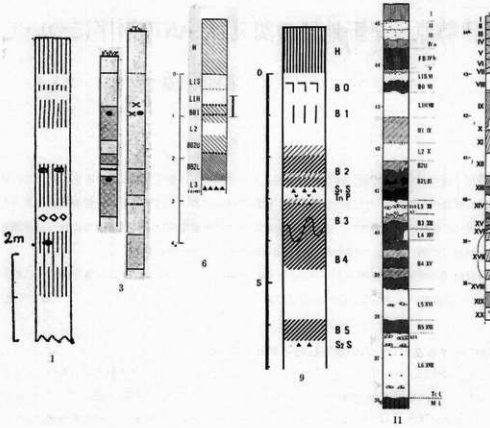
今回は、相模野台地等の成果と県西部出土石器群とその出土層位、テフロクロノロジー等を総合的に検討しているが、今後の成果に基づきさらなる検討が必要であろう。　　（脇　幸生）

## 1．相模野台地における立川ロームの層序区分と対比の歩み

関東ロームの調査・研究は、1953年に結成された関東ローム研究グループにより本格的に行われ、旧石器時代の石器群を包含する立川ロームは、標識地の武蔵野台地では、立川段丘の形成後に堆積したローム層で、２枚の暗色帯がみとめられることが明らかにされた（関東ローム研究グループ 1965）。相模野台地においては、戸谷　洋・貝塚爽平がローム層の柱状図（第１図 1）を提示して多数の暗色帯が確認されること、暗色帯から円礫・角礫が出土し、それらが人類活動の痕跡であることを指摘した（戸谷・貝塚 1956）。

相模野台地での旧石器時代遺跡群の本格的な調査の開始は、岡本　勇・松沢亜生による遺跡分布調査であり、発見した 42 遺跡・53 地点について、スコリア層（S1S）・暗色帯とともに遺物の出土層位を示した柱状図（第１図 3）によって報告しているが、層序区分は行っていない（岡本・松沢 1965）。その後、相模考古学研究会が遺跡分布調査を行い、発見・確認した 171 遺跡・190 地点について、遺物の出土層位をやはり柱状図によって報告している。柱状図では、スコリア層（S1S）とともに、暗色帯を上層から順に暗色帯０（B0），１，２，３，・・・と、その間のローム層１（L1），２，３，・・・と区分し、L1 を上層のソフト(S)と下層のハード(H)に、Ｂ２を黒味が薄くやや軟質の上層（U）と黒味が強く硬質の下層（L）に区分した（相模考古学研究会 1971）。また、相模考古学研究会の分布調査により発見された月見野遺跡群は、その直後に明治大学が発掘調査を実施しているが、相模考古学研究会による層序区分を採用しており（第１図 6、明治大学考古学研究室月見野遺跡群調査団 1969）、この区分が相模野台地の標準的な層序区分となった。その後、B2L 層や B4 層の中間層の確認などにより層序の細分が行われ、また、広域テフラ AT の発見（町田・新井 1976）により他地域とのローム層の対比が容易に行われるようになった。さらに、1990 年代になると、暗色帯や顕著なスコリア層だけではなく、スコリアを中心とした一次テフラを同定して層序に組み込むことにより他遺跡との詳細な層序対比を可能にした（第１図 12a、かながわ考古学財団 1996 他）。

なお、層序区分の細分や武蔵野台地との対比等の歩みについては、第１表にまとめた。　　（鈴木次郎）




**第１図**　相模野台地の層序図（柱状図の番号は第１表の番号と対応している、１の地点は古山の東方）

## ２．相模野台地の層位区分について

相模野台地は、富士・箱根火山に近く、これらを起源とする火山灰の堆積が良好な地域である。このため、前項で鈴木が述べたように、古くからローム層区分の検討が行われてきた。武蔵野台地の野川遺跡と同様、ローム層を時間的空間的な基軸とした旧石器時代の編年研究において、本地域は常に一定の指標を提示してきた（矢島・鈴木 1976、鈴木・矢島 1978、諏訪 1988 など）。

相模野台地上におけるローム層は、前項あるいは各書で述べられているように、黄褐色ローム層と暗色帯とされる暗みの強い層が交互に堆積することが最大の特徴である。黄褐色ローム層は L1S・L1H・L2～L6 層の７層、暗色帯は B0・B1～B5 層の６層の計 13 層に区分される。層厚は、各遺跡の立地にもよるが、概ね最上位の L1S 層上面から６～７ｍを測り、３～４ｍ付近で AT を含む L3 層が確認される。同層位中、AT の直上には相模野第１スコリア（S1S）の存在も確認される。また、L5 層と L6 層中からは相模野第２スコリア（S2S）の存在も確認されている。

上記の様に相模野台地の層位は、主に層厚、上下隣接層との色調的差違、平面的な広がり等から広く時間の物差しとして有効であると認識されてきた。これらは紛れもない事実である。しかし、矢島・鈴木は、相模野台地最大の特徴である暗色帯が観察地点によっては黒味をほとんど帯びない地点の存在を指摘していたものの（矢島・鈴木 1976）、これは積極的には語られてこなかったのではないだろうか。本財団で相模野台地の調査に携わってみると、２つの重要な視点に気付く。

**第1表　相模野台地の層序区分及び武蔵野台地との対比等の歩み**

| No. | 調査年月 | 調査遺跡等 | 調査者(著者) | 内容・特記事項 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 1952 夏 | 相模原市古山東方・下原東方 | 戸谷　洋・貝塚爽平 | ・2地点の柱状図を示し、多数の暗色帯が確認されることを記載。層序区分は行っていないが、B0・B1・B2L・S1S・B3・B4が読み取れる。<br>・暗色帯(柱状図からB2L上面とB3中位と推定される)から円礫・角礫の出土を確認し、人類活動の痕跡と評価。<br>・暗色帯は腐植にあるもので、降灰休止期に形成されたかつての土壌(化石土壌)と説明。 |
| 2 | 1953.9<br>～1965 | 関東各地の露頭調査 | 関東ローム研究グループ | ・武蔵野台地では、立川・武蔵野ロームの境界はクラック帯をなし、立川ロームには、暗色帯が2枚存在する。<br>・相模野台地では、2枚の明瞭なスコリア(S1S、S2S)がみとめられ、S1Sの上下に暗色帯がみとめられる。<br>・相模野台地では、立川・武蔵野ロームの境界は明瞭ではないが、カンラン石の構成比からS1SとS2Sの間にある暗色帯の少し下と考えておく。 |
| 3 | 1960.3<br>～1963 | 遺跡分布調査 | 岡本　勇・松沢亜生 | ・石器や礫が出土するローム層中に、上下2枚の暗色帯とその間のスコリア層を確認するが、層序区分は行っていない。<br>・そのローム層の大半は立川ロームに、一部が武蔵野ロームに相当する。(『関東ローム』を引用) |
| 4 | 1967.12<br>～1971.3 | 遺跡分布調査 | 相模考古学研究会 | ・暗色帯以外のロームをL、暗色帯をBとし、上層から数字で表示して層序区分を行う。L1、B1、L2、B2、L3、B3、・・・<br>・L1を上層のソフト(S)と下層のハード(H)に区分、B2を黒味が薄くやや軟質の上層(B2U)と黒味が強く硬質の下層(B2L)に区分する。<br>・B3中位～下底で土壌攪乱帯「波状」を確認。これを境に岩相が異なる。・1969年にB0を確認。 |
| 5 | 1969.2 | 論文<br>(地理学評論) | 貝塚爽平・森山昭雄 | ・相模野台地の田名原段丘・陽原段丘の細区分を行う。陽原堀地面をビュルム氷期極相に形成された段丘とし、陽原海退を提唱。<br>・「波状」を立川・武蔵野ロームの境界と捉え、B1とB2に相当する暗色帯を武蔵野台地の立川ローム上下の暗色帯に対比。 |
| 6 | 1968.9～10 | 月見野遺跡群第一次調査 | 明治大学 | ・1968年6月に相模考古学研究会が発見。層序区分は、相模考古学研究会の区分による。概報は、公表された層序区分の初出。<br>・L1S～B2各層の層厚は調査地点により異なるが、ローム上面からS1Sまでのローム層全体の厚さはほぼ等しい。 |
| 7 | 1971.12 | 論文<br>(第四紀研究) | 町田　洋・鈴木正男・宮崎明子 | ・S1S直下の火山灰を丹沢パミス(TnP)と命名。武蔵野の暗色帯間の火山ガラスと同一であることから、B2とB3・B4を上下の暗色帯に対比。<br>・相模野での立川・武蔵野ロームの境界は、S2S下約1mのクラック帯と推定。<br>・暗色帯は、降灰休止期を示すものではなく、テフラの降下・堆積と腐植の集積が並行して形成されたと説明。 |
| 8 | 1971.8 | 小園前畑遺跡 | 相模考古学研究会 | ・L3中位のS1S直下から丹沢パミス(TnP)を確認。 |
| 9 | 1972.3<br>1973.3, 12 | 地蔵坂遺跡 | 相模考古学研究会 | ・B2Lの中間に比較的明るい間層部を確認し、B2Lを3層に区分。<br>・B3の上部を黒色味の薄い層として表示。 |
| 10 | 1976.6 | 論文（科学） | 町田　洋・新井房夫 | ・丹沢パミス(TnP)を給良カルデラから噴出した火山灰と特定し、広域テフラの給良丹沢火山灰(AT)と命名。 |
| 11 | 1980.4<br>～1981.2 | 早川天神森遺跡 | 神奈川県教育委員会 | ・L1Sが地点により硬いロームであることを確認。<br>・B4の中に2枚の間層部を確認し、B4を5層に区分 |
| 12 | 1990.10<br>～1994.9 | 吉岡遺跡群 | かながわ考古学財団 | ・層序区分にテフラ層序(YNs)を併用。　・S2SをS2SU(B4とB5の中間)と、S2SL(B5の下、従来のS2S)に捉え直す。 |
| 13 | 1994.4<br>～1998.12 | 用田鳥居前遺跡 | かながわ考古学財団 | ・B0を色調、締まり、スコリア等から2層に分層。L2をスコリア含有量、粘性、締まり等により上下2層に分層。 |

**出典報告書・論文**

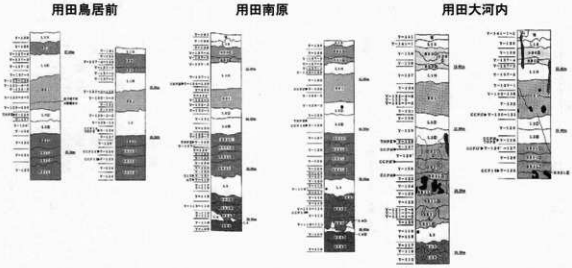

1　戸谷　洋・貝塚爽平 1956『関東ローム層中の化石土壌』地理学評論 29-6 pp.339-347
2　関東ローム研究グループ 1965『関東ローム』築地書館
3　岡本　勇・松沢亜生1965『相模野台地におけるローム層内遺跡群の研究」物質文化 6 pp.1-14
4　相模考古学研究会 1971『先土器時代遺跡分布調査報告書－相模野篇－』
5　貝塚爽平・森山昭雄 1969「相模川沖積低地の地形と沖積層」地理学評論 42-2 pp.85-105
6　明治大学考古学研究室月見野遺跡群調査団 1969『概報 月見野遺跡群』
7　町田　洋・鈴木正男・宮崎明子 1971「南関東の立川、武蔵野ロームにおける先土器時代遺物包含層の編年」第四紀研究 10-4 pp.290-305
8　相模考古学研究会 1972『小園前畑遺跡発掘調査報告書』綾瀬町文化財調査報告 1
9　相模考古学研究会 1974『地蔵坂遺跡発掘調査報告書』綾瀬町文化財調査報告 2
10　町田　洋・新井房夫 1976「広域に分布する火山灰－給良Tn火山灰の発見とその意義－」科学 46-6 pp.339-347
11　神奈川県教育委員会 1983『早川天神森遺跡』奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 3
12a（財）かながわ考古学財団 1996『吉岡遺跡群 Ⅰ』かながわ考古学財団調査報告 6
12b 上杉　陽・上本進二・米沢　宏『神奈川県綾瀬市吉岡遺跡群のテフラ層位』『吉岡遺跡群Ⅸ』かながわ考古学財団調査報告 49 pp.81-103
13（財）かながわ考古学財団 2002『用田鳥居前遺跡』かながわ考古学財団調査報告 128

1つ目は、やはり黒くない暗色帯が存在していること、2つ目は、上下の層界が必ずしも明確ではないということである。このような中、1970年代以降から今日に至るまで、発掘調査件数が増加する中、それ以前と比べどこまで統一的な視点で土層を観察することができていたのであろうか。各土層の層界には漸移的な部分が観察されることも多く、それを上層の下部とするのか、下層の上部とするのかという判断は、特に相模野台地の場合、出土遺物の印象を左右することとなる。大切なのは、どちらかに割り振るのかでは無く、その様な層位の存在をきちんと報告していくことである。

近年、本台地のローム層にテフラ層序（Y-No.）を併記する取り組みも実施されている（上本・上杉 1996 ほか)。しかし、第2図の様に同一調査者が区分した考古学な層位であっても、テフラ層序との分析結果の間には、若干のズレが生じている。ここで大切なのは、このズレを考古学・地質学のどちらかの分析の誤りと押しつけ合うのではなく、この差違をどの様に受け止めるかと言う視点を見失わないことであろう。何故なら、前述の様な層界の不明瞭さゆえに、考古学側がこのズレを生じさせた可能性も十分考えられるからである。

相模野台地は、統一的な層位が厚く広く観察されるというローム層堆積の優等生的な地域と思われがちである。実際、暗色化していなくても「○○相当層」という視点からすると、広範囲に類似した層位を観察することができ、旧石器時代研究、とりわけ編年研究には大きな役割を果たしてきた。しかし、その反面、層界の漸移的な土層の存在は、詳細な土層の観察を滞らせ、相模野標準層序に当てはめる意識も生んでしまってはいなかっただろうか。そのため、L1S・B1・B2層といった記載はあるものの、各土層説明の記述が乏しい報告書もある。大切なのは、土層の堆積が良好な地域であるからこそ、各遺跡でその特徴をきちんと報告していく姿勢が必要であり、これこそが相模野台地における旧石器時代調査者の使命でもある。

（栗原伸好）



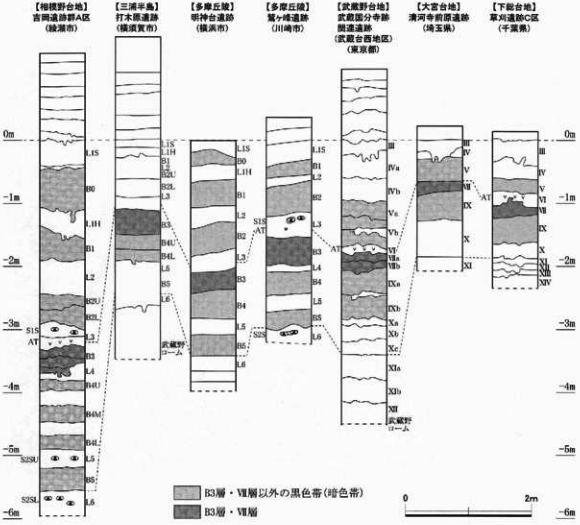

**第2図** 層序区分とテフラ層序

## 3．相模野台地以東（三浦半島・多摩丘陵）の層序区分について

三浦半島の打木原遺跡ではATがL3層で確認されるが、S1S・S2Sが顕著に確認されない点は相模野台地以外の南関東のあり方と共通し、相模野台地との対比ではB3層以外のいずれの層も堆積が薄く、多摩丘陵との対比でもB3～B4層が同層厚で対比できる以外は堆積が薄い。また県外の南関東で同層序で対比できる立川ロームはB3層がⅦ（a・b）層よりも堆積が厚いが、L1S・L1H層がⅢ層と同層厚で、B4上（U）・B4下（L）層が大宮・下総台地のⅨ層と共通点が見出される。

多摩丘陵の明神台遺跡ではATがL3層で確認されるが、S1SとS2Sが確認されない点が相模野台地以東の南関東のあり方と共通し、B2・L3・B4・B5層が同丘陵の鷲ヶ峰遺跡、B3～B4層が三浦半島の打木原遺跡と同層厚対比できるとともに大宮・下総台地の層厚に近い傾向がうかがえる。鷲ヶ峰遺跡ではB4層を細分できない点が同丘陵の明神台遺跡と同層序対比できる大宮・下総台地のⅨ層、AT・S1SがL3層で確認できる点が相模野台地と同層厚で共通する点がうかがえる。

（井関文明）




第３図　相模野台地およびそれ以東の層序（立川ローム）〔中村 2014 を一部改変〕

## 4．相模川以西の分層について

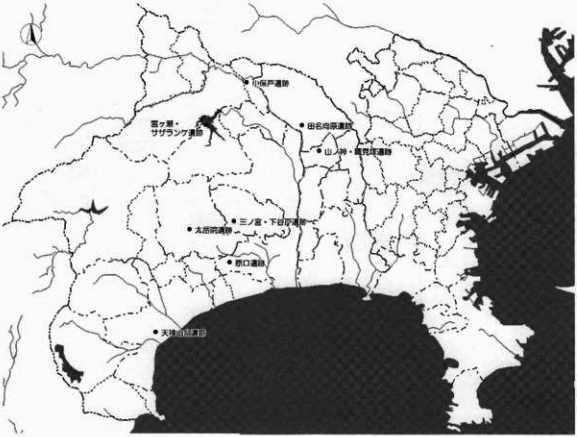
当該地域の調査事例は昨今急速に増大しているものの、長年調査研究されてきた相模野台地に対して未だ少数である。そして基本層序の堆積状況を概観すると、相模野台地に比し富士・箱根火山に近いことから、各層が非常に厚くなっていることがいえる。しかしながら相模野台地でもその南部と北部で堆積状況が異なるのと同様に、これまで観察されている各遺跡の基本層序にはその堆積状況に大きくばらつきが認められる。これは各地の地理的条件のほか、富士・箱根火山を吹き抜ける偏西風に起因する可能性が考えられる。

それぞれの層を見ていくと、全体に火山灰の粒子が相模野台地の火山灰に対し大きくなっていることや、相模野台地まで飛翔しない火山灰の存在が観察される。このことによりそれぞれの層に特徴的な「鍵」となるスコリアの特定が難しくなることで双方の層序対比が出来にくい状況が認められる。

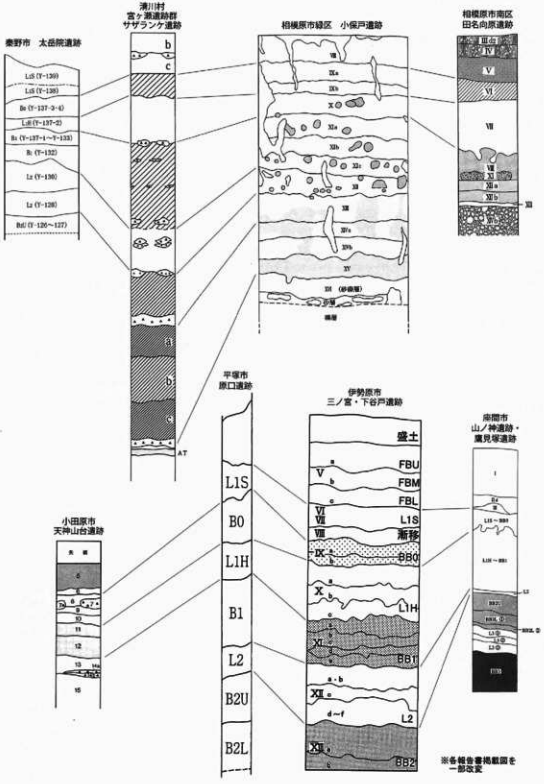
そのためこれまでの調査では、相模野台地の層序と対比せず独自の層序番号を付与し、相模野台地の層序を参考として「相当層」として把握しようとしてきた。

現在、伊勢原市から秦野市にかけて地理的に連続した調査事例の増大に伴い、精力的に堆積状況を観察し対比していく研究がすすめられている。

（大塚健一・加藤勝仁・三瓶裕司）




**第４図**　各柱状図の観察遺跡

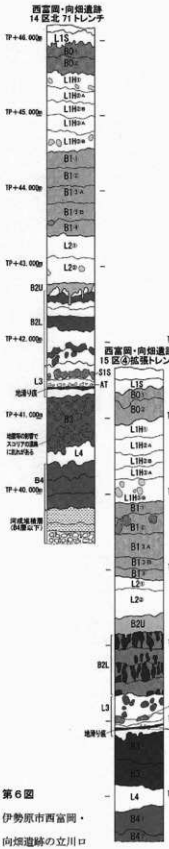



第５図　神奈川県西部を中心としたローム層層厚対比

## 5．伊勢原市域のローム層序（西富岡・向畑遺跡）

県央部に位置する伊勢原市域は、相模川右岸に広がる相模平野の西端にあたり、北側は丹沢山地の大山南東麓から南北方向に延びる丘陵や扇状地が平野と接する。後述する西富岡遺跡は富岡丘陵の先端に形成された台地上に立地している。この一帯は活断層である伊勢原断層に沿った地域で、遺跡は丘陵先端の斜面地であることから、ローム層堆積の一部が地震による地滑りや褶曲・変形などの影響を受けている。遺跡内の２ヶ所で確認された地層の概要は以下の通りである。

ローム層上部のL1S層は堅くしまり、上位の漸移層との境界が波状に乱れる。径１～５㎜の硬質の橙色スコリア（Y-138）を多量に含む。B0層は２層に細分され、上位の層相はL1S層と漸移的で、下位は暗色味が増す。L1H層はやや赤みがかった黄褐色ロームで、基本的に上（Y-137-3）・中（Y-137-2）・下（Y-137-1）の３層に細分されるが、厚く堆積した場所では中・下位の間がさらに２層に細分され、計５層となる。B1層は上層と比べて褐色味が優勢な黄褐色ロームで、①～④層に細分が可能である。B1①層は分層しづらいが、Y-137-1とB1②層（Y-132-6）に挟まれる。B1③層は大粒の黒褐色スコリアと細粒の凝灰岩片を多く含み、やや暗色味を帯びる。B1④層はY132-1の黒褐色スコリアが濃集する。B1③層は層相の変化で２層に細分可能な場所がある一方、堆積が薄く③・④層が１層に一括される場所がある。L2層の堆積は概して薄いが、本遺跡では上下２層に細分が可能な場合が多い。B2U層以下は地層のしまりが非常に強くなる。B2U層は淡い暗色を呈し、細粒の暗赤褐色スコリアとCCP15とみられる細粒の白色パミスを含む場合がある。B2L層は全体的に暗色がかった褐色ローム層で、細粒の黒褐色スコリアの濃集層が間層を挟み、上（Y-123）・中（Y-124）・下（Y-125）のグループに分かれる。下位の黒褐色スコリアは風化が進み、ブロック状に混入する。L3層には中位にS1Sとみられる径５～15㎜の黒褐～暗褐色の硬質スコリアが密集しており、その下位に乳白色粘土質火山灰のATが含まれる。ただし、県西部ではこのAT層準で地滑りによる横ずれ断層が広く認められ、ATはパッチ状に混入する。L3層以下は、地滑りによるスランプ堆積や渋田川水系の河川争奪などによる水成堆積層が認められ、層相の同時異相や側方変化が著しい。こうした詳細を検討するため、さらなる調査成果の蓄積が望まれる。（絹川一徳）

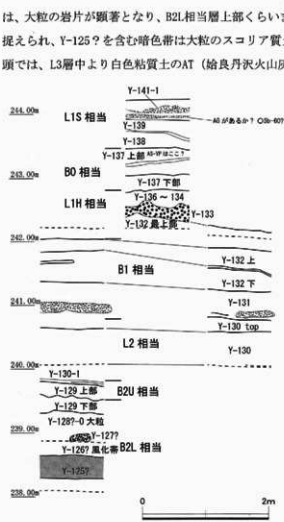


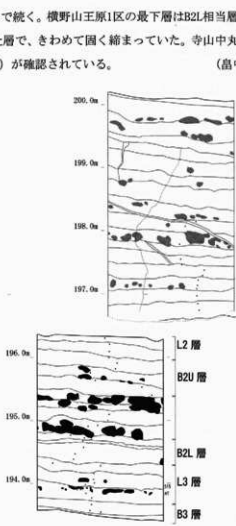

第６図
伊勢原市西富岡・向畑遺跡の立川ローム層

## 6．秦野市域のローム層序

横野山王原遺跡１区では、６ｍまで掘り下げてローム層の観察を実施した。また、都留文科大学名誉教授上杉陽先生による火山灰分析を実施し、Ｙナンバーを付した。横野山王原遺跡では、土質や色調、および特徴的なスコリアを手がかりに相模野基本層序と対比し、相当層として分層している。また、寺山中丸遺跡の露頭では、中日本高速の本体工事に伴い、ローム層の良好な堆積が観察できた。以下で、両者の柱状図を併記し、横野山王原遺跡の調査から層位的な所見を述べる。

L1S相当層は、Y-141-1スコリア中にて層スベリが顕著であり、スベリ面を挟んで上部は固く締まっており、スベリ面より下層では締まりはあるものの粒子が粗くスコリア質となる。全体的に橙色を帯び、下部は赤色スコリア塊（Y-138）がみられる。B0相当層は、上部2枚が粘性の強い暗褐色土で、浅間山を給源とする板鼻黄色軽石（AS-YP）が混在する。L1H相当層中には、大粒の黒色スコリアが帯状に認められ、ここではY-133と捉えられたが、相模野台地のL1H層中に顕著なY-137-2である可能性も否めない。蓑毛小林遺跡では、この直下から槍先形尖頭器の石器群が出土している。B1相当層は１ｍ以上の層厚があり、Y-132～130最上部までのスコリアが捉えられ、色調は全体的に赤味がかっている。アカゴマと捉えられた赤色スコリア塊をふくむのだろうか、ここではY-131とされた付近に密集する。この直下で、B1とL2相当層を分層する。L2相当層からは、大粒の岩片が顕著となり、B2L相当層上部くらいまで続く。横野山王原1区の最下層はB2L相当層の途中と捉えられ、Y-125？を含む暗色帯は大粒のスコリア質土層で、きわめて固く締まっていた。寺山中丸遺跡の露頭では、L3層中より白色粘質土のAT（姶良丹沢火山灰）が確認されている。（畠中俊明）




**第７図**　横野山王原遺跡第１区（左）と寺山中丸遺跡露頭（右）の土層断面（1/60）

## 7．層序区分のこれから

考古学の年代法は絶対的年代と相対的年代(濱田訳 1932)からなる。絶対的年代は近年の加速器質量分析(AMS)法が進展し、その測定値を暦年補正した較正年代が年々高精度化されている。さらに、三方五湖水月湖の 73,000 年分の年縞堆積は世界標準であり、AT 降灰は西暦 2017 年で 30,020 年前となる(若狭三方縄文博物館編 2014)。相対的年代は、地層累重の法則が基本となる。その噴矢はニコラス・ステノによる 350 年も前に遡る 1669 年のことである(山田訳 2004)。

日本における層位的発掘はマンローによる神奈川県三ツ沢貝塚における 1905 年のトレンチ調査に始まる(Munro. N. G1911 1971 復刻)。宝永火山灰層土層の下位に黒色土、赤色土、貝殻混土層を観察しながら調査を実施している。日本人による層位的発掘調査はⅩⅧ層区分の里浜貝塚の調査から約 100 年(松本 1919)を経過している。新潟県室谷洞窟の 15 層分層(中村 1964)など、日本の貝塚・洞穴調査が層位的発掘調査を推進した背景でもある。

広域テフラの発見(町田・新井 1976)以来、ローカルテフラとの併用によっても遺跡間層序対比の高精度化が進み火山灰考古学とも呼称されている。とりわけ相模野台地の発掘調査で普及したY(新規ローム)No.・S(須走)No.(上杉他 1983)テフラは、相模川以西の大規模開発に伴う発掘調査においても層厚故の高分解能は層序対比の極めて有効な指標となっている。かつて、伊勢原市域は「立川ローム層」、秦野市東地区は「武蔵野ローム層以上」、西地区は「その他の第四紀火山砕屑物」であり、1,000 ヶ所の柱状図から選択された地点は伊勢原市内が皆無、秦野市内は金目川流域 4 地点(関東ローム研究グループ 1965)とは隔世の感がある。

YNo.は漸移層のY-141 群、L1S 層のY-139・138、B0 層のY-137-4、L1H 層上半部のY-137-2、BB1 下位のY-132-1など、黒・橙・赤・茶のスコリア粒の大きさや密集度、岩片やパミスの分散等が分層の手立てとなりローカルテフラの真骨頂である。鉱物組成や火山ガラスの屈折率によってもその蓋然性は高まる。

しかし、開発に伴う偶発的な露頭の出現はやがて消滅し半永久的な露頭保存が叫ばれて久しいが、展示施設の剥取標本では心許ない。また、遺跡内の地形改変による遺構改変、火山灰廃棄遺構や津波堆積物(藤原 2015)の検出など、所謂人類活動における災害痕跡の研究も進展している。遺跡調査における層すべりや断層、土層反転など分層時の記録保存のための観察の賜である。基本となる土層所面の精査は、移植ゴテから草刈鎌(小林 1975)、「信州鎌」、片手捻りガマ、長柄草削り、草削り三角ホーなど身近な道具も変遷をたどる。

古富士から新富士にいたる 10 万年間に 200 回以上のテフラ噴火は旧石器時代の時間軸の指標としても 500 年／1 テフラとなり、高精度化する絶対年代との協調によって石器文化編年のさらなる高精度化が期待されよう。水月湖の年縞堆積は 7 万年以上地形変動していないという前提がある。その意味では 200 通りのテフラの共通性によって異なる地域を比較対照可能とする強みがある(遠藤 2014)。浅間山起源の As-BP すら新たな安中市横川大林露頭の発見による 19 層の区分(早田・下岡・岩井 2016)は今後も予断を許さない。

BB1 層上部から BB0 層下部の最終氷期、続く BB0 層から漸移層の最終退氷期初期、ヤンガードリアス期の寒の戻りが 12,900 年前の北米へ天体衝突など、ボンドサイクルをはじめとする惑星規模での気候変動が議論される。地質年代では 77 万年(～12 万 6 千年)前の地磁気の逆転現象の明瞭な市原市田淵の露頭を「チバニアン」(千葉時代)の命名に国際地質科学連合に名乗りをあげ、イタリアとの雌雄は年明けにも決定する。

層序区分は極めて主観的な面もあるが、テフラ No.を付与することで客観的な対比が可能となる。相模川以西の調査でも相模野基本層序の分層名を付与するが、隣接層序間は常に漸移的層序が介在する。遺跡形成過程の層序区分は常に人為自然為の侵食・堆積・擾乱等の土壌生成を念頭とした思考作業となる。(砂田佳弘)

## おわりに

ローム層の堆積及び層序区分の把握は、旧石器時代調査・研究の基礎となるデータである。取り分け、相模野台地は、富士・箱根という供給源に近いことから、類似した厚いローム層が、ほぼ台地全体から観察される良好な地域である。このため、本台地の旧石器時代の調査成果は、旧石器時代の編年研究に大きな影響を与えてきた。しかし、神奈川県全体で旧石器時代の調査成果を確認してみると、この相模野台地以外、特に相模川以西エリアからは、旧石器時代遺跡の存在そのものがほとんど確認されていなかった。

ところが、近年、目まぐるしいスピードで発掘調査が展開されているこの地域において、旧石器時代の調査事例が増加している。この地域は、火山灰の供給源に更に近くなることから、相模野台地よりもローム層の堆積状況が厚くなる。しかし、大枠の中では、「○○相当層」という概念で相模野台地のローム層との比較検討が可能だと考えられる。層序は、「厚い」＝「良好」ではあるが、逆に厚すぎて、「○○相当層」という対比関係の確定が難しいという新たな課題も生じている。本地域のローム層の層序区分は、他の分析方法も含め、今後の資料・研究の蓄積が、新たな課題を相模野台地にも投げ返すかもしれず、今後の調査が楽しみな地域である。

（栗原伸好）

## 付記

2016年6月に第8回アジア旧石器協会(APA)日本大会が開催された。6月27日に大型バス1台で神奈川県内遺跡の巡検が実施された。当財団と事業者の協力によって秦野市寺山中丸遺跡の露頭、伊勢原市上柏屋・和田内遺跡の調査状況を見学した後、相模原市立旧石器ハテナ館の展示、国史跡田名向原遺跡旧石器時代住居跡、県内各時期の主要な石器資料の実見が行われた。参加者は、日本、中国、韓国、ロシア、モンゴル、インド、イギリス、フランス、ベルギー、アメリカの参加者40名である。

寺山中丸遺跡の露頭では、出土石器の観察と石器群の重層出土を説明し、海外参加者は日本の旧石器時代調査の現況を理解しているようであった。一方、海外参加者と日本人研究者間で、地層の成因や層序区分方法の認識の相違の発見もあった。また、発掘調査現場の徹底した安全対策に感嘆する声も聞かれ、SNSですかさず友人たちに送る様子もあった。さらに、中国からの参加者は、発掘調査従事者が毎日通勤していることに驚嘆する(野口 2017)など、神奈川県内における旧石器時代遺跡調査の一端を各国研究者へ紹介できた意義ある一日であった。

（砂田佳弘）

### 引用・参考文献


麻生　優　1969　「「原位置」論序説」上代文化 38　pp. 1-5

アレイ, R. B., 山崎淳訳　2004　『氷に刻まれた地球 11 万年の記憶―温暖化は氷河期を招く』pp. 239

上杉陽・米澤宏・千葉達朗・宮地直道・森慎一　1983　「テフラからみた関東平野」アーバンクボタ 21　pp. 2-17

上本進二・上杉　陽　1996　「神奈川県のテフラ層と遺跡層序-考古学のためのY-no.・S-no. 分層マニュアル-」『関東の四紀』20

ウォーターズ, M. R., 熊井久雄・川辺孝幸監修、松田順一郎，高倉純，出穂雅実，別所秀高，中沢祐一訳　2012　『ジオアーケオロジー：地学にもとづく考古学』pp. 326

遠藤邦彦　2014　『日本の沖積層―未来と過去を結ぶ最新の地層―』pp. 415

公益財団法人かながわ考古学財団　2016　『平成 27 年度横野山王原遺跡　新東名高速道路建設事業に伴う秦野市横野地区埋蔵文化財発掘調査既報』

旧石器時代研究プロジェクトチーム

公益財団法人かながわ考古学財団　2016『平成27年度寺山中央遺跡　新東名高速道路建設事業に伴う秦野市寺山地区埋蔵文化財発掘調査既報』
川島雅人・大西雅也　2004　『武蔵台国分寺跡関連遺跡（武蔵台西地区）』東京都埋蔵文化財センター調査報告第149集
関東ローム研究グループ　1965　『関東ローム―その起源と性状』pp. 378
栗原伸好　1999　「層位論」『石器文化研究』7　石器文化研究会
小林達雄　1975　「層位論」日本の旧石器文化第1巻総論編 pp. 114-136
近藤真佐夫・水野順敏　1995　『鷲ヶ峰遺跡　北東地区　第1次調査報告書』日本窯業史研究報告第50冊
佐藤明生・鈴木啓介　1999　『長浜ノ上遺跡』横須賀市埋蔵文化財調査報告書第7集
佐藤明生　2001　『打木原遺跡』横須賀市埋蔵文化財調査報告書第10集
島立　桂　2003　『千原台ニュータウンX：市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）』千葉県埋蔵文化財センター調査報告第46集
白石浩之・加藤千恵子　1996　『吉岡遺跡群Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告7
ステノ,N、山田俊弘訳　2004　『プロドロムス―固体論』pp. 208
砂田佳弘・縄野匡哉　1996　『吉岡遺跡群Ⅰ』かながわ考古学財団調査報告6
早田勉・下岡順直・岩井明彦　2016　「浅間板鼻褐色軽石群に含まれる火山ガラスと斜方輝石の屈折率特性に関する新資料」岩宿フォーラム2016／シンポジウム　ナイフ形石器文化の発達期と変革期―浅間板鼻褐色軽石群降灰期の石器群― pp. 15-19
田中英司・御持和男他　1984　『住宅・都市整備公団　浦和南部地区　埋蔵文化財発掘調査報告　明花向・明花上ノ台・井沼方馬場・とうのこし』埼玉県埋蔵文化財事業団報告書第35集
近野正幸・畠中俊明　2006　『明神台遺跡・明神台北遺跡』かながわ考古学財団調査報告192
津南町教育委員会編　2016　『本ノ木遺跡第一次・第二次発掘調査報告書』pp. 324
中村孝三郎　1964　『長岡市立博物館研究報告第6冊縄文早期室谷洞窟』pp. 49
中村雄紀　2014　「関東地方における旧石器時代の年代と編年」『旧石器研究』第10号
西井幸雄　2009　『清河寺前原遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第366集
野口　淳　2017　「最近のシンポジウムから第8回アジア旧石器協会日本大会」東京の遺跡107pp. 1206-1207
濱田耕作　1918　『京都帝国大学文学部考古学研究報告第2冊河内国府石器時代遺跡発掘報告』pp. 48
林　謙作　1973　「層序区分―その現状と問題点―」物質文化21 pp. 1-17
廣瀬有紀雄・乾　哲也他　1985　『矢指谷遺跡発掘調査報告書』横浜市埋蔵文化財調査委員会
藤原　治　2015　『津波堆積物の科学』pp. 283
松本彦七郎　1919　「宮古島里浜貝塚の分層の発掘成績」人類学雑誌34-9　pp. 285-315
町田洋・新井房夫　1976　「広域に分布する火山灰―姶良Tn火山灰の発見とその意義―」科学46-6　pp. 339-347
モース,E.S、近藤義郎・佐原真訳　1983　『大森貝塚付関連資料』pp. 219
モンテリウス,O、濱田耕作訳　1932　『考古學研究法』pp. 162
若狭三方縄文博物館編　2014　『世界のものさし水月湖年縞』pp. 64
JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION　2016　EXCURSION GUIDE, PROGRAM AND ABSTRACTS OF THE 8TH MEETING OF THE ASIAN PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION pp. 87-108
N. G. Munro　1911　1982復刻『PREHISTORIC JAPAN』pp. 680

# 神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅷ
## －後期前葉期　堀之内式土器文化期の様相　その８－

縄文時代研究プロジェクトチーム

## はじめに

縄文時代研究プロジェクトチームでは、平成 21 年度より後期前葉期堀之内式土器文化期の様相についての研究を行っており、今年度で８年次目を迎える。初年度に報告書を中心とした文献収集、基礎的なデータベースの作成を行い、研究略史、主要遺跡地名表・参考文献を『研究紀要 15』に掲載した。次年度平成 22 年度は資料のデータシートを作成するとともに、編年の構築へ向け、住居址検出遺跡を中心とした主要遺跡を集成し、一括出土事例（層位的出土事例を含む）の検討を行った（『研究紀要 16』）。これら一括出土事例に基づき平成 23 年度には堀之内１式土器、平成 24 年度には堀之内２式土器の編年案を、また住居址検討遺跡を中心とした主要遺跡の分布図を作成し、それぞれ『研究紀要 17』『研究紀要 18』に掲載した。平成 26 年度には堀之内１式土器編年案・堀之内２式土器編年案にもとづいた住居址のデータシートを作成、時期毎に主要な住居址形態を抽出した集成図を作成し（『研究紀要 20』）、昨年 27 年度には該期住居址のデータシートに基づき、各段階の住居址数（遺跡の分布状況）、平面形態・張出部形態、平面規模、主柱穴配置・壁下構造・建替・拡張、炉址、堤甕、敷石・その他付帯施設等の諸要素からの検討を行い、『研究紀要 21』に掲載している。

一方で、本作業に着手以来７年が経過し、初年度に実施した発掘調査報告書の文献収集に基づくデーターベースと刊行資料との間に大きな乖離が生じている。平成 25 年度（『研究紀要 19』）に遺跡と文献資料の補遺を行い、その後も適時行ってきたが、特に堀之内式期の遺跡は、近年の伊勢原市域を中心として調査報告書が多数刊行され、注目すべき内容を有する遺跡も少なくない状況にある。そこで本年度は、編年案から文化的諸様相へと進むという従前の方向性をいったん休止し、平成 21 年度堀之内式期の遺跡と文献資料の補遺を作製することとした。

### 神奈川県内　後期堀之内式土器出土主要遺跡地名表（補遺）

(1) この表は、「神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅶ－後期前葉期　堀之内式土器文化期の様相　その５－」（縄文時代研究プロジェクトチーム　2014「かながわの考古学」『研究紀要 19』　公益財団法人かながわ考古学財団）に掲載した、主要遺跡地名表（補遺）（文献目録）作成以降に刊行された報告書を中心に、神奈川県内における後期前葉期の主要遺跡を補遺としてまとめたものである。

(2) 掲載遺跡の抽出基準及び表の様式は、「研究紀要」15 を原則として踏襲している。

(3) 文献の収集、データベースの作成、表の編集は、縄文時代研究プロジェクトチームが行った。

(4) 表中の記載は報告書抄録に基づいている。

| No. | 遺跡名 | 所在地 | 文献No. |
|---|---|---|---|
| 横浜市 | | | |
| 179 | 西谷町山王通遺跡 | 横浜市保土ケ谷区西谷町1165-23他 | 172 |
| 180 | 殿谷遺跡第2地点 | 横浜市緑区3丁目767番地 | 173 |
| 平塚市 | | | |
| 181 | 真田・北金目遺跡群　28C区 | 平塚市北金目字上ノ原1566-1外 | 174 |
| 182 | 真田・北金目遺跡群　34A区 | 平塚市北金目字宮久保1430外 | 174 |
| 183 | 真田・北金目遺跡群　34B区 | 平塚市北金目字宮久保1430外 | 174 |
| 184 | 真田・北金目遺跡群　34C区 | 平塚市北金目字宮久保1429外 | 174 |
| 185 | 真田・北金目遺跡群　34D区 | 平塚市北金目字坊ヶ谷戸1350-1外 | 174 |
| 186 | 真田・北金目遺跡群　35B区 | 平塚市北金目字塚越1599-1外 | 174 |
| 187 | 真田・北金目遺跡群　35D区 | 平塚市北金目字塚越1598-1外 | 174 |
| 188 | 真田・北金目遺跡群　36A区 | 平塚市北金目字上ノ原1574外 | 174 |
| 189 | 真田・北金目遺跡群　36C区 | 平塚市北金目字上ノ原1574外 | 174 |
| 190 | 真田・北金目遺跡群　44区 | 平塚市北金目字溝ノ尾1660 | 174 |
| 191 | 真田・北金目遺跡群53A～C区 | 平塚市北金目1,279-2外 | 175 |
| 192 | 真田・北金目遺跡群54A区 | 平塚市北金目1,551外 | 175 |
| 193 | 真田・北金目遺跡群57A～H区 | 平塚市北金目1,546外、真田129-1外 | 175 |
| 藤沢市 | | | |
| 194 | 今田広町遺跡 | 藤沢市今田字丸山130他 | 176 |
| 小田原市 | | | |
| 195 | 蘇我谷津岩本遺跡第Ⅰ地点 | 小田原市蘇我谷津592番外 | 177 |
| 茅ヶ崎市 | | | |
| 196 | 七堂伽藍跡 | 茅ヶ崎市下寺尾4-1番地他 | 178 |
| 197 | 西方A遺跡 | 茅ヶ崎市下寺尾157他 | 179 |
| 逗子市 | | | |
| 198 | 桜山うつき野遺跡 | 逗子市桜山8丁目2087他 | 180 |
| 秦野市 | | | |
| 199 | 太岳院遺跡2006-02地点 | 秦野市今泉字堀之内391番ほか | 181 |
| 200 | 太岳院遺跡91-1地点 | 秦野市尾尻・明星 | 182 |
| 201 | 太岳院遺跡92-2地点 | 秦野市尾尻・明星 | 182 |
| 202 | 太岳院遺跡92-5地点 | 秦野市尾尻・明星 | 182 |
| 203 | 太岳院遺跡92-6地点 | 秦野市尾尻・明星 | 182 |
| 204 | 太岳院遺跡93-1地点 | 秦野市尾尻・明星 | 182 |
| 205 | 太岳院遺跡93-4地点 | 秦野市尾尻・明星 | 182 |
| 206 | 太岳院遺跡95-1地点 | 秦野市尾尻・明星 | 182 |
| 207 | 太岳院遺跡97-1地点 | 秦野市尾尻・明星 | 182 |
| 208 | 平沢同明遺跡9301地点 | 秦野市平沢同明1176番、1174番1 | 183 |
| 209 | 東田原象ヶ谷遺跡 | 秦野市東田原1714-1、1717外 | 184 |
| 厚木市 | | | |
| 210 | 松久保遺跡第５地点 | 厚木市温水字松久保871番外 | 185 |
| 伊勢原市 | | | |
| 211 | 東富岡・西之窪遺跡 | 伊勢原市東富岡232-1外 | 186 |
| 212 | 東富岡・南三間遺跡 | 伊勢原市東富岡249外 | 186 |
| 213 | 東富岡・北三間遺跡第2地点 | 伊勢原市東富岡地先 | 186 |
| 214 | 沼目・天王原遺跡第XI地点 | 伊勢原市沼目2丁目1番49 | 187 |
| 215 | 東大竹・下谷戸(八幡台)遺跡 | 伊勢原市東大竹1376番地 | 188 |
| 216 | 上粕屋・石倉中遺跡 | 伊勢原市上粕屋1454-9番地他 | 189 |
| 217 | 下糟屋・丸山遺跡 | 伊勢原市下糟屋2181他 | 190 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 218 | 池端・金山遺跡第2地点 | 伊勢原市伊勢原1-34-6外 | 191 |
| 219 | 池端・坂戸遺跡 | 伊勢原市伊勢原四丁目1711－8番地他 | 192 |
| 220 | 田中・第六天遺跡第3地点 | 伊勢原市伊勢原四丁目599番地先 | 193 |
| 221 | 下北原遺跡 | 伊勢原市日向1297番地 | 194 |
| 222 | 西富岡・長竹遺跡第2次調査 | 伊勢原市西富岡981-13他 | 195 |
| 223 | 浄業寺跡 | 伊勢原市三ノ宮字竹ノ内572-5外 | 196 |
| 224 | 三ノ宮・上竹ノ内遺跡 | 伊勢原市三ノ宮字竹ノ内572-2他 | 197 |
| 225 | 三ノ宮・前畑遺跡　第２地点 | 伊勢原市三ノ宮字前畑1495番地3外 | 198 |
| 226 | 日向・東新田原遺跡 | 伊勢原市日向171番1外5筆 | 199 |
| 227 | 上粕屋・一ノ郷南遺跡 | 伊勢原市上粕屋他 | 200 |
| 228 | 上粕屋・秋山上遺跡 | 伊勢原市上粕屋2905番1外 | 201 |
| 229 | 神成松遺跡 | 伊勢原市上粕屋神成松2825-1 | 202 |
| 230 | 神成松遺跡　第6地点 | 伊勢原市上粕屋1429-3 | 203 |
| 231 | 上粕屋・和田内遺跡　第2次調査 | 伊勢原市上粕屋2946-4外所在 | 204 |
| 232 | 上粕屋・和田内遺跡　第5次調査 | 伊勢原市上粕屋字一ノ郷南2670-10外 | 205 |
| 相模原市 | | | |
| 233 | 下溝稲荷林遺跡第2地点 | 相模原市南区下溝字稲荷林1996番10 | 206 |
| 234 | 古清水遺跡 | 相模原市緑区大島字古清水2434番１外 | 207 |
| 235 | 上溝三谷遺跡第2地点 | 相模原市中央区東淵野辺3丁目8-10 | 208 |
| 236 | 上溝４丁目彼岸沢第３地点遺跡 | 相模原市中央区上溝４丁目3341－１ | 209 |
| 237 | 中野東大沢遺跡 | 相模原市緑区中野字東大沢1854番５外 | 210 |
| 238 | 大島下台遺跡第４地点 | 相模原市緑区大島字下台993番１ | 211 |
| 239 | 津久井城跡馬込地区 | 相模原市小倉字馬込135-1・127-2外 | 212 |
| 240 | 葉山島中平遺跡 | 相模原市緑区葉山島256-2・256-3 | 213 |
| 241 | 原東遺跡 | 相模原市緑区小倉字原270番地１ | 214 |
| 242 | 小倉原西遺跡 | 相模原市緑区小倉地先 | 215 |
| 243 | 小倉原西遺跡 | 相模原市緑区小倉185番外 | 216 |
| 244 | 田名半在家Ｅ遺跡 | 相模原市中央区田名5352番1外 | 217 |
| 245 | 津久井城跡荒久地区 | 相模原市緑区根小屋440番2外 | 218 |
| 246 | 畑久保西遺跡 | 相模原市緑区城山四丁目地先 | 219 |
| 247 | 大島下中ノ原遺跡 | 相模原市緑区大島字中ノ原2822番１外 | 220 |
| 海老名市 | | | |
| 248 | 大谷吉久保遺跡第2次調査 | 海老名市大谷南三丁目4803-3ほか | 221 |
| 高座郡寒川町 | | | |
| 249 | 岡田南河内遺跡 | 高座郡寒川町岡田577他 | 179 |
| 愛甲郡清川村 | | | |
| 250 | 煤ヶ谷古在家遺跡 | 愛甲郡清川村煤ヶ谷字古在家 | 222 |

**文献目録**（文献№は表中文献№と一致）


172　渡辺　外・梅川光隆他　2015　西谷町山王通遺跡都市鉄道利便増進事業　相鉄・ＪＲ直通線建設事業に伴う発掘調査　かながわ考古学財団調査報告 311　公益財団法人かながわ考古学財団

173　浅賀貴広　2015　横浜市緑区　殿谷遺跡　第２地点　株式会社盤古堂

174　若林勝司・川端清倫他　2010　平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書７　平塚都市計画事業真田・北金目特定土地区画整理事業に伴う調査報告　平塚市真田・北金目遺跡調査会

175　若林勝司・大野　悟他　2012　平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書９　53A～C、54A、57A～H、58A～D区平塚都市計画事業真田・北金目特定土地区画整理事業に伴う調査報告　平塚市真田・北金目遺跡調査会

176　松葉　崇・井辺一彷他　2011　今田広町遺跡　総合治水対策特定河川事業(二級河川境川)に伴う埋蔵文化財発掘調査　かながわ考古学財団調査報告 267　財団法人かながわ考古学財団

177 小池　聡・菊地良之　2010　神奈川県小田原市蓑我谷津岩本遺跡第Ⅰ地点　株式会社盤古堂

178 依田亮一・阿部友寿他　2010　小出川河川改修事業関連遺跡群　茅ヶ崎市七堂伽藍跡(2)　小出川河川改修事業に伴う発掘調査　かながわ考古学財団調査報告 251　財団法人かながわ考古学財団

179 井辺一徳・飯塚美保　2007　小出川河川改修事業関連遺跡群　茅ヶ崎市西方Ａ遺跡・寒川町岡田南河内遺跡　小出川河川改修事業に伴う発掘調査Ⅰ　かながわ考古学財団調査報告223集　財団法人かながわ考古学財団

180 松田光太郎　2010　桜山うつき野遺跡Ⅱ(第２次調査)　県道 311(鎌倉葉山)桜山トンネル整備工事に伴う発掘調査　かながわ考古学財団調査報告 252　財団法人かながわ考古学財団

181 戸田哲也・霜出俊浩他　2011　神奈川県秦野市　太岳院遺跡 2006-02 地点発掘調査報告書　秦野市教育委員会

182 坪田弘子・林原利明他　2013　太岳院遺跡 9008 地点　91-1 地点　92-1 地点　92-3 地点　92-4 地点 92-5 地点　92-6 地点　93-1 地点　93-2 地点　93-4 地点　95-1 地点　96-1 地点　96-2 地点　97-1 地点 200202 地点　尾尻尾崎遺跡 9106 地点　水神遺跡 9312 地点　9403 地点　9603 地点　今泉西堀遺跡 9601　秦野市教育委員会

183 戸田哲也・大倉　潤他　2012　平沢同明遺跡 9301 地点　発掘調査報告書　玉川文化財研究所

184 島中俊明・飯塚美保他　2014　東田原象ヶ谷遺跡　新東名高速道路建設事業に伴う秦野市東地区の発掘調査　かながわ考古学財団調査報告書 305　公益財団法人かながわ考古学財団

185 滝澤　亮・浅賀貴広他　2014　神奈川県厚木市温水　松久保遺跡　第５地点　株式会社盤古堂

186 宗像義輝・植山英史他　2013　東富岡・西之窪遺跡　東富岡・南三間遺跡　東富岡・北三間遺跡第２地点　新東名高速道路建設事業に伴う(伊勢原市東富岡地区)埋蔵文化財発掘調査　かながわ考古学財団調査報告 290　公益財団法人かながわ考古学財団

187 中村哲也・坂本　彰他　2008　沼目・天王原遺跡 第XI地点 発掘調査報告書 玉川文化財研究所

188 坪田弘子・佐々木竜郎　2008　東大竹・下谷戸(八幡台)遺跡 発掘調査報告書 玉川文化財研究所

189 天野賢一・宮坂淳一　2013　上粕屋・石倉中遺跡　県道 603 号(上粕屋厚木)整備事業に伴う発掘調査　かながわ考古学財団調査報告 294　公益財団法人かながわ考古学財団

190 渡辺　外・大塚健一他　2010　下糟屋・丸山遺跡(第６地点)伊勢原都市計画　成瀬第二特定土地区画整理事業に伴う発掘調査　かながわ考古学財団調査報告 260　財団法人かながわ考古学財団

191 新井　潔・渡辺　務　2010　池端・金山遺跡第２地点　日本窯業史研究所報告第 74 冊株式会社日本窯業史研究所

192 小西絵美・近藤匡樹他　2012　池端・坂戸遺跡　県道 44 号（伊勢原藤沢）地方道路等整備（道路新設改良）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査　かながわ考古学財団報告書 281　公益財団法人かながわ考古学財団

193 中村哲也・西野吉論他　2015　田中・第六天遺跡第３地点発掘調査報告書　平成 26 年度都市計画道路田中笠窪線埋蔵文化財調査業務　玉川文化財研究所

194 佐々木竜郎・小森明美他 2014　下北原遺跡Ⅲ－伊勢原浄水場排水処理棟建設工事に伴う発掘調査－　神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告 27　株式会社玉川文化財研究所

195 麻生順司・御代七重他　2016　西富岡・長竹遺跡第２次調査　県道 603 号（上粕屋厚木）道路改良工事に伴う発掘調査　神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 42　株式会社玉川文化財研究所

196 小宮山友康・諸星奉代子他　2013　浄業寺跡　県道 611 号（大山板戸）道路改良事業に伴う発掘調査　神奈川県埋

蔵文化財発掘調査報告書17　大成エンジニアリング株式会社

197　高橋直樹・早田和弘他　2016　浄業寺跡　第2次調査　三ノ宮・上竹ノ内遺跡―県道611号（大山板戸）道路改良工事に伴う発掘調査―　神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書38　大成エンジニアリング株式会社

198　迫　和幸　2016　三ノ宮・前畑遺跡　第2地点　発掘調査報告書　玉川文化財研究所

199　横山太郎・有馬多恵子他　2016　日向・東田原遺跡　県道64号（伊勢原津久井）道路改良工事に伴う発掘調査―　神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書45　有限会社吾妻考古学研究所

200　脇　幸生・菊川　泉　2016　上粕屋・一ノ郷南遺跡、上粕屋・和田内遺跡　新東名高速道路（伊勢原市上粕屋地区）建設事業に伴う発掘調査　かながわ考古学財団報告書312　公益財団法人かながわ考古学財団

201　竹内順一・園村維敏他　2015　上粕屋・秋山上遺跡　県道603号（上粕屋厚木）道路改良工事に伴う発掘調査　神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書29　株式会社パスコ

202　小林義典・高橋勝広他　1995　神成松遺跡発掘調査報告書　神成松遺跡発掘調査団

203　土本　医・伊藤俊治他　2016　神成松遺跡　第6地点―県道603号（上粕屋厚木）道路改良事業に伴う発掘調査―　神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書39　大成エンジニアリング株式会社

204　土　任隆・荻澤太郎他　2016　上粕屋・和田内遺跡　第2次調査―県道603号（上粕屋厚木）道路改良工事に伴う発掘調査―　神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書40　国際文化財株式会社

205　園村維敏・竹内順一他　2016　上粕屋・和田内遺跡第5次調査　県道603号(上粕屋厚木)道路改良工事に伴う発掘調査　神奈川県埋蔵文化財調査報告書47　株式会社パスコ

206　鈴木裕子・長谷川知美他 2016　下溝稲荷林遺跡第2地点　宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　株式会社イビソク神奈川営業所

207　水澤丈志・内田　仁　2007　神奈川県相模原市　古清水遺跡　第1次発掘調査報告書　加藤建設株式会社埋蔵文化財調査部

208　境　雅仁・須藤あけみ　2012　相模原市上溝三谷遺跡第2地点―相模原市中央区上溝字乙六号4570番1外における埋蔵文化財発掘調査報告―　武相文化財研究所

209　中村喜代重　2007　上溝4丁目彼岸沢第3地点遺跡・発掘調査報告書　総合文化財

210　中川真人・熊坂正史　2011　神奈川県相模原市　中野東大沢遺跡　寺院建設及び墓地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　株式会社武蔵文化財研究所

211　小宮山友康・大川康裕　2012　神奈川県相模原市緑区　大島下台遺跡第4地点　発掘調査報告書　宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　大成エンジニアリング株式会社

212　畠中俊明・澁谷正信他　2010　津久井城跡馬込地区　津久井広域道路建設事業に伴う発掘調査　かながわ考古学財団調査報告249　財団法人かながわ考古学財団

213　松田光太郎・井関文明他 2012　葉山島中平遺跡　一般国道468号(さがみ縦貫道路 相模原市城山地区)建設事業に伴う発掘調査　かながわ考古学財団調査報告286　公益財団法人かながわ考古学財団

214　青木雄大・市川康弘他　2015　原東遺跡第3次調査　中野高区第2揚水ポンプ所築造工事に伴う発掘調査　大成エンジニアリング株式会社埋蔵文化財部門

215　渡辺　外・大塚健一他　2014　小倉原西遺跡―般国道４６８号（さがみ縦貫道路相模原市城山地区）建設事業に伴

う発掘調査　かながわ考古学財団調査報告 296　公益財団法人かながわ考古学財団

216　中川寛人・江川寛澄他　2014　小倉原西遺跡　津久井広域道路整備事業に伴う発掘調査　相模原市埋蔵文化財調査報告 45　相模原市教育委員会

217　大坪宜雄・相川　薫他　2009　相模原市田名半在家遺跡Ｅ遺跡　発掘調査報告書　有限会社吾妻考古学研究所

218　河本雅人・鰊酒義紀他　2015　津久井城跡荒久地区発掘調査報告書　津久井広域道路建設事業に伴う発掘調査　相模原市埋蔵文化財調査報告 46　相模原市教育委員会

219　井辺一徳・戸羽康一他　2014　煙久保西遺跡　一般国道４６８号（さがみ縦貫道路　相模原市城山地区）建設事業に伴う発掘調査　公益財団法人かながわ考古学財団

220　北平朗久・小森明美　2012　大島下中ノ原遺跡(相模原市№104 遺跡)発掘調査報告書　株式会社玉川文化財研究所

221　千田利明　2010　大谷吉久保遺跡第２次調査　海老名市大谷南三丁目 4803-3 ほかにおける埋蔵文化財発掘調査報告書　有限会社プラフマン

222　香川道郎・西野吉論他　2016　煤ヶ谷古在家遺跡第２地点　県道 64 号(伊勢原津久井)古在家バイパス工事に伴う発掘調査　神奈川県文化財調査報告書 37　株式会社玉川文化財研究所

# 弥生時代後期竪穴住居の研究（1）

弥生時代研究プロジェクトチーム

## はじめに

当研究プロジェクトチームでは、かながわ考古学財団の研究紀要を刊行する以前、県立埋蔵文化財センターによる『かながわの考古学』において、「弥生時代竪穴住居の基礎的研究」と題し、神奈川県域における弥生時代住居の検出実態を明らかにするべく、調査事例の集成・分析を行った。今から20年以上前に行われたこの研究が、弥生時代研究プロジェクトチームとして最初の集成作業であり、また当時の県内弥生時代集落と竪穴住居址の調査事例全体の趨勢を示すものであった。その集成・分析作業の対象となったのは、129遺跡2277軒であり、後述する現時点でのデータ全体の数と比較すると隔世の感がある(註1)。今回の研究は、後期の竪穴住居についての総合的な分析を指向した、前回の研究を継続するものとして行っている。

## 資料の集成と分析の方法

資料集成の対象は、前回の集成以降～2015(平成27)年度中に刊行された報告書に掲載されたデータとし、県内全域を検索し、145遺跡5268軒の竪穴住居址を分析の対象とすることが出来た(第1図・第1表)。

時期は弥生時代後期～古墳時代初頭を対象とし、竪穴住居址として調査されたものを集成した(註2)。

分析をすすめるにあたっては、データカード(第2図)に基づく資料の集成作業を年度を通じて行ったが、今回は集成・分析作業の概要と、データを収集した遺跡の一覧を掲載するに留める。

データベースの作成にあたり、データの収集・データカードの作成を地域毎に分担した。カードに記載する項目と基準は、以下の通り前回の研究に準じるが、一部を省略・改変している。

**(1)対象遺跡**　報告書又は概報が刊行されていて、住居址個別の実測図、事実記載があるものを記載した。

**(2)時　期**　原則として、報告書に記載された時期比定を基準とした。年代観は前回の研究と同じで、Ⅰ．条痕(弥生時代初頭・前期～中期前葉)、Ⅱ．須和田(中期中葉・註3)、Ⅲ．宮ノ台(中期後葉)、Ⅳ．後期、Ⅴ．庄内併行(弥生時代末～古墳時代初頭)としている。今回の対象は、このうちⅣ．Ⅴ期である。

**(3)遺構の形態等**　平面形態、長軸・短軸・壁高など実測図を計測することによる規格値、主軸方位の角度、付帯施設の内容等を記載した。前回との変更点は、「主柱穴」と「ピット」を統合し炉・貯蔵穴・周溝などの記載を選択する方式に簡略化した。指数表示については、前回の継続とする。

**(4)出土遺物**　前回の記載実態に基づき、土器は壺・甕・高坏等の主要器種のほか、鉢・器台・坩・その他各器種の有る無しを選択して記載する方式に変更した。石器は同様に、各種石斧や砥石・磨石・敲石・その他の器種を選択方式に変更。鉄器・青銅器・土製品・その他は従前の通りとした。

**(5)文　献**　データの収集元の文献については、各カードに記入したものを、今回の第1表に各遺跡ごとに刊行団体・刊行年・出典として記載した。

**(6)遺跡所在地**　市区町村の自治体名に加え、行政区や町名までの記載を追加した。旧国名における相模・武蔵と郡名の記載については従前と同じである。

**(7)立　地**　遺跡の立地については、報告書等の記載と分布図上の地域区分を勘案して記載した。但し地図上の山地に含まれる遺跡は現時点で確認出来ていないため、データカード中の記載項目に入れていない。ま

た砂丘は地図上の低地(砂丘・低湿地・沖積微高地を包含する)に含まれている。

**(8)水　系**　前回の研究と同様に、県内の主要水系を九つに区分した。東から多摩川水系、鶴見川水系、大岡川・帷子川水系、三浦半島一帯、柏尾川水系、境川水系、相模川水系、金目川(水無川)水系、酒匂川水系、である。

資料集成のデータ計測に使用する図の縮尺は、原則として実測図 1/60 とした。分布図の遺跡番号は新たな番号を付し、追加データの遺跡一覧と対照させている。データ集成の分担は、それぞれ川崎市(新開)、横浜市(飯塚)、逗子市・葉山町・横須賀市・三浦市(宍戸)、鎌倉市・藤沢市・寒川町・茅ヶ崎市(後川)、海老名市・綾瀬市・大和市・座間市・相模原市中央区及び南区(池田)、相模原市緑区・厚木市・愛川町・清川村・伊勢原市・秦野市・平塚市・大磯町・二宮町(渡辺)、山北町・松田町・開成町・大井町・中井町・小田原市・南足柄市・真鶴町・湯河原町・箱根町(戸羽)とした。

## おわりに

前回の研究では、竪穴住居の構造論に基づいた各資料の計測データとの比較・検討を行ったほか、立地・水系と時期別住居址数の変遷・傾向等からみた分布論について分析・検討した。今年度以降の作業としては、引き続き資料の集成とデータの収集を継続すると共に分析を行い、数カ年をかけて比較・検討することとしたい。なお今回の執筆・編集はプロジェクトメンバーによる討議の結果に基づき、渡辺が行った。また遺跡分布図は新開が作成し、データカードの修正・加筆は飯塚・宍戸が行っている。

### 註

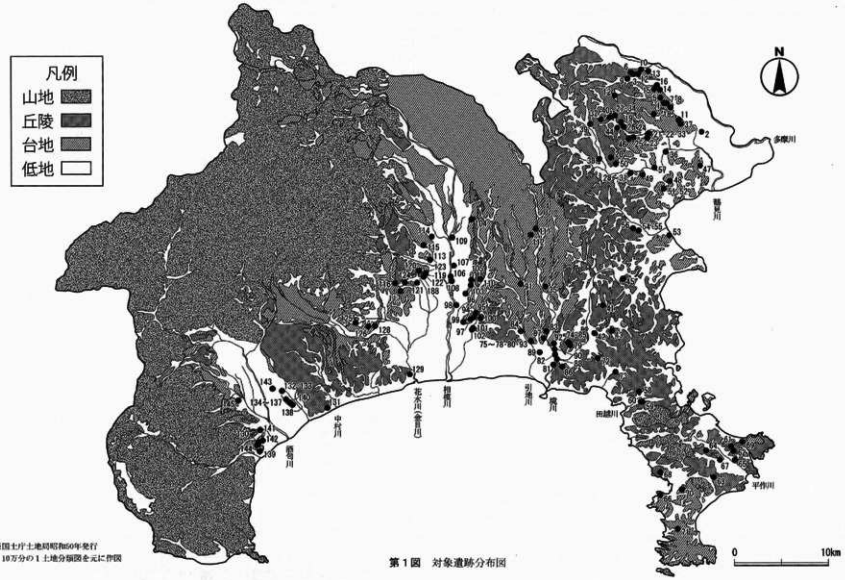
(註1)既に前回の研究時点で、調査事例の積み重ねによる影響の大きさについても認識しており、こうした「集成的検討は何年か毎に更新される必要を痛感」していた(弥生時代研究プロジェクトチーム 1994)。

(註2)竪穴住居址として調査された事例のほか、近年では「竪穴状遺構」と呼称する報告が存在する。ここでは、そうした遺構の評価も含め、集成対象に入れていない。また前回の研究の時点で、低地の住居や竪穴以外の形態をとる住居址の存在について今後の課題として触れているが、今回の集成には含めていない事をお断りしておく。

(註3)近年の研究では「須和田式」土器の呼称は限定的に扱われ、「所謂」を付けて中期中葉段階の代名詞的に使用される事の方が多い。南関東地方を大まかに東西に分け、西側を中里式、東側を池上式として取り扱う事が現今での趨勢であるが、今回は以前の研究を継承する形で、あえて同一の呼称を使用している。

### 参考文献

弥生時代研究プロジェクトチーム 1994　「弥生時代竪穴住居の基礎的研究(1)」『神奈川の考古学の諸問題　かながわの考古学』第4集　神奈川県立埋蔵文化財センター




第１図　対象遺跡分布図

※国土庁土地局昭和60年発行
10万分の１土地分類図を元に作図

# 弥生時代の竪穴住居調査カード

No.　　－　　－

| 項目 | 細目 | | 項目 | 細目 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 遺跡名・遺構番号 | 遺跡群　　遺跡<br>第　　号竪穴住居址 | | 出土遺物 | 土器 | 壺 ・ 甕 ・ 高坏<br>鉢 ・ 器台 ・ 坩 ・ その他（　　） |
| 時期 | Ⅰ条痕　Ⅱ須和田　Ⅲ宮ノ台　Ⅳ後期　Ⅴ庄内　？不明 | | | 石器 | 石 斧（　　）・ 砥 石<br>磨り石 ・ 敲き石 ・ その他（　　） |
| 形態 | 円 ・ 楕円 ・ 隅丸(長)方形 ・ (長)方形 | 指数表示 | | 鉄器 | |
| 残存状況 | 完 形 ・ 約 1／　残 存 | | | 青銅器 | |
| 長軸 | m | 備考 | | 土製品 | |
| 短軸 | m | | | その他 | |
| 主軸方位 | N－　°－ E ・ W | | 文献 | 発行者 | |
| 主柱穴 | 数:　（　本中　本残存 ・ 不明　） | | | 刊行年月日 | 年　月 |
| 炉 | 数:　地床炉 ・ 枕石炉 ・ 枕粘土炉 ・ 粘土板炉 ・その他(　　) | | | 書名 | |
| 入口穴・梯子穴 | 数:　備考 | | | | |
| 貯蔵穴 | 数:　備考 | | | 執筆者 | |
| 周溝 | 全 周 ・ 部 分 ・ 無 し | | 遺跡所在地 | 市　区　町 | |
| 拡張 | 有 (回数　回）・ 無 | | | 旧国 | 武 蔵 ・ 相 模　郡 |
| 重複 | 有 ・ 無　旧 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 新 | | 立地 | 丘陵・台地・砂丘・低地・その他（　）標高　m | |
| 掘り方 | 有 ・ 無 | | 水系 | 本 流：　川 | |
| 焼失 | 有 ・ 無　被熱痕 ・ 焼土 ・ 炭化材 ・ 炭化物 | | | 該当河川：　川　上流 ・ 中流 ・ 下流 ・ 河口 | |
| 埋没過程 | 自 然 ・ 人 為 | | 備考 | | |
| 記入者 | | | | | |

公益財団法人 かながわ考古学財団

第2図 弥生時代の竪穴住居調査カード

**第１表　神奈川県内における弥生時代の竪穴住居検出遺跡一覧表**

| No. | 遺跡名 | 軒数 | 刊行団体 | 刊行年 | 出典 |
|---|---|---|---|---|---|
| 川崎市 | | | | | |
| 1 | 影向寺 | 3 | 川崎市教育委員会 | 2007 | 『川崎市高津区影向寺遺跡第11次発掘調査報告書』『川崎市文化財調査収録43』 |
| | 影向寺 | 3 | 玉川文化財研究所 | 2007 | 『影向寺遺跡第12次調査発掘調査報告』 |
| 2 | 加瀬台古墳群 | 1 | 川崎市市民ミュージアム | 1996 | 『加瀬台古墳群の研究Ⅰ』 |
| | 加瀬台古墳群 | 2 | 川崎市市民ミュージアム | 1997 | 『加瀬台古墳群の研究Ⅱ』 |
| 3 | 下原 | 2 | 川崎市市民ミュージアム | 2003 | 『下原遺跡』 |
| 4 | 緑ヶ丘霊園内 | 7 | 緑ヶ丘霊園内遺跡発掘調査団 | 1995 | 『緑ヶ丘霊園内遺跡発掘調査報告書』 |
| 5 | 三荷座前 | 1 | 三荷座前遺跡発掘調査団 | 1997 | 『三荷座前遺跡発掘調査報告書』 |
| 6 | 長尾台北 | 11 | 長尾台北遺跡発掘調査団 | 1997 | 『長尾台北遺跡発掘調査報告書』 |
| 7 | 千年伊勢山台北 | 3 | 千年伊勢山台北発掘調査団 | 2000 | 『千年伊勢山台北遺跡調査報告書』 |
| 8 | 千歳伊勢山台 | 11 | 川崎市教育委員会 | 2005 | 『千歳伊勢山台遺跡第１～８次発掘調査報告書』 |
| | 千歳伊勢山台 | 20 | 川崎市教育委員会 | 2008 | 『千歳伊勢山台遺跡第９・10・11次発掘調査報告書』 |
| 9 | 東泉寺上 | 4 | 有限会社　吾妻考古学研究所 | 2009 | 『東泉寺上遺跡B地点発掘調査報告書』 |
| 10 | 久地伊屋之免 | 6 | 日本窯業史研究所 | 2008 | 『久地伊屋之免遺跡第２地点』 |
| 11 | 井田中原 | 1 | 井田中原遺跡発掘調査団 | 2003 | 『井田中原遺跡B地点発掘調査報告書』 |
| 12 | 犬蔵地区遺跡群 | 8 | 日本窯業史研究所 | 2004 | 『犬蔵地区遺跡群』 |
| 13 | 津田山－９ | 4 | 津田山－９遺跡発掘調査団 | 2004 | 『津田山－９遺跡発掘調査報告書』 |
| 14 | 末長 | 8 | 玉川文化財研究所 | 2005 | 『末長遺跡第２地点発掘調査報告書』 |
| | 末長 | 7 | 玉川文化財研究所 | 2009 | 『末長遺跡第２地点発掘調査報告書』 |
| 15 | 末長向台 | 4 | 宮崎No.４遺跡発掘調査団 | 2003 | 『末長向台遺跡発掘調査報告書』 |
| 16 | 末長久保台北 | 3 | 有限会社　吾妻考古学研究所 | 2009 | 『末長久保台北遺跡第２次発掘調査報告書』 |
| 17 | 十三番提西 | 4 | 有限会社　吾妻考古学研究所 | 2005 | 『十三番提西遺跡第２次発掘調査報告書』 |
| 18 | 子母口根方 | 1 | 川崎市教育委員会 | 2009 | 『子母口根之台遺跡第４地点　子母口根方遺跡第３地点』『川崎市埋蔵文化財報告書第３集・第４集』 |
| 横浜市 | | | | | |
| 19 | Ｅ５遺跡 | 42 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会 | 2001 | 『Ｅ５遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告27 |
| 20 | 四枚塚遺跡 | 13 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会 | 2003 | 『四枚塚遺跡・川向原遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告32 |
| 21 | 北川貝塚 | 68 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会 | 2007 | 『北川貝塚』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告39 |
| 22 | 北川妻の上遺跡 | 75 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会 | 2009 | 『北川妻の上遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告42 |
| 23 | 大原遺跡 | 46 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会 | 2011 | 『大原遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告44 |
| 24 | 権田原遺跡 | 12 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会 | 2014 | 『権田原遺跡弥生時代後期～古墳時代前期編』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告47 |
| 25 | 綱崎山 | 7 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会 | 2004 | 『綱崎山遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告36 |
| 26 | 八幡山 | 26 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会 | 2002 | 『八幡山遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告31 |
| 27 | 開禅地 | 49 | 観福寺北遺跡発掘調査団 | 1997 | 『観福寺北遺跡群　開禅地遺跡』 |
| 28 | 宿根東 | 8 | 大成エンジニアリング | 2012 | 『宿根東遺跡－小机町２番１地点－』 |
| 29 | 宿根北 | 27 | 宿根北遺跡発掘調査団 | 1997 | 『宿根北遺跡発掘調査報告書』 |
| 30 | 宿根西 | 8 | 宿根西遺跡発掘調査団 | 1999 | 『宿根西遺跡発掘調査報告書』 |
| 31 | 宿根南 | 2 | 宿根南遺跡発掘調査団 | 1999 | 『宿根南遺跡発掘調査報告書』 |
| 32 | 赤田地区 | 11 | 日本窯業史研究所 | 1998 | 『横浜市青葉区赤田地区遺跡群集落編Ⅱ』 |
| 33 | 北川貝塚南 | 8 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団 | 1997 | 『曽屋の上遺跡・西谷戸の上遺跡・北川貝塚南遺跡』 |
| 34 | 開禅地 | 49 | 観福寺北遺跡発掘調査団 | 1997 | 『開禅地遺跡発掘調査報告書』 |
| 35 | 下飯田林 | 21 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団 | 1997 | 『下飯田林・中ノ宮・草木遺跡発掘調査報告』 |
| 36 | 平尻台 | 38 | 平尻台遺跡調査団 | 1991 | 『横浜市港北区平尻台遺跡埋蔵文化財本調査概要』 |
| | | 19 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団 | 1999 | 『平尻台遺跡発掘調査報告』 |
| | | 4 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団 | 2003 | 『平尻台遺跡（防火水槽設置地点）発掘調査報告』 |
| 37 | 下田西 | 2 | 下田西遺跡発掘調査団 | 2002 | 『下田西遺跡発掘調査報告書』 |
| 38 | 青砥山ノ下 | 2 | 山ノ下遺跡発掘調査団 | 2002 | 『青砥山ノ下遺跡』 |
| 39 | 寺下 | 6 | 日本窯業史研究所 | 2003 | 『寺下遺跡』 |
| 40 | 釈迦堂 | 5 | 日本窯業史研究所 | 2003 | 『釈迦堂遺跡２地区』 |
| 41 | 舞岡大原 | 3 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団 | 2004 | 『西見谷西遺跡・北川貝塚南遺跡・舞岡大原遺跡発掘調査報告』 |
| 42 | 笠間中央公園 | 13 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団 | 2003 | 『笠間中央公園遺跡発掘調査報告』 |
| 43 | 桂台北 | 2 | 桂台北遺跡発掘調査団 | 2004 | 『桂台北遺跡発掘調査報告書』 |
| 44 | 矢崎山西 | 17 | 山武考古学研究所 | 2004 | 『矢崎山西遺跡』 |
| 45 | 芹が谷西丁目 | 34 | 株式会社盤古宝 | 2006 | 『芹が谷西丁目遺跡－第１・２地点－』 |
| 46 | 茅ヶ崎城址 | 1 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団 | 2006 | 『茅ヶ崎城址埋蔵文化財本発掘調査報告』 |
| 47 | 上台 | 3 | 玉川文化財研究所 | 2007 | 『上台遺跡（上東第一丁目954番１所在）発掘調査報告書』 |
| 48 | 富士塚一丁目 | 1 | 玉川文化財研究所 | 2008 | 『富士塚一丁目遺跡発掘調査報告書』 |
| 49 | 小机城王山 | 2 | 小机城王山遺跡発掘調査団 | 1997 | 『小机城王山遺跡発掘調査報告書』 |

| No. | 遺跡名 | 軒数 | 刊行団体 | 刊行年 | 出典 |
|---|---|---|---|---|---|
| 50 | 荻堀不動原遺跡 | 1 | 荻堀不動原遺跡発掘調査団 | 2007 | 『荻堀不動原遺跡発掘調査報告書』 |
| 51 | 鶴原大原 | 1 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2004 | 『鶴原大原遺跡』 かながわ考古学財団調査報告175 |
| 52 | 鶴原大原北 | 1 | 有限会社茅秦考古学研究所 | 2007 | 『鶴原大原北遺跡』 |
| 53 | 紅葉ヶ丘 | 1 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2005 | 『紅葉ヶ丘遺跡』 かながわ考古学財団調査報告179 |
| 54 | 明神台 | 14 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2006 | 『明神台遺跡・明神台北遺跡』 かながわ考古学財団調査報告192 |
| | | 22 | 財団法人横浜市ふるさと歴史財団 | 2006 | 『明神台遺跡A地区本発掘調査報告』 |
| 55 | 明神台北 | 22 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2006 | 『明神台遺跡・明神台北遺跡』 かながわ考古学財団調査報告192 |
| 56 | 仏向 | 4 | 株式会社整古堂 | 2012 | 『仏向遺跡』 |
| | | 29 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2012 | 『仏向貝塚・仏向遺跡・仏向町遺跡』 かながわ考古学財団調査報告279 |
| 57 | 新羽浅間神社 | 5 | 公益財団法人かながわ考古学財団 | 2013 | 『新羽浅間神社遺跡』 かながわ考古学財団調査報告293 |
| **逗子市** | | | | | |
| 58 | 池子遺跡群 | 1 | 財団法人かながわ考古学財団 | 1997 | 『池子遺跡群Ⅳ』 かながわ考古学財団調査報告26 |
| | 池子遺跡群 | 2 | 財団法人かながわ考古学財団 | 1997 | 『池子遺跡Ⅴ』 かながわ考古学財団調査報告27 |
| | 池子遺跡群 | 2 | 財団法人かながわ考古学財団 | 1997 | 『池子遺跡Ⅴ』 かながわ考古学財団調査報告27 |
| | 池子遺跡群 | 1 | 財団法人かながわ考古学財団 | 1999 | 『池子遺跡Ⅶ』 かながわ考古学財団調査報告44 |
| | 池子遺跡群 | 7 | 財団法人かながわ考古学財団 | 1999 | 『池子遺跡Ⅹ』 かながわ考古学財団調査報告46 |
| 59 | 内藤屋敷遺跡(No.27) | 1 | 逗子市教育委員会 | 2009 | 『内藤屋敷遺跡(No.27)』逗子市埋蔵文化財緊急調査報告書6 |
| | | 3 | 沼南南台遺跡発掘調査団 | 2004 | 『内藤屋敷遺跡(No.27)』逗子市埋蔵文化財緊急調査報告書6 |
| 60 | 逗子市No.118遺跡 | 76 | 埋蔵山遺跡群発掘調査団 | 2000 | 『逗子市埋蔵山遺跡群発掘調査概要報告書』 |
| **横須賀市** | | | | | |
| 61 | 三足谷遺跡 | 21 | 横須賀市吉井池田地区埋蔵文化財発掘調査団 | 1997 | 『吉井・池田地区遺跡群』 吉井池田土地区画整理事業に伴う調査報告書 2 |
| 62 | 上吉井南遺跡 | 7 | 横須賀市吉井池田地区埋蔵文化財発掘調査団 | 1997 | 『吉井・池田地区遺跡群』 吉井池田土地区画整理事業に伴う調査報告書 2 |
| 63 | 大塚西遺跡 | 4 | 横須賀リゾーチパーク計画基盤整備事業地内埋蔵文化財発掘調査団 | 1997 | 『横須賀リゾーチパーク計画基盤整備事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』 |
| 64 | 米の谷遺跡 | 6 | 山武考古学研究所 | 1998 | 『米の谷遺跡発掘調査報告書』 |
| 65 | 吉井城山遺跡 | 9 | 横須賀市教育委員会 | 1999 | 『吉井城山』 横須賀市文化財調査報告書第34集 |
| 66 | 長井台地遺跡群内原遺跡P地区 | 2 | 横須賀市教育委員会 | 2001 | 『長井台地遺跡群内原遺跡P地区』 横須賀市文化財調査報告書第36集 |
| | 岡遺跡群内原遺跡Q地区～S地区 | 1 | 横須賀市教育委員会 | 2002 | 『長井台地遺跡群内原遺跡Q地区～S地区調査報告』 横須賀市文化財調査報告書第37集 |
| | 岡遺跡群内原遺跡T地区 | 1 | 横須賀市教育委員会 | 2004 | 『内原遺跡T地区』 横須賀市文化財調査報告書第40集 |
| 67 | 佐原城跡 | 43 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2002 | 『佐原城跡遺跡』 かながわ考古学財団調査報告130 |
| 68 | 佐島の丘遺跡群 | 298 | 佐島の丘埋蔵文化財発掘調査団 | 2003 | 『佐島の丘遺跡群』 |
| 69 | 矢ノ津坂遺跡 | 34 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2006 | 『高尾横穴墓群・矢ノ津坂遺跡』 かながわ考古学財団調査報告198 |
| 70 | 船久保遺跡 | 2 | 玉川文化財研究所 | 2014 | 『船久保遺跡』 神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 19 |
| **三浦市** | | | | | |
| 71 | 赤坂遺跡(第2次) | 3 | 三浦市教育委員会 | 1994 | 『赤坂遺跡―第2次・第4次・第5次・第6次・第7次調査地点の報告―』 三浦市埋蔵文化財調査報告書第3集 |
| | 赤坂遺跡(第6次) | 3 | 三浦市教育委員会 | 1994 | 『赤坂遺跡―第2次・第4次・第5次・第6次・第7次調査地点の報告―』 三浦市埋蔵文化財調査報告書第3集 |
| | 赤坂遺跡(第7次) | 1 | 三浦市教育委員会 | 1994 | 『赤坂遺跡―第2次・第4次・第5次・第6次・第7次調査地点の報告―』 三浦市埋蔵文化財調査報告書第3集 |
| | 赤坂遺跡(第18次) | 3 | 三浦市教育委員会 | 2001 | 『赤坂遺跡―個人専用住宅新築工事に伴う第18次調査地点の発掘調査』 三浦市埋蔵文化財調査報告書第6集 |
| **鎌倉市** | | | | | |
| 72 | 台山藤原治遺跡(第3次) | 1 | 台山遺跡発掘調査団 | 1993 | 『台山藤原治遺跡第3次調査報告』 |
| | 台山藤原治遺跡(第2次) | 1 | 台山遺跡発掘調査団 | 1996 | 『台山藤原治遺跡第2次調査報告』 |
| 73 | 大蔵幕府周辺遺跡雪ノ下西丁目620番5地点 | 14 | 鎌倉市教育委員会 | 1998 | 『大蔵幕府周辺遺跡群(No.49)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14 |
| | 大蔵幕府周辺遺跡雪ノ下西丁目581番5地点 | 29 | 鎌倉市教育委員会 | 2007 | 『大蔵幕府周辺遺跡群』 鎌倉遺跡調査会報告第47集 |
| **藤沢市** | | | | | |
| 74 | 渡内遺跡 | 13 | 渡内遺跡群発掘調査団 | 1993 | 『渡内遺跡発掘調査報告書』 |
| 75 | 稲荷台地遺跡群 | 69 | 稲荷台地遺跡群発掘調査団 | 1996 | 『稲荷台地遺跡群発掘調査報告書C・D地点F地点S地点 』 |
| 76 | 稲荷台地遺跡群石原谷遺跡第3地点 | 14 | 玉川文化財研究所 | 2005 | 『稲荷台地遺跡群石原谷遺跡第3地点』 |
| 77 | 稲荷台地遺跡群石名坂遺跡第4地点 | 8 | 玉川文化財研究所 | 2005 | 『稲荷台地遺跡群発掘調査報告書 中郷遺跡第1地点 石名坂遺跡第4地点』 |
| 78 | 稲荷台地遺跡群石名坂遺跡(第7次) | 43 | 大成エンジニアリング埋蔵文化財調査部 | 2012 | 『稲荷台地遺跡群石名坂遺跡第7次調査』 |
| 79 | 二伝寺畑遺跡 | 4 | 二伝寺畑遺跡発掘調査団 | 1996 | 『二伝寺畑遺跡発掘調査報告書』 |
| | | 17 | 藤沢市No.215遺跡群発掘調査団 | 1999 | 『二伝寺畑(No.215)遺跡発掘調査報告書』 |
| 80 | 藤沢市No.61遺跡 | 2 | 藤沢市No.61遺跡群発掘調査団 | 1997 | 『No.61遺跡』 |

| No. | 遺跡名 | 軒数 | 刊行団体 | 刊行年 | 出典 |
|---|---|---|---|---|---|
| 81 | 片瀬大原太遺跡 | 2 | 大原太遺跡発掘調査団 | 1997 | 『片瀬大原太遺跡発掘調査報告書』 |
| 82 | 若花山遺跡 | 9 | 斉藤埴役 | 1998 | 『藤沢市No.36(若花山)遺跡発掘調査報告書』 |
| 83 | 立石遺跡 | 2 | 藤沢市No.393遺跡群発掘調査団 | 1997 | 『藤沢市No.393(立石)遺跡発掘調査報告書』 |
| 84 | 藤沢市No.211遺跡 | 7 | 藤沢市No.211遺跡群発掘調査団 | 1997 | 『藤沢市No.211遺跡発掘調査報告書』 |
| 85 | 本在寺遺跡 | 2 | 本在寺遺跡群発掘調査団 | 1998 | 『本在寺遺跡(No.267遺跡)』 |
| 86 | 川名清水遺跡 | 82 | 清水遺跡発掘調査団 | 2000 | 『藤沢市川名清水遺跡発掘調査報告書』 |
| 87 | 藤沢市No.431遺跡 | 7 | 藤沢市No.431遺跡群発掘調査団 | 2000 | 『藤沢市No.431遺跡発掘調査報告書』 |
| 88 | 藤沢市No.265遺跡 | 1 | 藤沢市No.265遺跡群発掘調査団 | 2001 | 『藤沢市No.265遺跡発掘調査報告書』 |
| 89 | 鵠沼横須賀遺跡 | 1 | 玉川文化財研究所 | 2005 | 『鵠沼横須賀遺跡発掘調査報告書』 |
| 90 | 御幣山遺跡 | 16 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2006 | 『御幣山遺跡』 かながわ考古学財団調査報告202 |
| 91 | 御幣山遺跡（第5次調査） | 14 | 吾妻考古学研究所 | 2007 | 『御幣山遺跡(第5次調査)』 |
| 91 | 下諏訪ノ棚地区第2地点 | 2 | 玉川文化財研究所 | 2009 | 『藤沢市北部第二(三地区)土地区画整理事業区域内遺跡群下諏訪ノ棚地区第4地点　下諏訪ノ棚地区第2地点』 |
| 92 | 西富山谷遺跡 | 9 | 玉川文化財研究所 | 2012 | 『西富山谷遺跡』 |
| 93 | 稲荷台地引地塩遺跡第3地点 | 14 | 玉川文化財研究所 | 2012 | 『稲荷台地引地塩遺跡第3地点』 |
| **寒川町** | | | | | |
| 94 | 岡田遺跡 | 2 | 岡田遺跡発掘調査団 | 1993 | 『神奈川県高座郡寒川町岡田遺跡範囲確認調査報告書』 |
| 95 | 大蔵東原遺跡 | 2 | 大蔵東原遺跡発掘調査団 | 1997 | 『大蔵東原遺跡発掘調査報告書第7・8次』 |
| 96 | 倉見才戸遺跡 | 3 | 倉見才戸遺跡発掘調査団 | 1999 | 『倉見才戸遺跡発掘調査報告書第3次調査』 |
| | 倉見才戸遺跡 | 12 | 倉見才戸遺跡発掘調査団 | 2001 | 『倉見才戸遺跡発掘調査報告書第4次調査』 |
| 97 | 高田遺跡 | 27 | 高田遺跡発掘調査団 | 2003 | 『高田遺跡発掘調査報告書』 |
| 98 | 宮山中里遺跡 | 4 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2004 | 『宮山中里遺跡・宮山台畑遺跡』 かながわ考古学財団調査報告170 |
| 99 | 岡田西河内遺跡 | 2 | 吾妻考古学研究所編 | 2005 | 『神奈川県高座郡寒川町岡田西河内遺跡』 |
| | 岡田西河内遺跡 | 15 | 吾妻考古学研究所編 | 2012 | 『岡田西河内遺跡　寒川駅北口地区土地区画整理事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査報告書』 |
| **茅ヶ崎市** | | | | | |
| 100 | 臼久保遺跡 | 47 | 財団法人かながわ考古学財団 | 1999 | 『臼久保遺跡』 かながわ考古学財団調査報告60 |
| 101 | 下寺尾西方A遺跡 | 37 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2003 | 『下寺尾西方A遺跡』 かながわ考古学財団調査報告157 |
| 102 | 小出川河川改修事業間道遺跡 | 6 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2010 | 『小出川河川改修事業間道遺跡群Ⅲ』 かながわ考古学財団調査報告251 |
| **海老名市** | | | | | |
| 103 | 本郷遺跡（X） | 425 | 本郷遺跡調査団 | 1995 | 『海老名本郷(X)』 |
| | 本郷遺跡（XⅣ） | 20 | 本郷遺跡調査団 | 1996 | 『海老名本郷(XⅣ)』 |
| | 本郷遺跡（XⅤ） | 6 | 本郷遺跡調査団 | 1998 | 『海老名本郷(XⅤ)』 |
| | 本郷遺跡（XⅥ） | 25 | 本郷遺跡調査団 | 1998 | 『海老名本郷(XⅥ)』 |
| 104 | 相模国分尼寺北方遺跡　第25次調査 | 1 | | 2002 | 『相模国分尼寺北方遺跡　第25次調査』 |
| | 相模国分尼寺北方遺跡　第30次調査 | 4 | プラプマン | 2007 | 『相模国分尼寺北方遺跡　第30次調査』 |
| 105 | 本郷中谷津遺跡第14次調査 | 1 | 微古堂 | 2007 | 『本郷中谷津遺跡　第14次調査報告書』 |
| | 本郷中谷津遺跡第16次調査 | 5 | 微古堂 | 2011 | 『本郷中谷津遺跡　第16次調査報告書』 |
| 106 | 中野桜町遺跡 | 90 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2009 | 『中野桜町遺跡』 かながわ考古学財団調査報告231 |
| 107 | 社家宇治山遺跡 | 30 | 公益財団法人かながわ考古学財団 | 2011 | 『社家宇治山遺跡』 かながわ考古学財団調査報告264 |
| 108 | 勝瑞遺跡 | 1 | 公益財団法人かながわ考古学財団 | 2011 | 『勝瑞遺跡Ⅱ』 かながわ考古学財団調査報告277 |
| 109 | 河原口坊中遺跡（第1次調査） | 292 | 公益財団法人かながわ考古学財団 | 2014 | 『河原口坊中遺跡　第1次調査』 かながわ考古学財団調査報告304 |
| | 河原口坊中遺跡（第2次調査） | 148 | 公益財団法人かながわ考古学財団 | 2015 | 『河原口坊中遺跡　第2次調査』 かながわ考古学財団調査報告307 |
| | 河原口坊中遺跡（第4次調査） | 93 | 公益財団法人かながわ考古学財団 | 2014 | 『河原口坊中遺跡　第4次調査』 かながわ考古学財団調査報告300 |
| **綾瀬市** | | | | | |
| 110 | 神崎遺跡 | 3 | 綾瀬市教育委員会 | 2010 | 『神崎遺跡範囲確認調査報告』綾瀬市埋蔵文化財調査報告7 |
| **大和市** | | | | | |
| 111 | 大塚戸遺跡 | 11 | 大和市教育委員会・大塚戸遺跡B地点発掘調査団 | 1994 | 『大塚戸遺跡』 大和市文化財調査報告書第60集 |
| 112 | 鶴営高座渋谷団地内遺跡 | 10 | 鶴営高座渋谷団地内遺跡発掘調査団 | 1995 | 『鶴営高座渋谷団地内遺跡』 |
| **厚木市** | | | | | |
| 113 | 宮の里遺跡 | 192 | 宮の里遺跡発掘調査団 | | 『宮の里遺跡』 |
| 114 | 戸室子ノ神遺跡 | 92 | 子ノ神遺跡調査団<br>厚木市教育委員会 | 1998 | 『子ノ神(Ⅳ)　厚木市戸室所在子ノ神遺跡の調査』 |
| 115 | 恩名神原遺跡 | 48 | 恩名神原遺跡調査団 | 2000 | 『恩名神原遺跡発掘調査報告書』 |
| **伊勢原市** | | | | | |
| 116 | 硯止橋遺跡 | 4 | 伊勢原市No.128遺跡調査団 | 1998 | 『硯止橋遺跡　県道63号(相模原大磯線)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』 |
| 117 | 池端地区遺跡群 | 1 | 池端地区遺跡群発掘調査団 | 2000 | 『池端地区遺跡群発掘調査報告書』 |

| No. | 遺跡名 | 軒数 | 刊行団体 | 刊行年 | 出典 |
|---|---|---|---|---|---|
| 118 | 石田・外堀遺跡第2地点 | 18 | 有限会社 鎌倉遺跡調査会 | 2006 | 『石田・外堀遺跡第2地点発掘調査報告書』 |
| 119 | 石田・源太夫遺跡第5地点 | 3 | 石田・源太夫遺跡第5地点発掘調査団 | 2003 | 『石田・源太夫遺跡第5地点　－平成14年度 市道89号線埋蔵文化財調査－』 |
| | 石田・源太夫遺跡第VI地点 | 2 | 株式会社盤古堂 | 2007 | 『石田・源太夫遺跡第VI地点』 |
| 120 | 石田・大久保遺跡第2地点 | 28 | 有限会社 鎌倉遺跡調査会、石田・大久保遺跡第2地点発掘調査団 | 2003 | 『石田・大久保遺跡第2地点発掘調査報告書　－平成14年度都市計画道路石田小稲葉線に係る埋蔵文化財調査－』 |
| 121 | 高倉・宮ノ越遺跡 | 3 | 株式会社玉川文化財研究所 伊勢原市教育委員会 | 2001 | 『いせはらの遺跡Ⅱ　高倉・宮ノ越遺跡』 |
| | 高倉・宮ノ越遺跡第二次調査 | 6 | 株式会社アーク・フィールドワークシステム／株式会社横浜技術コンサルタント | 2007 | 『高倉・宮ノ越遺跡第二次調査 発掘調査報告書』 |
| 122 | 石田・緑谷遺跡第6地点 | 1 | 国際文化財株式会社 | 2012 | 『石田・緑谷遺跡第6地点　サービス付き高齢者向け住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査』 |
| 123 | 石田・峯遺跡第Ⅱ地点 | 21 | 株式会社玉川文化財研究所 | 2004 | 『石田・峯遺跡第Ⅱ・Ⅲ地点発掘調査報告書　平成13年度市道89号線整備工事・平成15年度愛甲石田駅南口広場整備工事に伴う発掘調査』 |
| | 石田・峯遺跡第IV地点 | 8 | 株式会社玉川文化財研究所 | 2005 | 『石田・峯遺跡第IV地点発掘調査報告書　平成16年度愛甲石田駅南口広場整備工事に伴う発掘調査』 |
| 124 | 下糟屋・丸山遺跡第6地点（下糟屋D地区） | 8 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2010 | 『下糟屋・丸山遺跡（第6地点）　伊勢原都市計画 成瀬第二特定土地区画整理事業に伴う発掘調査』 かながわ考古学財団発掘調査報告260 |
| 秦野市 | | | | | |
| 125 | 小側遺跡 | 14 | 財団法人かながわ考古学財団 | 1997 | 『小側遺跡(No.28)　東北久保・鳥居松遺跡(No.29)』 かながわ考古学財団調査報告23 |
| 平塚市 | | | | | |
| 126 | 王子ノ台遺跡 | 142 | 東海大学校地内遺跡調査団 | 2000 | 『王子ノ台遺跡』 |
| 127 | 原口遺跡 | 72 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2001 | 『原口遺跡Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告104 |
| 128 | 真田・北金目遺跡群1区 | 6 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 1999 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』1 |
| | 真田・北金目遺跡群2区 | 6 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 1999 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』1 |
| | 真田・北金目遺跡群5区 | 6 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2001 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』2 |
| | 真田・北金目遺跡群6（A～C）区 | 52 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2001 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』2 |
| | 真田・北金目遺跡群7区 | 9 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2001 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』2 |
| | 真田・北金目遺跡群6（D～K）区 | 92 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2003 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』3 |
| | 真田・北金目遺跡群8B区 | 65 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2003 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』3 |
| | 真田・北金目遺跡群13区 | 6 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2003 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』3 |
| | 真田・北金目遺跡群8C区 | 99 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2003 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』3 |
| | 真田・北金目遺跡群8D区 | 1 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2003 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』3 |
| | 真田・北金目遺跡群10区 | 1 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2002 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』4 |
| | 真田・北金目遺跡群22区 | 46 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2002 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』4 |
| | 真田・北金目遺跡群23区 | 6 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2002 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』4 |
| | 真田・北金目遺跡群30B区 | 5 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2002 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』4 |
| | 真田・北金目遺跡群5G・H・J区 | 13 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2008 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』6 |
| | 真田・北金目遺跡群8G区 | 8 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2008 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』6 |
| | 真田・北金目遺跡群8H区 | 9 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2008 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』6 |
| | 真田・北金目遺跡群12D区 | 3 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2008 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』6 |
| | 真田・北金目遺跡群29B区 | 20 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2008 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』6 |
| | 真田・北金目遺跡群30A・D区 | 65 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2008 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』6 |
| | 真田・北金目遺跡群32A区 | 1 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2008 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』6 |
| | 真田・北金目遺跡群32B区 | 26 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2008 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』6 |
| | 真田・北金目遺跡群10D区 | 3 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2008 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』6 |

| No. | 遺跡名 | 軒数 | 刊行団体 | 刊行年 | 出典 |
|---|---|---|---|---|---|
| 128 | 真田・北金目遺跡群12E区 | 4 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群12F区 | 19 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群12H区 | 1 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群20C区 | 1 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群23B区 | 4 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群23C区 | 21 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群34A～D区 | 141 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群34E区 | 5 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群34F区 | 3 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群35A・C区 | 8 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群35B・D区 | 50 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群36B区 | 38 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群5I区 | 2 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群5K区 | 2 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群44区 | 143 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群45区 | 10 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群47区 | 2 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群49A区 | 48 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2010 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』7 |
| | 真田・北金目遺跡群15E区 | 1 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2011 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』8 |
| | 真田・北金目遺跡群37区 | 26 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2011 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』8 |
| | 真田・北金目遺跡群38区 | 42 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2011 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』8 |
| | 真田・北金目遺跡群40区 | 3 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2011 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』8 |
| | 真田・北金目遺跡群48区 | 12 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2011 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』8 |
| | 真田・北金目遺跡群50A区 | 9 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2011 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』8 |
| | 真田・北金目遺跡群50D区 | 36 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2011 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』8 |
| | 真田・北金目遺跡群51B区 | 1 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2011 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』8 |
| | 真田・北金目遺跡群52A区 | 19 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2011 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』8 |
| | 真田・北金目遺跡群52B区 | 10 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2011 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』8 |
| | 真田・北金目遺跡群53A～C区 | 3 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2012 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』9 |
| | 真田・北金目遺跡群54A区 | 88 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2012 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』9 |
| | 真田・北金目遺跡群57A～H区 | 314 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2012 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』9 |
| | 真田・北金目遺跡群58A区 | 118 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2012 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』9 |
| | 真田・北金目遺跡群58B区 | 19 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2012 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』9 |
| | 真田・北金目遺跡群58C・D区 | 8 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2012 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』9 |
| | 真田・北金目遺跡群55A（1～4）区 | 23 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2013 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』10 |
| | 真田・北金目遺跡群55B（1～4）区 | 78 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2013 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』10 |
| | 真田・北金目遺跡群56区 | 35 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2013 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』10 |
| | 真田・北金目遺跡群59A（1～4）区 | 1 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2013 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』10 |

| No. | 遺跡名 | 軒数 | 刊行団体 | 刊行年 | 出典 |
|---|---|---|---|---|---|
| 128 | 真田・北金目遺跡群59B区 | 10 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2013 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』10 |
| | 真田・北金目遺跡群60A区 | 63 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2013 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』10 |
| | 真田・北金目遺跡群60C区 | 1 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2013 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』10 |
| | 真田・北金目遺跡群61(A1～D区 | 39 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2013 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』10 |
| | 真田・北金目遺跡群63区 | 6 | 平塚市真田・北金目遺跡調査会 | 2013 | 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』10 |
| **大磯町** | | | | | |
| 129 | 坊地遺跡Ⅰ地点 | 1 | 坊地遺跡発掘調査団<br>大磯町教育委員会 | 1994 | 「坊地遺跡Ⅰ地点」『大磯町における発掘調査の記録Ⅲ』 大磯町文化財調査報告書第41集 |
| **小田原市** | | | | | |
| 130 | 香沼屈敷遺跡第Ⅲ・Ⅳ地点 | 33 | 小田原市教育委員会 | 2004 | 『香沼屈敷遺跡第Ⅲ・Ⅳ地点』 小田原市文化財調査報告書第121集 |
| 131 | 前川右近屈敷遺跡 | 6 | 小田原市教育委員会 | 2000 | 『前川右近屈敷遺跡』 小田原市文化財調査報告書第83集 |
| 132 | 永塚北畑遺跡第Ⅱ地点 | 1 | 小田原市教育委員会 | 2002 | 『永塚北畑遺跡第Ⅱ地点　永塚長森遺跡第Ⅰ地点』 小田原市文化財調査報告書第104集 |
| 133 | 永塚長森遺跡第Ⅰ地点 | 2 | 小田原市教育委員会 | 2002 | 『永塚北畑遺跡第Ⅱ地点　永塚長森遺跡第Ⅰ地点』 小田原市文化財調査報告書第104集 |
| 134 | 千代仲ノ町遺跡第Ⅳ地点 | 5 | 小田原市教育委員会 | 1999 | 『千代仲ノ町遺跡第Ⅳ地点』 小田原市文化財調査報告書第69集 |
| 135 | 千代吉添遺跡第Ⅰ～Ⅳ地点 | 10 | 小田原市教育委員会 | 2006 | 『千代吉添遺跡第Ⅰ～Ⅳ地点』 小田原市文化財調査報告書第137集 |
| | 千代吉添遺跡第Ⅴ地点 | 2 | 小田原市教育委員会 | 2014 | 『千代吉添遺跡第Ⅴ地点』 小田原市文化財調査報告書第166集 |
| 136 | 千代東町遺跡第Ⅱ地点 | 3 | 小田原市教育委員会 | 2004 | 『千代東町遺跡第Ⅱ地点』 小田原市文化財調査報告書第106集 |
| 137 | 千代南原遺跡第Ⅴ地点 | 10 | 小田原市教育委員会 | 2004 | 『千代南原遺跡第Ⅴ地点』 小田原市文化財調査報告書第119集 |
| | 千代南原遺跡第ⅩⅡ地点 | 10 | 株式会社　盤古堂 | 2007 | 『千代南原遺跡第ⅩⅡ地点』 |
| | 千代南原遺跡第ⅩⅤ・ⅩⅨ地点 | 23 | 株式会社　盤古堂 | 2008 | 『千代南原遺跡第ⅩⅤ・千代南原ⅩⅨ地点』 |
| | 千代南原遺跡第ⅩⅥ・ⅩⅧ・ⅩⅩ地点 | 25 | 小田原市教育委員会 | 2010 | 『千代南原遺跡第ⅩⅥ・ⅩⅧ・ⅩⅩ地点』<br>小田原市文化財調査報告書第154集 |
| | 千代南原遺跡第ⅩⅩⅠ・ⅩⅩⅡ・ⅩⅩⅣ地点 | 9 | 小田原市教育委員会 | 2013 | 『千代南原遺跡第ⅩⅩⅠ・ⅩⅩⅡ・ⅩⅩⅣ地点』<br>小田原市文化財調査報告書第164集 |
| 138 | 別堀十二天遺跡第Ⅱ地点 | 6 | 小田原市教育委員会 | 2013 | 『別堀十二天遺跡第Ⅱ地点』<br>小田原市文化財調査報告書第163集 |
| | 別堀十二天遺跡第Ⅴ・Ⅵ地点 | 1 | 鎌倉市遺跡調査会 | 2012 | 『別堀十二天遺跡第Ⅴ地点・第Ⅵ地点発掘調査報告書』 |
| 139 | 御組長屋遺跡第Ⅱ地点 | 1 | 都市計画道路小田原早川検改良工事遺跡発掘調査団 | 2001 | 『御組長屋遺跡第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ地点発掘調査報告書』 |
| 140 | 高田北之前遺跡第Ⅱ地点 | 9 | 高田北之前遺跡第Ⅱ地点発掘調査団 | 2001 | 『高田北之前遺跡第Ⅱ地点』 |
| 141 | 久野下馬道上遺跡第Ⅲ地点 | 14 | 玉川文化財研究所 | 2013 | 『久野下馬道上遺跡第Ⅲ地点発掘調査報告書』 |
| 142 | 愛宕山遺跡第Ⅱ地点 | 12 | 株式会社　盤古堂 | 2010 | 『愛宕山遺跡第Ⅱ地点』 |
| 143 | 西大友川窪遺跡 | 1 | 小田原市教育委員会 | 2003 | 『西大友川窪遺跡』 小田原市文化財調査報告書第112集 |
| 144 | 小田原城跡八幡山遺構群 | 9 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2004 | 『小田原城跡八幡山遺構群Ⅱ』 かながわ考古学財団調査報告161 |
| | 小田原城跡八幡山遺構群 | 26 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2006 | 『小田原城跡八幡山遺構群Ⅲ』 かながわ考古学財団調査報告201 |
| | 小田原城跡八幡山遺構群 | 4 | 財団法人かながわ考古学財団 | 2010 | 『小田原城跡八幡山遺構群Ⅳ』 かながわ考古学財団調査報告254 |
| **南足柄市** | | | | | |
| 145 | 御茶屋通遺跡第2地点 | 2 | 御茶屋通遺跡第2地点発掘調査団 | 1999 | 『御茶屋通遺跡第2地点発掘調査報告書』 |
| | 御茶屋通遺跡第3地点 | 2 | 株式会社　盤古堂 | 2012 | 『上ノ山遺跡群御茶屋遺遺跡第3地点』 |

# 神奈川県における古代の鉄（7）
## －生産関連遺構・遺物の集成－

奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

### はじめに

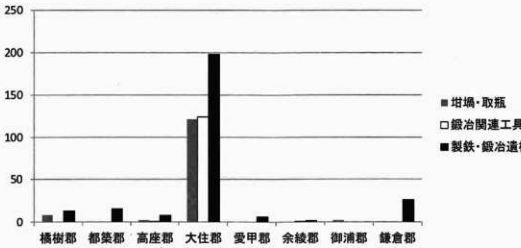
奈良・平安時代研究プロジェクトチームでは、2010 年に行われた公開セミナー『よみがえる古代東国の鉄文化～相模・武蔵の発掘調査成果から～』をきっかけに、県内各地で出土した鉄生産に関連する遺構および遺物に注目し集成を開始した。その目的はどのような規模、施設で生産が行われていたのか、地域差があるのかを明らかにすることである。

2013 年 3 月までに刊行された報告書に限り、資料調査を行った結果、神奈川県内 80 遺跡（第 1 図）で製鉄や鍛冶に関係する遺構や遺物を確認することが出来た。昨年度は補遺と鍛冶関連遺構、平塚市域の集成を完成させることが出来たため、鍛冶関連遺構と国府域の分析に着手した。

### 1．集成の経過

集成は、2010 年 4 月から 2016 年 12 月にかけて実施し、集成した資料は研究紀要 16 から本紀要まで 7 回に分けて掲載した。紀要 16 では鍛冶関連遺物を集成した。調査地域は横須賀市、茅ヶ崎市、座間市、厚木市、相模原市、小田原市、秦野市、海老名市、鎌倉市、逗子市、伊勢原市である。掲載遺物は羽口、坩堝、取瓶、鉄鉗、鉄滓である。鉄滓については遺構内から出土した椀型滓を中心に掲載したが、遺構内でも単独で出土した小鉄滓は除外した。紀要 17 では平塚市の鍛冶関連遺物を集成した。掲載遺物は羽口、坩堝、取瓶、金床石である。紀要 18 では平塚市、横浜市、川崎市の鍛冶関連遺物を集成した。掲載遺物は羽口、坩堝、鋳型、炉壁、銅滓、鉄塊、素材鉄塊、素鉄、鉄滓については遺構内から出土した椀型滓を中心に掲載した。紀要 19 では製鉄・鍛冶関連遺構（製鉄炉、鍛冶炉）の集成を行った。調査した市町村は伊勢原市、厚木市、海老名市、平塚市、茅ヶ崎市、藤沢市、逗子市、相模原市、横浜市、川崎市である。紀要 20 では平塚市の鍛冶関連遺構、遺物の集成を行った。掲載遺構は鍛冶炉、掲載遺物は取瓶、鉄鉗、鑿、金槌、羽口、素鉄、鉄塊、銅滓、銅塊、金床石のほか、鉄滓については全点掲載を行った。紀要 21 では平塚市において 2013 年 3 月までに刊行された報告書に掲載された新たな資料の追加、紀要 16 から紀要 20 で集成した資料に関する正誤表の作成のほか、鍛冶関連遺構と国府域および周辺の鍛冶関連遺物についてまとめた。今年度は最終的な補遺と神奈川県内の様相についてまとめる。なお、補遺については、横浜市と川崎市は 2009 年 4 月から 2013 年 3 月まで、平塚市、横浜市、川崎市以外の市町村については 2010 年 4 月から 2013 年 3 月までに刊行された報告書およびこれまでの集成から漏れた報告書の資料を加えた（第 10 図・第 2 表）。補遺の図版については 1/4 に統一した。また、当初、鉄滓については主に遺構から出土した椀形滓（遺構内でも単独で出土した小鉄滓は除く）を中心に掲載していたが、平塚市については遺構内の鉄滓は全点を掲載するなど一部集成方針に変更があった。集成対象とした遺構、遺物は基本的に報告書で掲載されたものであるが、未報告資料、遺漏を差し引いたとしても、これまで集成した資料群によって、大半は網羅していることを明記しておく。

第1図　製鉄・鍛冶関連遺構・遺物分布図




第２図　製鉄および鍛冶関連遺構・遺物出土点数（郡別）

## ２．製鉄・鍛冶関連遺物の様相

ここではこれまで集成した神奈川県内の鍛冶関連遺物について述べる。神奈川県内では鍛冶に関連する遺物は 80 遺跡で確認されており、旧国名、郡名ごとにまとめた（第１表）。遺物の名称については基本的に各報告書に従った。用途および各製鉄、鍛冶の工程および分類等については松井和幸の「古代の鍛冶具」を参考とした（松井 1991）。また、各工程については、製鉄、鍛冶、鋳造、金属器加工関連遺物として分類した。

### １）製鉄関連遺物

製鉄炉に関連する遺物には、炉壁、羽口、鉄滓、鉄塊（素材鉄塊）、原料となる鉱石や砂鉄等があげられる。神奈川県内で製鉄遺跡と明確に評価されているのは横浜市栄区に所在する上郷深田遺跡のみである。ここからは羽口、鉄滓のほか、２号竪穴からは床面直上より多量の砂鉄が出土している。

### ２）鍛冶および鋳造関連遺物

鍛冶に関連する遺物には、坩堝、鉄塊（素材鉄塊）、銅塊（素銅）、金床石、鉄鉗、鎚、鏨（鏨状工具を含む）、鉄鉄、鏈、羽口、炉底に形成される椀形滓、があげられる。坩堝は７遺跡 82 点、取瓶は９遺跡 55 点、金床石は４遺跡 27 点、鉄鉗、鎚、鏨、鉄鉄などの工具は 16 遺跡 68 点出土している。総点数は不明であるが、羽口は 37 遺跡、鉄滓・銅滓は 52 遺跡で出土している。

鋳造に関連する遺物には、金属を溶解する際に使用される坩堝、鋳造するための鋳型、鋳型の湯口に溶解した金属を流し込む際に用いられる取瓶と坩堝や取瓶を挟む鉄鉄等があげられる。鋳型は横浜市の上郷深田、厚木市の愛名宮地の２遺跡で出土している。鋳型は金属製品を取り出す際に破壊されるためか、出土量が極めて少ない結果となった。この他、金属製品の加工に関係する道具には鏈、鍛造や板金作業に使用された鉄砧、鏈、砥石等が考えられる。砥石については今回の集成からは除外してあるが、平塚市の四之宮高林寺から鏈が１点出土している。

## ３．製鉄・鍛冶関連遺物の分布

製鉄・鍛冶関連遺物の分布について古代の国および郡ごとに見ると、武蔵国では橘樹郡、都築郡の２郡、相模国では高座郡、大住郡、愛甲郡、余綾郡、御浦郡、鎌倉郡の６郡で確認された（第５図・第１表）。

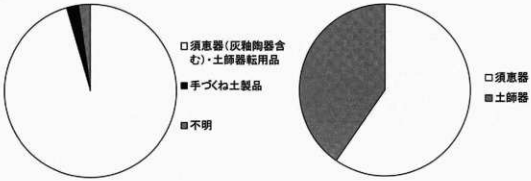
第１表　鍛冶関連遺構・遺物一覧

| 国名 | 郡名 | 市町村名 | 遺跡名 | 鍛冶関連遺物 | | | | | 製鉄関連遺物 | | | | 金属加工道具 | | | | | | | 鍛冶遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 坩堝 | 取瓶 | 羽口 | 鋳型 | 金床石 | 鉄滓(銅滓) | 鉄塊(素材鉄塊) | 銅塊(素銅) | 炉壁 | 鎚 | 鏨 | 鋏 | 鑿 | 鑿状工具 | 坩(鉄製) | 鉄鉗(カナバシ) | |
| 武蔵国 | 橘樹郡 | 横浜市 | 西ノ谷 | 8 | | 7 | | | 1(○) | | | 1 | | | | | | | | Ⅱ？・Ⅴ類 |
| | 久良郡 | | 北川表の上 | | | | | | 4 | | | | | | | | | | | |
| | | | 上谷本第２ | | | | | | | | | | | | | | | | | Ⅴ類 |
| | 都筑郡 | | 受地だいやま | | | 6 | | | 35 | | | 13 | | | | | | | | Ⅲ類 |
| | | | 熊ヶ谷 | | | | | | 15 | | | | | | | | | | | ◎ |
| | | | 矢崎山西 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | | ◎ |
| | | | 北川貝塚 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | Ⅰ類 |
| | | | 權田原 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | ◎ |
| | | 川崎市 | 大ヶ谷戸 | | | 1 | | | 77 | | | | | | | | | | | |
| | | | 上麻生日光台 | | | | | | 4 | | | | | | | | | | | |
| | | | 岡上―４ | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | | Ⅰ類 |
| 相模国 | 御浦郡 | 横須賀市 | 宗元寺 | 2 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | |
| | 鎌倉郡 | 横浜市 | 上郷深田 | | | 3 | 7 | | ○ | | | ○ | | | | | | | | ◎ |
| | | | 笠間中央公園 | | | | | | 5 | | | | | | | | | | | Ⅴ類 |
| | | 鎌倉市 | 今小路西 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 逗子市 | 池子遺跡群 | | | 41 | | | 54 | | | | | | | | | | | Ⅴ類 |
| | 高座郡 | 相模原市 | 田名塩原 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | | | 橋本 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 上鶴間下原 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | | Ⅰ類 |
| | | | 相原田ノ上 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 茅ヶ崎市 | 七堂伽藍跡 | 1 | | | | | 4 (2) | | | | | | | | | | | ◎ |
| | | | 小出川遺跡群 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 下寺尾西方Ａ | | | 7 | | | 26 (13) | | | | | | | | | | | ◎ |
| | | 藤沢市 | 片瀬大源太 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | ◎ |
| | | 海老名市 | 海老名本郷 | | | 3 | | | 3 | | | | | | | | | | | Ⅱ類 |
| | | | 尼寺北方 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| | | | 本郷中谷津 | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | | Ⅱ類 |

| 国名 | 郡名 | 市町村名 | 遺跡名 | 鍛冶関連遺物 | | | | | 製鉄関連遺物 | | | | 金属加工道具 | | | | | | | 鍛冶遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 坩堝 | 取瓶 | 羽口 | 鉢型 | 金床石 | 鉄滓（鋼滓） | 鉄塊（素材鉄塊） | 鋼塊（素鋼） | 炉壁 | 鎚 | 鏨 | 鋏 | 鑿状工具 | 坩（鉄製） | 鉄鉗（カナバシ） | |
| 相模国 | 高座郡 | 座間市 | 平和坂 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | Ⅰ類 |
| | 大住郡 | 平塚市 | 四之宮山王B | 11 | 5 | 9 | | | 11 | 3 | | | | | 1 | | | | | |
| | | | 四之宮高林寺 | | 2 | 69 | | | 2673(○) | 7 | | | | 1 | 13 | | | | | Ⅴ類 |
| | | | 神明久保 | 45 | | 95 | | 8 | 3513(○) | 18 (1) | 2 | | | | 17 | 1 | | | | |
| | | | 六ノ域 | 11 | 34 | 77 | | 16 | 7635(12) | 6 | 1 | | | | 6 | 4 | | 1 | | Ⅰ・Ⅱ？・Ⅲ類 |
| | | | 天神前 | | 3 | 143 | | | 615 | 5 | | | 1 | 1 | 1 | | | | | Ⅰ類 |
| | | | 東中原E | | 3 | | | | (○) | | | | | | | | | | | |
| | | | 構之内 | | | 1 | | | 12 | | | | | | 1 | | | | | |
| | | | 四之宮下郷 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 福荷前B | | | 1 | | | 22 | | | | | | | | | | | |
| | | | 向原 | | | 20 | | 1 | 70＋α | 99 (3) | | | | | 4 | 1 | 1 | | | Ⅱ類 |
| | | | 四之宮山王A | | | 1 | | | 8 | | | | | | | | | | | |
| | | | 厚木道 | | | | | | 24 | | | | | | | | | | | |
| | | | 梶谷原A | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| | | | 御嶽C | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| | | | 中原大鋼橋 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| | | | 大会原 | | | | | | 202(○) | | | | | | | | | 1 | | |
| | | | 七ノ域 | | | 1 | | | 4(○) | | | | | | | | | | | |
| | | | 山王久保 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| | | | No.86根岸B | | | | | | 6 | | | | | | | | | | | |
| | | | 坪ノ内 | | 2 | 6 | | | 973 | | | | | | 1 | | | | | Ⅲ類 |
| | | | 諏訪前A | | | | | | 1 | 6 | | | | | 6 | | | | | |
| | | | 諏訪前B | | | 2 | | | 6 | | | | | | 4 | | | | | |
| | | | 四ノ域 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| | | | 鹿見堂B | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| | | | 五合屋敷 | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | |
| | | | 新町 | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | |

| 国名 | 郡名 | 市町村名 | 遺跡名 | 鍛冶関連遺物 | | | | | 製鉄関連遺物 | | | | 金属加工道具 | | | | | | | | 鍛冶遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 坩堝 | 取瓶 | 羽口 | 鋳型 | 金床石 | 鉄滓(鋼滓) | 鉄塊(鉧付鉄塊) | 銅塊(銅鉧) | 炉壁 | 鎚 | 鏈 | 鋏 | 鑿 | 鑿状工具 | 坩(鉄製) | 鉄鉗(カナバシ) | | |
| 相模国 | 大住郡 | 平塚市 | 東中原E | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 東中原G | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 遠藤 | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | |
| | | 伊勢原市 | 天王原遺跡 | | | | | | 1 (9) | | | | | | | | | | | | |
| | | | 弥彦・上ノ台 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 下糟屋・丸山 | | | | | | (1) | | | | | | | | | | | | |
| | | | 石黒・羽黒 | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 板戸・宮の前 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| | | | 田中・酒林 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| | | | 坪ノ内・宮ノ前 | | 3 | 9 | | | 293 | 2 | 1 | | | | | | | | | | |
| | 愛甲郡 | 厚木市 | 鹿尾 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| | | | 及川天台 | | | 10 | | | 8 (3) | | | | | | | | | | | | Ⅳ類 |
| | | | 及川宮ノ西 | | | | | | 4 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 下荻野山中 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 愛名宮地 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 中荻野稲荷木 | | | | | | | | | | | | | | | | | | Ⅱ類 |
| | | 清川村 | 北原 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | 余綾郡 | 平塚市 | 真田・北金目遺跡群 | 4 | | 7 | | 2 | 1266 | | | | 1 | | | | | | | | Ⅱ類？ |
| | | 秦野市 | 諏訪原 | | | 1 | | | 4 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 草山 | | | 2 | | | 76 (28) | | | | | | | | | | | | |
| | | | 中里 (No. 31) | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 鶴巻天神台 (9902地点) | | | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 小南 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | |
| | | 大磯町 | 祇園塚（D地点） | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | |
| | 足下郡 | 小田原市 | 永塚下り畑 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 千代南原 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |

※○は候文のみのものを示す。
※鍛冶遺構の「●類」は、紀要21の鍛冶炉分類を示す。◎は鍛冶遺構の有無を示す。




第３図　坩堝・取瓶器種組成図

郡ごとの生産量について一概には言うことは困難であるが、一定程度出土量が認められる坩堝・取瓶、鍛冶関連工具、鍛冶遺構を用いてグラフ化した（第２図）。なお、鉄滓、銅滓、羽口については、出土点数が不明な報告書もあるので除外した。

## ４．鉄滓・銅滓および関連遺物の分布

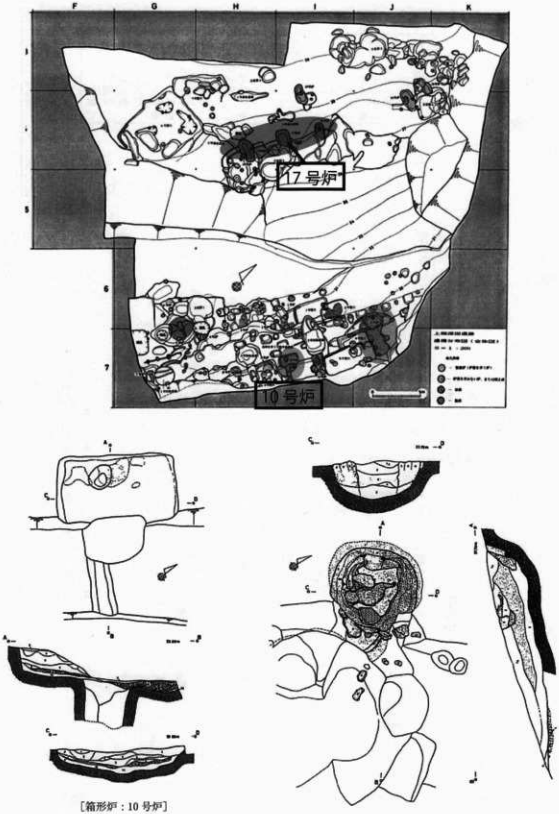
鉄滓、銅滓および関連する遺物（鉄滓・銅滓が付着した坩堝・取瓶等）が出土した遺跡を図示した（第４図）。鉄滓は 80 遺跡中 61 遺跡で出土した一方で、銅滓や銅滓が付着した坩堝、取瓶および銅塊（素銅）が出土した遺跡は７遺跡に留まった。銅滓は武蔵国では橘樹郡の西ノ谷遺跡、相模国では国府域およびその周辺に比定される大会原遺跡、高林寺遺跡、神明久保遺跡、七ノ域遺跡、東中原Ｅ遺跡、六ノ域遺跡のほか、七堂伽藍跡、下寺尾西方Ａ遺跡で報告されている。武蔵国側の西ノ谷遺跡は 10 世紀後半から 12 世紀にわたる遺跡で、専業的な鍛冶遺跡と言われている（冨永 2004）。また、小札や鏃などの武器・武具が出土しており、武士団の発生を想定する意見がある（高橋 2003）。一方、相模国側では国府や高座郡衙に関係する遺跡に集中している。時期はおおむね８世紀から 10 世紀におよぶ。その他、参考ではあるが、愛名宮地遺跡と上郷深田遺跡の２遺跡で鋳型が出土している。鋳型が出土した遺跡については鉄あるいは銅（金銅）製品のどちらかが鋳造されていたことは確かであろう。

## ５．坩堝・取瓶について

取瓶や坩堝については 14 遺跡で出土した。取瓶および坩堝は手づくね成形による器の他、土師器、須恵器、灰釉陶器を転用した遺物がみられる。器種は坏、皿、甕（底部部分を使用）などがある。金属滓の付着に見られるように高温での作業のためか、遺物は細片あるいは著しい変形が見られた。そのため器種などが不明な遺物も散見される。厚手の遺物も含まれることから、今後の調査次第では手づくね成形の遺物が増加する可能性はある。全体では土師器や須恵器などの転用品が 213 点、手づくね土製品が５点、不明が５点となっている（第３図：左グラフ）。全体の９割以上が転用品という結果になった。また、転用品の中で須恵器（灰釉陶器を含む）と土師器の内訳は須恵器が 37 点、土師器が 25 点で、須恵器の利用が多い（第３図：右グラフ）。

第４図　鉄滓・銅滓関連遺物分布図

第５図　製鉄・鍛冶関連遺構・遺物分布図（都境入り）




**第６図**　上郷深田遺跡遺構配置図と箱形炉・竪形炉（橋本 2016 より引用、一部加筆）

## 6．さいごに

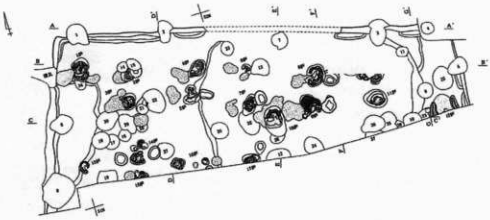
足掛け7年にわたり、県内の製鉄関連に関する遺構・遺物について集成してきた。県内に見られる製鉄関連遺跡は、①製錬・精錬を行う製鉄炉、②国府域周辺に見られる官営工房的な鍛冶遺構、③集落に見られる竪穴住居跡内の鍛冶遺構、の大きくわけて3タイプが見られた。製錬・精錬を行う遺構は、県内では今のところ上郷深田遺跡一箇所のみ確認され、官営工房的な施設としては国府エリアに該当する坪ノ内遺跡や六ノ域遺跡、集落に見られる竪穴住居内の鍛冶遺構は比較的地域の核となる集落、例えば海老名本郷遺跡や受地だいやまの他、愛名宮地のような寺院や七堂伽藍跡といった寺院に近接した集落にも見られる。

**第7図**　上郷深田遺跡と周辺の遺跡

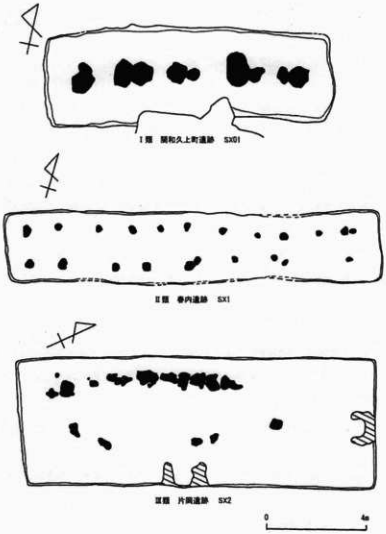
神奈川県唯一の製鉄遺跡である上郷深田遺跡は、武蔵と相模の国境に立地しているのも興味深い。遺跡は、現在の横浜市栄区に位置しており、武相国境が分水嶺で区分されている事から栄区全体は鎌倉郡の範疇として想定されている為相模国内にあたる。しかし、過去の論考を見ると武蔵国に帰属する遺跡として紹介されている事例もあり、不確定要素が強い。近隣には鉄生産を彷彿させるような小字名「鍛冶ガ山」が見られるなど、遺跡周辺一帯が製鉄に関係するエリアであった可能性が高い。相模国と武蔵国の両方に供給していた可能性の高い生産遺跡として位置づけされるが、同様に武相国境沿いに立地し、両国に供給している生産遺跡の事例としては「南多摩古窯址群」もあげられよう。

上郷深田遺跡の製鉄の開始は7世紀末～8世紀初頭で9世紀代において終了する、という操業期間が想定されており、製鉄炉16基、鍛冶炉3基、砂鉄を貯蔵する竪穴状遺構1ヶ所、工房跡と考えられる竪穴状遺構6ヶ所、柵列、砂土の採掘坑と想定される土坑多数が検出されている（橋本 2016）。遺跡そのものはじまりは7世紀前半～中頃で、この段階では集落のみであった。上段・下段にエリアがわかれているが、下段において7世紀末～8世紀初頭頃から製錬炉の操業が開始、8世紀末～9世紀初頭には上段で製錬炉、下段で鋳銅炉が構築されるとしている。7世紀末～8世紀初頭の段階では5基の炉と3基の炭窯が作られている。炉の形態は、古墳時代から続く「箱形炉」である（第6図）。次に8世紀～9世紀段階の時期で、上段では6基の炉と土坑群、下段は6基の炉と砂鉄の貯蔵施設が確認され、6基の炉のうち精銅炉が1ヶ所で見つかっている。炉の形態は「竪形炉」で、一つの遺跡で箱形炉から竪形炉への転換を見る事できる。

製鉄遺跡も須恵器や瓦と同様に手工業生産の一つであり、これらは連動した動きが見られるとする考え方は他国の事例をもって既に述べられている（佐々木・赤熊他 2010）。製鉄遺跡近隣を見ると同時期の寺院や官衙、また瓦窯が見られる傾向があるようで、例えば常陸の事例でいうと、後谷津製鉄遺跡から2㎞離れたところに原の寺瓦窯跡があり、台渡廃寺や那須郡衙等の建物造作の為に組織された製鉄工房であった可能性が高いとしている（佐々木 2010）。7世紀末～8世紀初頭という時期は、相模国内においても古代寺院造営が始まる時期でもあり、また郡衙や国府、国分寺の造営も開始される時期である。上郷深田遺跡から最も近接しているのは、同じ鎌倉郡内に所在する鎌倉郡衙や千葉地廃寺の他、少し離れて高座郡衙や下寺尾廃寺、



**第８図**　六ノ城遺跡：連房鍛冶炉（「湘南新道関連遺跡」Ⅲより引用）




**第９図**　官営鍛冶工房の類型（安間　2000 より引用）

また御浦郡には宗元寺や深田廃寺など古代寺院が、武蔵国になるが久良郡の弘明寺などが所在し、他国と同様な事例が確認される（第７図）。相模国内で瓦生産や須恵器生産が唯一確認されているのは御浦郡内であり、

鎌倉・御浦郡といった三浦半島エリアに生産拠点があった事がいえるのではないだろうか。

こうした製鉄の拠点となる場所がある一方で、鍛冶の方はどのような様相が見られるだろうか。『研究紀要21』で相模国内に見られる鍛冶炉をⅠ～Ⅴ類の５種に分類し、その傾向について前回示している。それぞれの分類した鍛冶炉の時期は、Ⅰ類：８世紀～10世紀、Ⅱ類：９世紀～11世紀代、Ⅲ類：９世紀末～10世紀中葉、Ⅳ類：９世紀から10世紀代、Ⅴ類：９世紀中心という見解がでており、９世紀代には多様な鍛冶炉の形態が存在していた事が明確となった。

その中で、Ⅲ類に分類した鍛冶炉のうち、六ノ域で見られた遠房鍛冶炉も同種に分類されているが、国衙や郡衙などの地方官衙などや寺院といった公的な施設から検出されている遺構は「官営工房型鍛冶遺構」として分類されている（第８図）。官営工房型鍛冶遺構は、①長大な方形の竪穴遺構あるいは掘立柱建物内に複数の鍛冶炉を一列に配置するもの、②大型の方形竪穴遺構あるいは掘立柱建物内に複数基の鍛冶炉を二列に設置するもの、③長大の竪穴にカマドと炉が設けられるもの、の三種に分類が可能としている（第９図・安間 2000）。坪ノ内や六ノ域の国府内にみられる鍛冶炉は、国府域に付帯する施設として考えられる事から、公的な施設に見られる「官営工房型」として別枠を設けてもいいかもしれない。なお、国府域の鍛冶の操業時期は、８世紀代には神明久保遺跡から坪ノ内遺跡にかけて、９世紀代には８世紀代の遺構を踏襲しながらも国府の全域にあたり、10世紀代には神明久保・天神前エリアと六ノ域・坪ノ内遺跡エリアと分かれるようで、後者のエリアでは少なくとも11世紀中葉までは操業されていたようである（柏木ほか2009）。国府域においては、長期間にわたり鍛冶操業が行われていた事がいえ、国府存続期間とリンクするかは検証が必要である。

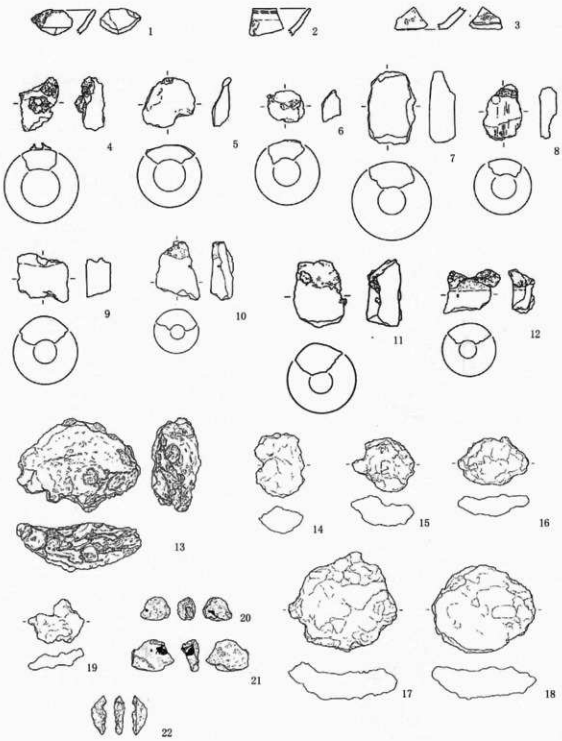
集落内における鍛冶炉は、時期差によって形態が異なるのではなく、ほぼ同時期の中で行われている事が明らかとなった。炉の形態の違いが製造する製品による違いなのか、どこにあるのかを言及する事はできなかったが、集落の規模と関係があるかもしれない。また、集落内で見られた鍛冶炉によって作られた製品が何かについても検討が必要であろう。製品の一つとして農具が想定されるが、この農具についての集成は『研究紀要11・12』において既に集成済みである。今後は農具以外の工具や武器、釘といった製品、つまり「集落ごとの鉄器の所有」も検討する事で、国内における鉄生産と流通の関係が見えてくるのではないだろうか。今後の課題としたい。

※本文の執筆は１～６を相良英樹が、７を高橋香が、全体の編集は相良が担当した。また、第１～５図は相良が第６～10図は高橋が、第１表は奈良・平安時代研究プロジェクトチーム各員が、第２表は高橋が作成した。

**参考文献**


・松井和幸 1991「古代の鍛冶具」『古文化論叢』児嶋隆人先生喜寿記念論集
・冨永樹之 2004「神奈川における古代集落・官衙・寺の鍛冶－神奈川の古代製鉄・鍛冶遺構－」考古論叢神奈川 第12集
・高橋一夫 2003『古代東国の考古学的研究』 六一書房
・小池伸彦 2011「古代冶金工房と鉄・鉄器生産」『官衙・集落と鉄』第14回古代官衙・集落研究会報告書　奈良文化財研究所研究報告　第６冊　独立行政法人　国立文化財機構　奈良文化財研究所編
・小杉山大輔・曾根俊雄 2011「鹿の子遺跡について」『官衙・集落と鉄』第14回古代官衙・集落研究会報告書　奈良文化財研究所研究報告　第６冊　独立行政法人　国立文化財機構　奈良文化財研究所編
・小田和利 2011「集落と鉄器-北部九州を中心として-」『官衙・集落と鉄』第14回古代官衙・集落研究会報告書　奈良文化財研究所研究報告　第６冊　独立行政法人　国立文化財機構　奈良文化財研究所編
・松崎元樹 2006「南武蔵の古代鍛冶関連遺跡と鉄器生産」『武蔵野』特集　古代中世の武蔵野の鉄生産　第82巻　第２号通巻344号
・佐々木義則 2010「関東における寺院・官衙の造作と鉄生産-７・８世紀の様相-」『たたら研究会　平成22年度埼玉大会-古代東国の鉄生産-』研究発表資料　たたら研究会・埼玉考古学会
・赤熊浩一 2010「古代武蔵国の鉄製産」『たたら研究会　平成22年度埼玉大会-古代東国の鉄生産-』研究発表資料　たたら研究会・埼玉考古学会
・安間拓巳 2000「古代の鍛冶遺跡」『製鉄史論文集』たたら研究会創立40周年記念　たたら研究会

・橋本昌幸 2016「上郷深田遺跡」『栄区の重要遺跡』平成 28 年度講座　「横浜の考古学」（公財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター
・財団法人かながわ考古学財団 2010『よみがえる古代東国の鉄文化～相模・武蔵の発掘調査成果から～』平成 21 年度　東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業　公開セミナー
・柏木善治ほか 2009　『湘南新道関連遺跡』Ⅳ　坪ノ内遺跡　六ノ坂遺跡　かながわ考古学財団調査報告 243　財団法人かながわ考古学財団




**第 10 図**　追加資料

**第２表　追加資料一覧**

【取瓶】
・伊勢原市

| No. | 器種名 | 遺跡名 | 出土遺構 | 出土位置 | 法量(cm) 長径 | 短径 | 厚み | 重量(g) | 遺構の時期 | 備考 | 文献名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 取瓶 | 坪ノ内・宮ノ前遺跡 | 3号溝状遺構 | 覆土 | － | － | － | － | 9世紀初頭～中葉 | 土師器杯転用。口縁部破片 一部被熱し発泡。外面に付着物 | 宍戸信吾2000『坪ノ内・宮ノ前遺跡(No.16・17)』かながわ考古学財団調査報告77 財団法人かながわ考古学財団 |
| 2 | 取瓶 | | | 覆土 | － | － | － | － | | 土師器杯転用。口縁部破片 一部被熱し発泡。外面に付着物 | |
| 3 | 取瓶 | | | 覆土 | － | － | － | － | | 土師器杯転用。底部破片 一部被熱し発泡。 | |

【羽口】

| No. | 器種名 | 遺跡名 | 出土遺構 | 出土位置 | 法量(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 重量(g) | 遺構の時期 | 備考 | 文献名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 羽口 | 坪ノ内・宮ノ前遺跡 | 3号溝状遺構 | 覆土 | 5.7 | 4.2 | 2.0 | 36.5 | 9世紀初頭～中葉 | 内径4cm前後と推定。外面に付着物あり | 宍戸信吾2000『坪ノ内・宮ノ前遺跡(No.16・17)』かながわ考古学財団調査報告77 財団法人かながわ考古学財団 |
| 5 | 羽口 | | | 覆土 | 5.6 | 5.6 | 1.6 | 39.5 | | 内径4cm前後と推定。外面に付着物あり | |
| 6 | 羽口 | | | 覆土 | 3.4 | 3.8 | 2.0 | 19 | | 内径3cm前後と推定。外面に付着物あり | |
| 7 | 羽口 | | | 覆土 | 7.8 | 5.1 | 2.7 | 100.4 | | 内径3cm前後と推定。外面に付着物あり | |
| 8 | 羽口 | | | 覆土 | 5.9 | 4.1 | 1.8 | 37.4 | | 内径3cm前後と推定。外面に付着物あり | |
| 9 | 羽口 | | | 覆土 | 5.3 | 5.4 | 2.5 | 59.4 | | 内径3cm前後と推定。外面に付着物あり | |
| 10 | 羽口 | | | 覆土 | 8.4 | 6.2 | 2.1 | 92.8 | | 内径2cm前後と推定。外面に付着物あり | |
| 11 | 羽口 | | | 覆土 | 5.4 | 4.2 | 2.4 | 47.8 | | 内径2cm前後と推定。外面に付着物あり | |
| 12 | 羽口 | | | 覆土 | 4.7 | 6.1 | 2.0 | 35.9 | | 内径2cm前後と推定。外面に付着物あり | |

【鉄滓】
・伊勢原市

| No. | 器種名 | 遺跡名 | 出土遺構 | 出土位置 | 法量(cm) 長さ | 幅 | 厚さ | 重量(g) | 遺構の時期 | 備考 | 文献名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | 鉄滓 | 坪ノ内・宮ノ前遺跡 | 3号溝状遺構 | 覆土 | 10.0 | 13.2 | 5.3 | 606.7 | 9世紀初頭～中葉 | 椀型滓 | 宍戸信吾2000『坪ノ内・宮ノ前遺跡(No.16・17)』かながわ考古学財団調査報告77 財団法人かながわ考古学財団 |
| | 鉄滓 | | | 覆土 | － | － | － | 3636.0 | | 椀型滓23点 | |

| No. | 器種名 | 遺跡名 | 出土遺構 | 出土位置 | 法量(cm) | | | | 遺構の時期 | 備考 | 文献名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量(g) | | | |
| | 鉄滓 | 坪ノ内・宮ノ前遺跡 | 3号溝状遺構 | 覆土 | - | - | - | 5110.2 | 9世紀初頭～中葉 | 鉄滓269点（鉄滓片含む） | 宍戸信吾2000『坪ノ内・宮ノ前遺跡(№16・17)』かながわ考古学財団調査報告77　財団法人かながわ考古学財団 |

・茅ヶ崎市

| No. | 器種名 | 遺跡名 | 出土遺構 | 出土位置 | 法量(cm) | | | | 遺構の時期 | 備考 | 文献名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 長径 | 短径 | 厚み | 重量(g) | | | |
| 14 | 鉄滓 | 七堂伽藍跡 | 外側区画遺構 | | 6.8 | 4.7 | 2.9 | 117.5 | | | 大村浩司ほか2014『下寺尾官衙遺跡群の調査～下寺尾七堂伽藍跡・高座郡衙の調査』茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告40　茅ヶ崎市教育委員会 |
| 15 | 鉄滓 | 七堂伽藍跡 | | | 5.65 | 6.65 | 3.25 | 124.3 | | | |
| 16 | 鉄滓 | 七堂伽藍跡 | 遺構外(13次) | | 7.5 | 5.1 | 2.35 | 96.7 | | | |
| 17 | 鉄滓 | 七堂伽藍跡 | 竪穴建物7 | | 11.4 | 10.6 | 4.0 | 483.8 | | | |
| 18 | 鉄滓 | 七堂伽藍跡 | 遺構外(12次) | | 11.0 | 9.3 | 3.5 | 494.0 | | | |
| 19 | 銅滓 | 七堂伽藍跡 | 遺構外(15次) | | 5.85 | 4.75 | 2.25 | 84.1 | | 分析の結果、日本産 | |
| | 銅滓 | 七堂伽藍跡 | 竪穴建物7 | | | | | | | 報文のみ | |

【鉄塊・銅地金】

・伊勢原市

| No. | 器種名 | 遺跡名 | 出土遺構 | 出土位置 | 法量(cm) | | | | 遺構の時期 | 備考 | 文献名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量(g) | | | |
| 20 | 鉄塊系遺物 | 坪ノ内・宮ノ前遺跡 | 3号溝状遺構 | 覆土 | 3.9 | 4.6 | 1.9 | 16.7 | 9世紀初頭～中葉 | | 宍戸信吾2000『坪ノ内・宮ノ前遺跡(№16・17)』かながわ考古学財団調査報告77　財団法人かながわ考古学財団 |
| 21 | 鉄塊系遺物 | | | 覆土 | 2.5 | 3.1 | 1.8 | 17.0 | | | |
| 22 | 銅地金 | | | 覆土 | 4.2 | 1.6 | 1.1 | 16.6 | | | |

# 神奈川県の県央地域の中世遺跡（2）

中世研究プロジェクトチーム

## はじめに

本プロジェクトチームでは、近年発掘調査が盛んな厚木市・伊勢原市・秦野市などの県央から県西部にかけての地域で、中世の遺構や遺物を目にする機会が増え、資料数も著しく増加していることを実感している。そのため、昨年度からこの県央地域の中世遺跡を検討することとした。

検討作業の第一歩として、県内の中世遺跡の現状を把握するため、発掘調査成果の集成を行った。昨年度は、（1）として秦野市・厚木市・大和市・伊勢原市・海老名市・座間市・綾瀬市の中世遺跡を集成し、『研究紀要21』に掲載した。今年度はその続きとして、相模原市・愛甲郡を取り上げる。また、県央地域の様相を比較検討するため、横浜と湘南地域の集成も行った。

## 例言

1．神奈川県内の県央地域については、明確な地域区分があるわけではない。今回は、相模原市・愛甲郡の集成を行い、横浜市・藤沢市・茅ヶ崎市の一部も掲載する。

2．基礎データの集成には、平成27年3月までに刊行された発掘調査報告書を基本とし、それ以外の書籍については、情報入手可能な範囲でデータに加えることとしている。

3．集成表の項目はこれまでと同じであり、以下のとおりである。

（1）遺跡名：発掘調査報告書（以下、報告書とする）に記載されている名称を原則とするが、現行の神奈川県埋蔵文化財包蔵地台帳に基づき、文献とは異なる名称を使用した遺跡もある。

（2）所在地：報告書に記載されている住所・番地を記載した。合併による変更は新市町村に含めている。ただし、報告書の記載を優先し、新住所・新地番への変更は行っていない。複数にまたがる場合は、代表と思われる番地を記載した。

（3）遺跡の種別：報告書の抄録に記載された種別を原則とするが、抄録がないものや中世の成果と異なる場合は、内容に応じて変更した。

（4）立地環境：報告書の該当部分を要約した。

（5）遺跡の概要：報告書の調査成果を要約した。

（6）年代：報告書の年代表記を原則とするが、現行の遺物編年により、西暦年代（○世紀）で表記できる場合は（　）付で記載した遺跡がある。

（7）文献：巻末の参考文献と対応している。

（8）集成した事例（特に、溝や溝状遺構）の中には、覆土の特徴（宝永火山灰を含まない等）や大窯期以降の瀬戸・美濃製品（器種の消長期間が長く、破片からは時期の特定困難）が出土したことにより、中世として報告されたものがある。中世以外の時期も含んでいると推測されるが、集成の対象としている。

相模原市

第１表　神奈川県県央（相模原市・愛甲郡）・横浜・湘南地域における中世遺跡一覧表

| 遺跡名 | 所在地 | 遺跡の種別 | 立地環境 | 遺跡の概要 | 年代 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 橋本遺跡 | 元橋本町・橋本七丁目 | 集落跡 | 台地 | 中世～近世にかけての集落の一部と推定される遺構群を検出。 | 14c～16c代 | 1 |
| 新戸遺跡 | 新戸2607番の２他 | 集落跡 | 台地上 | 農村的な規模をもつ掘立柱建物が多数検出されている。 | 13c末～15c初頭 | 2 |
| 古淵B遺跡 | 古淵1683番地３他 | 集落跡 | 台地 | 中世～近世の土坑と井戸が１基ずつ発見され、16～17世紀にかけた遺構面が確認されている。 | 16c代 | 3 |
| 川尻遺跡 | 城山町川尻字谷ケ原792-2他 | 集落跡 | 台地上 | 旧石器時代～近世にかけて遺構・遺物が確認されているが、中世遺構は土坑４基の検出だけである。 | 中世前期 | 4 |
| 大地岡戸遺跡 | 津久井町大字青野原字大地岡戸 | 墓、集落跡 | 河岸段丘上 | 中世後半期の土壙墓２基を検出し、銅銭が出土している。 | 中世後半 | 5 |
| 明日庭遺跡 | 津久井町大字青野原字明日庭 | 集落跡 | 河岸段丘上 | 中世と思われる土坑とピットを検出。 | 中世末 | 6 |
| 大地遺跡 | 津久井町大字青野原字大地 | 墓、屋敷地 | 河岸段丘上 | 中世末の屋敷地を1/3程検出。 | 中世末 | 7 |
| 青山開戸遺跡 | 津久井町青山3179-3外 | 集落跡 | 河岸段丘上 | 縄文時代中・後期の集落が確認され、中世には土坑が少数検出されている。 | 15c～16c代 | 8 |
| 当麻谷原遺跡 | 当麻谷原230-4ほか | 集落跡 | 台地 | 平安時代の集落が確認され、中世では土坑４基を確認。 | 中世 | 9 |
| 田名坂上遺跡第６地点 | 田名1268番２外 | 集落跡 | 段丘上 | 上屋構造を伴うと推定される竪穴建物が検出されている。 | 中世 | 10 |
| 津久井城跡 | 津久井町根小屋字城坂346付近 | 城館跡 | 山地、河岸段丘 | 城坂曲輪の竪堀が発見され、小単位の複数の堀を連結させている機能をもつ。 | 中世 | 11 |
| 津久井城跡 | 津久井町根古谷字城山370-1、太井字癸1301-1他内 | 城館跡 | 段丘面 | 16世紀戦国時代の津久井城山城部の中心郭となる米曲輪から本城曲輪への入口で石敷の道等が発見された。 | 16c代 | 12 |
| 津久井城跡 | 小倉字馬込135-1・127-2外 | 集落跡、古墳 | 段丘面 | 中世戦国期に大規模な堀や土塁を伴う曲輪などが築かれ、防衛拠点であった可能性が考えられている。 | 16c代 | 13 |
| 津久井城跡（本城曲輪群地区） | 津久井町太井字癸1301他、根小屋字城山370-8他 | 城館跡 | 山地 | 米曲輪から本城曲輪へ通じる虎口で、階段状遺構や折れ曲がる石敷きの通路が発見された。 | 中世後半 | 14 |
| 津久井城跡（本城曲輪群地区） | 津久井町太井字癸1301他、根小屋字城山370-8他 | 城館跡 | 山地 | 過去の調査で検出された石組・石列遺構の延伸を確認し、門跡と考えられる礎石建物が検出された。 | 中世 | 15 |
| 上溝甲七号遺跡第６地点 | 中央区上溝字甲七号1887番１ | - | 台地 | 縄文時代早期・中期遺物包含層を確認、中世の掘列状柱穴群が発見されている。 | 中世前期 | 16 |
| 当麻遺跡第１地点・相模原市No. 188遺跡 | 南区当麻109-1他、96-1他 | 集落跡 | 河岸段丘上 | 中世では小規模な溝状遺構と掘立柱建物３棟、僅かな遺物が出土した。 | 中世 | 17 |
| 小保戸遺跡 | 緑区小倉地先 | 墓、集落跡 | 河岸段丘上 | 中世は長大な溝状遺構や地下式坑等が主に検出され、墓坑からは刀子と古銭の出土などを発見している。 | 16c以前～16c代 | 18 |
| 津久井城跡荒久地区 | 緑区根小屋440番２外 | 城館跡、散布地 | 山地斜面 | 縄文時代早期中心の遺構群、中世では津久井城の城郭遺構などを確認。 | 14c後半～16c後半 | 19 |

**愛甲郡**

| 遺跡名 | 所在地 | 遺跡の種別 | 立地環境 | 遺跡の概要 | 年代 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 北原（№9）遺跡内長福寺址 | 清川村大字宮ケ瀬字北原1159番地他 | 社寺、集落跡 | 段丘面 | 近世の寺域址以下層に中世の屋敷跡がⅢ期確認されている。 | 13c末～15c前半、16c中頃 | 1 |
| 宮ケ瀬遺跡群馬場遺跡（№6） | 清川村 | 集落跡 | 河岸段丘上 | 16世紀末以降～近世にかけての遺構が大半であるが、中世期に属する遺構も一部想定されている。 | 中世後半 | 2 |
| 宮ケ瀬遺跡群馬場遺跡（№3） | 清川村 | 集落跡 | 河岸段丘上 | 山裾の屋地として活用されていたと想定される土坑・土壙墓より中世遺物が確認されている。 | 13c～14c代、15c中頃～16c代 | 3 |
| 宮ケ瀬遺跡群北原遺跡（№10） | 清川村 | 集落跡 | 河岸段丘上 | 屋敷地が確認され中世末から存続が考えられているが、中世に属する遺構は少数である。 | 中世末 | 4 |
| 宮ケ瀬遺跡群馬場遺跡（№7） | 清川村 | 集落跡 | 河岸段丘上 | 中世に属する遺構・遺物は少数で、中世～近世にかけての屋敷地と推定される遺構群が検出されている。 | 15～16c代 | 5 |
| 宮ケ瀬遺跡群表の屋敷遺跡（№8） | 清川村 | 集落跡 | 河岸段丘上 | 戦国時代の方形館及びその一族の墓所が明らかになり、Ⅶ期中Ⅰ～Ⅲ期が中世期に属する。 | 13c～16c | 6 |
| 煤ケ谷古在家遺跡 | 清川村煤ケ谷字古在家地内 | その他 | 河岸段丘上 | 15世紀～江戸時代にかけて３面を検出しており、中世から構築された段切り状遺構等が確認されている。 | 15c～16c代 | 7 |

**横浜市**

| 遺跡名 | 所在地 | 遺跡の種別 | 立地環境 | 遺跡の概要 | 年代 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 長昌寺前横穴群 | 金沢区富岡町1970 | 寺院 | 小丘陵先端部の北斜面 | ５基の横穴群の西側に、傾斜面を隅丸長方形に削り込み五輪塔を据えた遺構を検出。 | 14世紀～15世紀？ | 1 |
| 駒岡遺跡Ａ地点（八千代田古墳群） | 鶴見区駒岡町1255～1269 | 古墳 | 小丘陵の北端部 | 丘陵の西側斜面に穿たれた３基の横穴転用の中世墓。 | 中世 | 2 |
| 歳勝土遺跡 | 港北区大棚町639・646 | 集落 | 早渕川中流域左岸台地南側斜面 | 火葬墓が１基確認され、計３個の骨蔵器が埋設されていた。 | 13～14世紀 | 3 |
| 六浦北部遺跡 | 金沢区六浦1771外 | やぐら | 六浦駅北の丘陵上 | ４種に分類されるやぐら22基と竪坑跡２基が確認された。 | 中世 | 4 |
| 本牧荒井やぐら | 中区本牧荒井61番地 | やぐら | 台地崖面 | やぐら１基が存在、納骨穴６ヶ所が確認。納骨穴内に火葬骨が確認された。 | 中世 | 5 |
| 坂本遺跡 | 戸塚区上矢部町字坂本2859番6 | 集落 | 阿久和川右岸の台地上 | 地下式坑が確認された。 | 中世 | 6 |
| 殿屋敷遺跡群Ｃ地区 | 港南区下永谷字角田576他 | 集落 | 丘陵の先端 | 尾根頂上部に溝状遺構が１条確認された。 | 16世紀後半 | 7 |
| 受地だいやま遺跡 | 緑区奈良町270外 | 集落 | 奈良丘陵のほぼ中央部 | 主屋と付属屋・倉庫からなる掘立柱建物、溝状遺構、井戸、土坑や地下式坑、鍛冶関連遺構も確認された。 | 14世紀後半～16世紀後半 | 8 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 長光廃寺跡 | 緑区十日市場町1241外 | 寺院 | 台地上 | 地下式坑と周辺に分布する20基前後の土壙群が確認された。その他、竪穴状遺構、掘立柱建物。 | 14世紀～16世紀 | 9 |
| 釜利谷やぐら遺跡 | 金沢区釜利谷1574番1外 | やぐら | 金沢八景駅西の丘陵崖面 | やぐらと地下式坑が確認される。やぐらは、後世の掘削が著しい。 | 中世 | 10 |
| 泥牛庵脇やぐら群 | 金沢区六浦1丁目 | やぐら | 崖面 | やぐら5基が確認された。 | 中世 | 11・12 |
| 三枚町遺跡 | 神奈川区三枚町109外 | 集落 | 台地の北端部 | プランは隅丸長方形の火葬墓を確認。火葬骨片を検出している。 | 中世後期 | 13 |
| 観福寺北遺跡 | 緑区荏田329外 | 集落 | 台地東端 | 地下式坑、火葬墓、火葬址が確認される。 | 15世紀～16世紀 | 14 |
| 虚空蔵山遺跡 | 緑区荏田町319番1外 | 集落 | 早渕川右岸、の丘陵端部 | 隅丸長方形で焼土・炭化物が覆土中に確認される竪穴状遺構が確認された。 | 中世 | 15 |
| C 16・17遺跡 | 港北区大棚町353番1外 | 集落 | 高位台地 | 墓穴とみられる土壙が確認された。 | 11世紀？ | 16 |
| 旧長沢宅(F 15)遺跡 | 港北区牛久保町1099外 | 集落 | 支谷に南面する山裾部 | 地下式坑、墓壙が確認された。 | 室町時代 | 16 |
| 川和19(ヘ19)遺跡 | 緑区川和町1745・1803 | 集落 | 尾根 | 塚南斜面から板碑出土。塚の中央部に径1mの土壙状のものが確認された。 | 中世 | 16 |
| 矢崎山(リ12)遺跡 | 緑区荏田町4539付近 | 集落 | 低位台地・同斜面 | 地下式坑、墓壙が確認された。 | 16世紀代 | 16 |
| 茅ヶ崎城 | 港北区茅ヶ崎町656(現都筑区茅ヶ崎東2丁目) | 城郭 | 斜面末端の急崖 | 6つの郭と根小屋地区で構成される城郭。 | 15世紀後半が下限 | 17・20 |
| 雪見塚(ル14) | 港北区新吉田町6060付近 | 塚 | 高位台地 | 土取り工事により削平されたが、直径10m前後、高さ2m前後と推測される。頂上付近から拳大の石と蔵骨器が出土。 | 16世紀 | 16 |
| 中村宮ノ谷遺跡 | 泉区岡津町字宮ノ谷2598 | 集落 | 緑園都市駅の南方 | 丘陵屑部を縦断する溝状遺構が確認された。 | 14～15世紀 | 21 |
| 上の山遺跡 | 緑区大熊町881～892番地 | 集落 | 大熊川の左岸小舌状台地 | 西中世墓地と東中世墓地が確認され46基の墓壙、積み石遺構が確認された。その他、溝状遺構・地業面が確認された。 | 14世紀前半～15世紀後半 | 22・23 |
| 老馬遺跡 | 港北区中川町3丁目 | 集落 | 早渕川上流の左岸の舌状台地上 | 竪坑、前室、後室からなる地下式坑が確認された。 | 中世 | 24 |
| 北川貝塚南遺跡 | 都筑区早渕3丁目5048外 | 貝塚 | 低位台地の基部 | 隅丸長方形プランの土坑が確認された。台地縁辺部を段切り状に削平した部分に小ピット群とともに集中。 | 中世以降 | 25 |
| 関耕地遺跡 | 緑区荏田字関耕地231外 | 集落 | 台地東端 | 地下式坑2基と未完掘の地下式坑と考えられる竪坑が確認される。 | 中世 | 26 |
| 宿根北遺跡 | 緑区東本郷6丁目1199番1外 | 集落 | 鶴見川右岸の河岸段丘上 | 隅丸長方形の土坑が確認された。 | 中世後期 | 27 |
| 六浦大道やぐら群 | 金沢区大道1丁目3312外 | やぐら | 丘陵の南向き縁辺 | やぐらが15基が確認された。全体的に遺存状態が悪い。 | 15世紀後半～16世紀前半 | 28 |
| 中ノ宮遺跡 | 泉区和泉町3154 | 集落 | 中位段丘面 | 4ヶ所の道状遺構や溝状遺構が確認された。道状遺構は鎌倉道に関係する可能性が報告されいる。 | 中世 | 29 |
| 西ノ谷遺跡 | 都筑区南山田2丁目1～4 | 集落 | 多摩丘陵と下末吉台地の接点 | 谷中央部に平場を造成して建物址(竪穴)・土坑・鍛冶炉・溝状遺構・地下式坑を構築している。 | 13世紀 | 30 |
| 上行寺東やぐら群 | 金沢区六浦2丁目2番18 | やぐら | 上行寺境内の西側墓地内 | やぐら2基が確認された。 | 中世前期後半 | 31 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 釜利谷やぐら群 | 金沢区釜利谷南2丁目44番8 | やぐら | 小谷戸の東側崖面 | やぐら10基が確認される。1・2号窟は谷戸の最北に位置し、その他は谷戸の東側に位置する。 | 中世 | 31 |
| 釜利谷東6丁目西地区やぐら群 | 釜利谷東6丁目 | やぐら | 金沢文庫駅から西へ約1.3km | やぐら10基が確認される。近世以降の丘陵崩壊の開削等により、残存状況は良くない。 | 中世 | 32 |
| 宿根南遺跡 | 緑区東本郷6丁目1193-1他 | 集落 | 鶴見川中流域の右岸段丘上 | 竪穴状遺構、土坑、土坑墓、溝状遺構、ピットが確認された。土坑墓内からは馬骨及び歯が出土した。 | 中世 | 33 |
| 宿根西遺跡 | 緑区東本郷6丁目1261-2他 | 集落 | 鶴見川中流域の右岸段丘上 | 土坑、溝状遺構、道状遺構、柱穴群が確認された。 | 中世以降 | 34 |
| 中ノ宮北遺跡 | 泉区和泉町3217 | 集落 | 中位段丘面 | 道状遺構、溝状遺構、土壙、ピット群が確認された。道状遺構は鎌倉道に関係する可能性が報告されている。 | 中世以降 | 35 |
| 瀬戸町やぐら群 | 金沢区瀬戸町10 | やぐら | 金沢八景駅北西の丘陵の東端 | やぐら9基が確認される。第5号やぐらの玄室床面から常滑窯大甕を利用した埋葬遺構が確認される。 | 中世 | 36 |
| 六浦三艘地区やぐら群 | 金沢区六浦町1182、1186 | やぐら | 丘陵の枝群に位置 | やぐら2基が確認された。 | 中世 | 37 |
| 釜利谷東6丁目西地区やぐら群 | 釜利谷東6丁目40付近 | やぐら | 金沢文庫駅から西へ約1.3km | やぐら22基が確認された。 | 中世 | 38 |
| 上行寺裏遺跡(瀬戸21番地やぐら群) | 金沢区瀬戸21番3 | やぐら | 金沢八景駅の北西側に位置 | やぐら6基が確認された。 | 中世 | 39 |
| 上台の山遺跡 | 都筑区仲町台3丁目12付近 | 集落 | 大熊川左岸の小舌状台地上 | 台地の南端の南西斜面に方形環濠墓があり、掘り込みから計4個の蔵骨器が埋設されていた。 | 13世紀前半 | 40 |
| 上行寺東やぐら群 | 金沢区六浦2丁目4195外 | やぐら | 平潟湾に突き出した丘陵端部。 | 大きく上中下三段にわたって遺構が分布。 | 14世紀中頃～16世紀初頭以降 | 41 |
| 寺下遺跡 | 青葉区大場町103番1外 | 集落 | 丘陵の南端部 | 火葬墓を主とする二つの中世墓群。北側中世墓群は12基、南側中世墓群は15基が確認された。 | 13世紀後半～15世紀 | 42 |
| 笠間中央公園遺跡 | 栄区笠間町794外 | 集落 | 丘陵上北側緩辺 | 掘立柱建物、竪穴状遺構、14世紀代のかわらけを出土した溝状遺構、道状遺構、火葬址が確認された。 | 14世紀 | 43 |
| 称名寺境内旧伽藍跡 | 金沢区金沢町212番 | 寺院 | 金沢文庫駅の東側 | 墓壙、礎石、地業面、水路、玉石面等称名寺の境内に関係する遺構が確認された。 | 14世紀 | 44 |
| 白幡浦島丘遺跡 | 神奈川区白幡東町3丁目10番8外 | やぐら | 入江川の右岸の台地上 | 地下式坑、井戸址が確認された。 | 中世 | 45 |
| 史跡称名寺境内旧伽藍跡 | 金沢区金沢町212番地外 | やぐら | 金沢文庫駅の東約0.7km | やぐら1基が確認された。 | 中世 | 46 |
| 桂台北遺跡 | 栄区公田町1575番地2他 | 集落 | 台地上 | 掘立柱建物1棟と段切状遺構を確認した。 | 中世 | 47 |
| 杉田東瀬寺貝塚 | 磯子区杉田1丁目8番1 | 貝塚 | 根岸湾に臨む沖積低地 | 火葬址や平面形は概ね楕円～不整円形が主の土坑が確認された。 | 15～16世紀 | 48 |
| 西見谷遺跡 | 戸塚区上倉田町1146-14外 | 集落 | 丘陵上 | 3基の塚が直線距離で約80m離れて確認された。中世以降の溝状遺構も3状確認された。 | 中世 | 49 |
| 川和中村A遺跡 | 都筑区川和町1836番6～1281番3 | 集落 | 谷本川左岸の沖積地 | 竪穴状遺構、溝状遺構、段切遺構、井戸址、土坑、ピットが確認された。 | 中世以降 | 50 |
| 六浦大道遺跡 | 金沢区大道1-30-1 | 集落 | 三浦丘陵に挟まれた沖積低地上 | 土地区画に関連する溝状遺構、切石状遺構が確認された。 | 中世 | 51・52 |
| 新羽南遺跡 | 港北区新羽町964番地2外 | 集落・古墳 | 丘陵 | 文明9(1477)年の長尾景春の乱の時に太田道灌により築かれた「亀甲山陣城」址に比定されている。 | 中世以降 | 53 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 釜利谷赤坂やぐら群 | 金沢区釜利谷東4丁目3867-1 | やぐら | 丘陵に挟まれた谷戸内 | やぐら1基が確認された。 | 15世紀後半が下限 | 54 |
| 杉田東瀬寺貝塚 | 都筑区勝田町760 | 貝塚 | 沖積低地 | 溝状遺構や地業面、墓1基が確認された。再葬された墓で明確な掘り込みは確認されなかった。 | 中世 | 55 |
| 上行寺裏遺跡(瀬戸14番地やぐら群) | 金沢区瀬戸14-6 | やぐら | 谷戸 | やぐら14基が確認された。1号やぐらの玄室床面から地下式坑の竪坑が造られている。 | 15世紀 | 56-58 |
| 立野遺跡 | 戸塚区舞岡町3048-1 | 古墳 | 丘陵上 | 中世～近世初頭の道路状遺構や塚が確認された。 | 中世末 | 59 |
| 光傳寺やぐら群 | 金沢区六浦3丁目3535-1 | やぐら | 金沢八景駅南西の丘陵上 | やぐら12基が確認された。 | 中世 | 60 |
| 瀬ヶ崎和田山遺跡 | 金沢区六浦東1-275他 | やぐら | 平潟湾南側の丘陵斜面 | やぐら2基が確認された。 | 中世 | 61 |
| 上行寺裏遺跡(六浦二丁目5番地やぐら) | 金沢区六浦3848-1他 | やぐら | 金沢八景駅南側の丘陵崖面 | やぐら13基と地下式坑2基が確認された。 | 中世 | 62-63 |
| 釜利谷東6丁目北地区やぐら群 | 釜利谷東6-3476-1 | やぐら | 丘陵 | 6基のやぐらを確認したが、川迫巣の開削を受け構築当初の状態は失われていた。 | 室町時代 | 64 |
| 上行寺裏遺跡(六浦二丁目3番地やぐら) | 六浦二丁目4224 | やぐら | 丘陵の崖裾 | やぐら2基が確認された。 | 中世 | 65 |
| 上飯田天神山古墳 | 泉区飯田町字天神山1072外 | 古墳 | 境川東岸大地縁辺 | 中世以降に古墳を塚として積み直し墓域として二次利用。土坑墓上りかわらけが出土。 | 13世紀～14世紀 | 66 |
| 坂本元屋敷やぐら群 | 釜利谷東7-176他 | やぐら | 丘陵尾根の末端 | やぐら1基が確認された。玄室内に五輪塔、宝篋印塔が安置されていた。 | 中世 | 67 |
| 朝比奈町やぐら群 | 金沢区朝比奈町467番地1他 | やぐら | 北側丘陵裾 | やぐら4基が確認された。後世の改変が著しい。 | 中世 | 67-69 |
| 瀬戸神社旧境内地内遺跡 | 金沢区瀬戸4503-5～4504-3 | 寺院 | 金沢八景駅の東側 | 地業面1ヶ所が確認された。 | 15世紀 | 70 |
| 寺尾城址 | 鶴見区馬場3丁目563番2外 | 城郭 | 台地上 | 15世紀後半代に構築された墓域と雛壇状削平された郭状の平場、土塁の基部、南北に走る堀が確認された。 | 15～16世紀 | 71 |
| 上郷石原やぐら | 栄区上郷町951-3 | やぐら | 鼬川右岸の河岸段丘の裾部 | やぐら2基が確認された。 | 中世 | 72-73 |

**藤沢市**

| 遺跡名 | 所在地 | 遺跡の種別 | 立地環境 | 遺跡の概要 | 年代 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 大庭城址(第一次調査) | 大庭字城山 | 城館 | 台地 | 出土遺物は少ない。 | 中世 | 1 |
| 大庭城址(第二次調査) | 大庭字城山 | 城館 | 台地 | 壕内でかわらけ(完形)が出土。 | 15c～16c | 2 |
| 西部215地点遺跡 | 遠藤滝ノ沢951番 | 耕作地集落 | 台地 | 遺構外から中世遺物が出土。 | 中世 | 3 |
| 代官山遺跡 | 長後1894 | (耕作地) | 台地(斜面) | 溝は覆土から中世と推定。遺構外でかわらけが出土している。 | 中世 | 4 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 川名849番地横穴墓群 | 川名849番地 | 横穴墓 | 丘陵 | やぐら転用。第1号～第3号横穴墓から中世遺物が出土。 | 14c～15c前半 | 5 |
| 高倉遺跡 | 高倉968～2118番 | 耕作地<br>集落 | 台地 | 土坑からかわらけ1点が出土。 | 中世以降<br>16c | 6 |
| 大庭城址公園内遺跡 | 大庭6264番 | 城館 | 台地 | 大庭城の南西部斜面の調査。 | | 7 |
| 西部212地点遺跡 | 大庭字二番構5540外 | 耕作地<br>集落 | 台地 | 2号溝から宋銭5点が出土。 | 中世 | 8 |
| 湘南藤沢キャンパス内遺跡 | 遠藤字刈込5355外 | 耕作地<br>集落 | 台地 | 土坑墓から中世遺物が出土。 | 中世後半<br>(15c～16c) | 9 |
| 今田遺跡 | 今田688番-1 | 墓 | 台地 | 墓地から中世遺物が出土。 | 14c中～15c前半 | 10 |
| 渡内遺跡 | 渡内582-1 | 城館 | 台地 | 玉縄城あるいは二伝寺砦に関連する遺構か。 | 中世 | 11 |
| 二伝寺砦遺跡 | 渡内563番地外 | 城館 | 台地 | 玉縄城あるいは二伝寺砦に関連する遺構か。 | 中世後半<br>(16c) | 12 |
| 片瀬大源太遺跡 | 片瀬1-1-1 | 集落 | 砂丘 | 遺構外から中世遺物が出土。 | 13c～15c? | 13 |
| №112遺跡 | 円行一丁目12-3 | 耕作地<br>集落 | 台地 | 屋敷を囲む薬研堀状の溝を検出。 | 中世末 | 14 |
| 用田鳥居前遺跡 | 用田655 | 耕作地<br>屋敷地 | 台地 | 溝から投棄されたかわらけ14枚が一括出土。 | 13c～14c<br>15c～16c | 15 |
| 用田大河内遺跡 | 用田1534 | 耕作地<br>屋敷地 | 台地 | 溝で区画された屋敷地。用田辻を中心とした中世集落の一部。 | 13c～16c | 16 |
| 鵜原滝谷遺跡・<br>鵜原下滝谷遺跡 | 鵜原1715, 1689 | (耕作地) | 台地 | 溝は覆土から中世と推定。 | 中世 | 17 |
| 用田南原遺跡 | 用田541 | 耕作地<br>屋敷地 | 台地 | 溝は覆土から中世と推定。ピットからかわらけが出土している。 | (15c) | 18 |
| 用田鳥居前遺跡Ⅱ | 用田1552-10 | 耕作地<br>屋敷地 | 台地 | 出土遺物は少ない。道路状遺構は旧「中原街道」と推定。 | 中世 | 19 |
| 御弊山遺跡 | 藤が岡1-4 | 集落 | 台地 | 遺構に伴う遺物は少ない。 | 16c～ | 20 |

**茅ヶ崎市**

| 遺跡名 | 所在地 | 遺跡の種別 | 立地環境 | 遺跡の概要 | 年代 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 下町屋遺跡 | 下町屋3丁目 | (耕作地) | 砂丘<br>後背湿地 | 鶴嶺神社南方に位置する。中世の耕作地か。溝状遺構を検出。 | 16cか(宝永以前) | 1 |
| 池袋C遺跡 | 小和田地内 | 不明 | 沖積地・台地 | 遺構の有無は不明。遺物はかわらけ・中世陶器が出土。 | 中世 | 2 |
| 流し面遺跡 | 松林(旧菱沼流し面)地内 | 不明 | 沖積地・台地 | 遺構の有無は不明。遺物はかわらけが出土。 | 中世 | 2 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 二図A遺跡 | 市内各所 | 不明 | 沖積地・台地 | 遺構の有無は不明。遺物は中世陶器が出土。 | 中世 | 2 |
| 已待田B遺跡 | 小和田(已待田)地内 | 不明 | 沖積地・台地 | 遺構の有無は不明。遺物は常滑が出土。 | 中世 | 2 |
| 臼久保A遺跡 | 芹沢(臼久保)4220他、行谷(広町)他 | 不明 | 沖積地・台地 | 遺構の有無は不明。遺物は常滑が出土。 | 中世 | 3 |
| 大谷C遺跡 | 芹沢(大谷)地内 | 不明 | 沖積地・台地 | 遺構の有無は不明。遺物は中世陶器が出土。 | 中世 | 3 |
| 長久保A遺跡 | 行谷(長久保)、(広町)、下寺尾(東方)、(北方)地内 | 不明 | 沖積地・台地 | 遺構の有無は不明。遺物はかわらけが出土。 | 中世 | 3 |
| 長久保B遺跡 | 行谷(長久保)、(広町)、下寺尾(東方)、(北方)地内 | 不明 | 沖積地・台地 | 遺構の有無は不明。遺物は常滑が出土。 | 中世 | 3 |
| 西方A遺跡 | 下寺尾地内 | 不明 | 沖積地・台地 | 遺構の有無は不明。遺物は中世陶器が出土。 | 中世 | 3 |
| 西方B遺跡 | 下寺尾地内 | 不明 | 沖積地・台地 | 遺構の有無は不明。遺物は常滑が出土。 | 中世 | 3 |
| 赤羽根二図B遺跡 | 赤羽根340 | 集落 | 自然堤防上 | 古代～近世の複合遺跡。 | 中近世 | 4 |
| 円蔵・下ヶ町A遺跡 | 円蔵2449ほか | 集落 | 自然堤防上 | 中世主体の集落址。 | 中世 | 4 |
| 円蔵・鶴ヶ町遺跡 | 円蔵80ほか | 集落 | 自然堤防上 | 主体は古代の集落。中世と断定できる遺構はない。 | 中世 | 4 |
| 下町屋石原A遺跡 | 下町屋2-3、4、5ほか | 集落 | 自然堤防上 | 古代～近世の複合遺跡。 | 中世 | 4 |
| 西久保上ノ町・広町遺跡 | 西久保上ノ町1526ほか | 集落 | 自然堤防上 | 古代～近世の複合遺跡。中世の遺構には、土壙・ピット・溝などがある。 | 中近世 | 4 |
| 西久保上ノ町遺跡 | 西久保字上ノ町820～830ほか | 集落 | 自然堤防上 | 古代～近世の複合遺跡。中世の遺構には、土壙・井戸・溝などがある。 | 中世 | 4 |
| 浜之郷石原A遺跡 | 浜之郷770ほか | 集落 | 自然堤防上 | 主体は古代の集落。中世と断定できる遺構はない。 | 中世 | 4 |
| 浜之郷中谷遺跡 | 浜之郷313付近 | 集落 | 自然堤防上 | 古代～近世の複合遺跡。 | 中世 | 4 |
| 浜之郷宮ノ越・西ノ谷上遺跡 | 浜之郷506付近 | 集落 | 自然堤防上 | 古代～近世の複合遺跡。 | 中世 | 4 |
| 菱沼津戸田C遺跡 | 菱沼三丁目 | 集落 | 自然堤防上 | 弥生～中近世の複合遺跡。 | 中近世 | 4 |
| 本村前ノ田遺跡 | 本村四丁目10ほか | 集落 | 自然堤防上 | 主体は古代の集落。中世と断定できる遺構はない。 | 中世 | 4 |
| 矢畑・金山遺跡 | 矢畑字金山91-1、92-3 | 集落 | 自然堤防上 | 中世主体の集落址。 | 中世 | 4 |
| 矢畑金山遺跡 | 矢畑34-2、3 | 集落 | 自然堤防上 | 古代～中世の複合遺跡。 | 中近世 | 4 |

**相模原市**

1 相模原市橋本遺跡調査会　1986『橋本伊遺跡Ⅷ　歴史時代編』橋本遺跡調査団

2 大上周三・御堂島正・砂田佳弘　1988『新戸遺跡　第2分冊』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告17　神奈川県立埋蔵文化財センター

3 相模原市古淵B遺跡発掘調査団 1990『神奈川県相模原市　古淵B遺跡・都市計画道路古淵麻溝台線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告・』相模原市古淵B遺跡発掘調査団

4 御堂島正・河野喜映・恩田勇　1992『川尻遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告23　神奈川県立埋蔵文化財センター

5 河野喜映・井澤純　1995『青野原バイパス関連遺跡』かながわ考古学財団調査報告5

6 河野喜映・井澤純　1996『青野原バイパス関連遺跡』かながわ考古学財団調査報告5

7 河野喜映・井澤純　1995『青野原バイパス関連遺跡』かながわ考古学財団調査報告5

8 服部実喜・小川岳人　1997『青山関戸遺跡』かながわ考古学財団調査報告29

9 迫和幸・中山豊　1999『当麻谷原遺跡発掘調査報告書ー鉄塔建設工事（佐久間東岭線一部建て替え工事）に伴う事前調査ー』相模原市№189遺跡発掘調査団

10 須藤あけみ・境雅仁　2007『相模原市田名坂上遺跡第6地点・相模原市田名1268番2外における埋蔵文化財発掘報告書』武相文化財研究所

11 近藤英夫・佐藤昌彦ほか　2009『津久井城』相模原市埋蔵文化財調査報告38　相模原市教育委員会

12 加藤勝仁・相良英樹　2009『津久井城跡（本城曲輪群地区）』かながわ考古学財団調査報告239

13 島中俊明・濱谷正信ほか　2010『津久井城跡馬込地区』かながわ考古学財団調査報告249

14 相良英樹・上村和直　2010『津久井城跡（本城曲輪群地区）』かながわ考古学財団調査報告246

15 相良英樹・井関文明　2011『津久井城跡（本城曲輪群地区）Ⅲ』かながわ考古学財団調査報告261

16 中山豊　2013『上溝中七号遺跡　第6地点発掘調査報告書』玉川文化財研究所

17 大塚健一ほか　2013『当麻遺跡第1地点』かながわ考古学財団調査報告287

18 戸羽康一ほか　2013『小保戸遺跡』かながわ考古学財団調査報告288

19 河本雅人・鯉渕義紀・今野泰樹　2015『津久井城荒久地区発掘調査報告書』相模原市埋蔵文化財調査報告46　相模原市教育委員会

**愛甲郡**

1 市川正史・長谷川正　1993『宮ケ瀬遺跡群Ⅲ』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告21　神奈川県立埋蔵文化財センター

2 鈴木次郎・近野正幸　1995『宮ケ瀬遺跡群Ⅴ』かながわ考古学財団調査報告4

3 冨永樹之　1996『宮ケ瀬遺跡群Ⅶ』かながわ考古学財団調査報告9

4 市川正史・能嶋政義・鈴木次郎・恩田勇　1997『宮ケ瀬遺跡群Ⅸ』かながわ考古学財団調査報告15

5 市川正史・能嶋政義・鈴木次郎・恩田勇　1997『宮ケ瀬遺跡群Ⅺ』かながわ考古学財団調査報告17

6 近野正幸・恩田勇・谷口肇　1997『宮ケ瀬遺跡群ⅩⅢ』かながわ考古学財団調査報告19

7 小山裕之・中山豊・伊丹徹　2015『煤ケ谷古在家遺跡　県道64号（伊勢原津久井）古在家バイパス工事に伴う発掘調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書32　株式会社玉川文化財研究所

**横浜市**

1 井上義弘　1971「横浜市金沢区富岡町長昌寺前横穴群発掘調査報告」『昭和46年度横浜市埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）』横浜市埋蔵文化財調査委員会

2 井上義弘　1972『横浜市鶴見区駒岡遺跡群調査報告』横浜市埋蔵文化財調査委員会

3 須山幸雄　1975「歳勝土遺跡」『港北ニュータウンⅤ』横浜市埋蔵文化財調査委員会

## 中世研究プロジェクトチーム


4 岡崎文喜他　1982『六浦北部遺跡』六浦北部遺跡調査団

5 山本隆久　1983『横浜市中区本牧荒井地区発見の中世墓地調査報告』神奈川県埋蔵文化財調査報告 25　神奈川県教育委員会

6 小林義典　1985『坂本遺跡発掘調査報告書』坂本遺跡発掘調査団・松下電気上矢部グラウンド発掘調査団

7 田村良照　1985『殿屋敷遺跡群C地区発掘調査報告書』玉川文化財研究所

8 伊藤正義・荒川正明他　1986『奈良地区遺跡群Ⅰ発掘調査報告　№11 地点　受地だいやま遺跡』下巻　奈良地区遺跡調査団

9 伊藤郭他　1986『長光廃寺跡』横浜市埋蔵文化財調査委員会

10 武部喜光・近江屋成陽　1987『釜利谷やぐら遺跡』釜利谷やぐら遺跡調査団

11 砂田佳弘　1987『泥牛庵脇やぐら群』神奈川県立埋蔵文化財センター・神奈川県土木部横浜治水事務所

12 長岡文紀　1988『泥牛庵脇やぐら群Ⅱ』神奈川県立埋蔵文化財センター・神奈川県土木部横浜治水事務所

13 高橋勝広他　1988『三枚町遺跡発掘調査報告書』県営三枚町団地予定地内遺跡発掘調査団

14 平子順一・鹿島保宏　1989『観福寺北遺跡・新羽貝塚発掘調査報告』横浜市埋蔵文化財調査委員会

15 近藤真佐夫　1990『虚空蔵山遺跡』日本窯業史研究所

16 横浜市埋蔵文化財センター　1990「全遺跡調査概要」『港北ニュータウンX』横浜市埋蔵文化財センター

17 坂本彰　1991『茅ヶ崎城』横浜市教育委員会

18 坂本彰　1994『茅ヶ崎城Ⅱ』財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

19 坂本彰　2000『茅ヶ崎城Ⅲ』財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

20 鹿島保宏・鈴木重信　2006『茅ヶ崎城址埋蔵文化財本発掘調査報告書』財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

21 呉地英夫　1992『中村宮ノ谷遺跡発掘調査報告書』中村宮ノ谷遺跡発掘調査団

22 坂上克弘他　1992「上の山遺跡」『港北ニュータウンXⅢ』横浜市埋蔵文化財センター

23 坂上克弘他　1992『上の山遺跡』横浜市埋蔵文化財センター

24 武井則道　1996『老馬遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 21　財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会

25 鹿島保宏・鈴木重信・橋本昌幸　1997『畳屋の上遺跡・西谷戸の上遺跡・北川貝塚南遺跡』日本道路公団・財団法人横浜市ふるさと歴史財団

26 田村良照　1997『観福寺北遺跡群　関耕地遺跡発掘調査報告書』観福寺北遺跡発掘調査団

27 小山裕之他　1997『宿根北遺跡発掘調査報告書』宿根北遺跡発掘調査団

28 鹿島保宏・鈴木重信　1997『六浦大道やぐら群発掘調査報告書』神奈川県横浜治水事務所・財団法人横浜市ふるさと歴史財団

29 平子順一・橋本昌幸・鈴木重信　1997『下飯田林・中ノ宮・草木遺跡発掘調査報告』財団法人横浜市ふるさと歴史財団

30 坂本彰他　1997『西ノ谷遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 23　財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会

31 田代郁夫他　1998『中世石窟遺構の調査Ⅱ』東国歴史考古学研究所調査研究報告第 15 集　東国歴史考古学研究所

32 長谷川厚・小川岳人　1999『釜利谷東6丁目西地区やぐら群』かながわ考古学財団調査報告 63

33 北平朗久・中山豊　1999『宿根南遺跡発掘調査報告書』宿根南遺跡発掘調査団

34 中山豊・北平朗久　1999『宿根西遺跡発掘調査報告書』宿根西遺跡発掘調査団

35 鹿島保宏・鈴木重信　1999『中ノ宮北遺跡発掘町報告書』財団法人横浜市ふるさと歴史財団

36 長谷川厚・植山英史　2000『瀬戸町やぐら群・横穴墓』かながわ考古学財団調査報告 86

37 長谷川厚　2000『六浦三艘地区やぐら群』かながわ考古学財団調査報告 99

38 上田薫・植山英史　2000『釜利谷東6丁目西地区やぐら群（2次）』かながわ考古学財団調査報告 107

39 宮坂淳一・鈴木唐一郎　2001『上行寺裏遺跡（瀬戸 21 番地やぐら群）』かながわ考古学財団調査報告 124

40 坂上克弘　2002『上台の山遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 30　財団法人横浜市ふるさと歴史財団・横浜市教育委員会

41 小林義典　2002『上行寺東やぐら群遺跡発掘調査報告書』上行寺東やぐら群遺跡発掘調査団

42 渡辺務　2003『寺下遺跡』日本窯業史研究所

43 鹿島保宏他　2003『笠間中央公園遺跡発掘調査報告書』横浜市緑政局・財団法人横浜市ふるさと歴史財団

44 鹿島保宏・橋本昌幸　2003『史跡称名寺境内伽藍跡確認調査報告書』財団法人横浜市ふるさと歴史財団

45 櫻井真貴・中田英　2003『白幡浦島丘遺跡』かながわ考古学財団調査報告 152

46 鹿島保宏・橋本昌幸　2003『史跡称名寺境内旧伽藍跡確認調査に伴う埋蔵文化財調査報告』財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

47 戸田哲也・坪田弘子　2004『桂台北遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所

48 鈴木重信・平子順一　2004『杉田東漸寺貝塚発掘調査報告書』横浜市教育委員会・財団法人横浜市ふるさと歴史財団

49 鈴木重信・鹿島保宏・橋本昌幸　2004『西見谷遺跡発掘調査報告』横浜市道路局、財団法人横浜市ふるさと歴史財団

50 橋本昌幸・平子順一　2004『川和中村A遺跡』財団法人横浜市ふるさと歴史財団

51 吉田政行他　2004『六浦大道遺跡』かながわ考古学財団調査報告 169

52 井関文明他　2006『六浦大道遺跡Ⅱ 』かながわ考古学財団調査報告 206

53 伊東甚吉 他　2006『新羽南遺跡 新羽南古墳発掘調査報告書』玉川文化財研究所

54 加藤勝仁・汐見一夫　2006『釜利谷赤坂やぐら群』かながわ考古学財団調査報告 197

55 鹿島保宏・橋本昌幸　2006『杉田東漸寺貝塚本発掘調査報告』横浜市教育委員会、財団法人横浜市ふるさと歴史財団

56 加藤勝仁・川嶋実佳子　2007『上行寺裏遺跡（瀬戸 14 番地やぐら群）』かながわ考古学財団調査報告 211

57 加藤勝仁・井関文明　2008『上行寺裏遺跡（瀬戸 14 番地やぐら群）Ⅱ 』かながわ考古学財団調査報告 217

58 加藤勝仁・小西絵美他　2009『上行寺裏遺跡（瀬戸 14 番地やぐら群）Ⅲ 』かながわ考古学財団調査報告 241

59 相原俊夫・香川達郎他　2007『立野遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所

60 小林晴生・小林義典　2007『光傳寺北やぐら群発掘調査報告書』玉川文化財研究所

61 新開基史・吉田智哉　2008『瓶ヶ崎和田山遺跡 』かながわ考古学財団調査報告 227

62 新開基史・鹿島保宏　2008『上行寺裏遺跡（六浦二丁目 5 番地やぐら群）』かながわ考古学財団調査報告 225

63 近藤匡樹・吉田映子　2009『上行寺裏遺跡（六浦二丁目 5 番地やぐら）Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告 234

64 滝澤充・菊池良之　2009『釜利谷東 6 丁目北地区やぐら群』株式会社盤古堂

65 井関文明　2009『上行寺裏遺跡（六浦二丁目 3 番地やぐら）』かながわ考古学財団調査報告 233

66 滝澤充・浅賀貴広　2010『上飯田天神山古墳』株式会社盤古堂

67 小川岳人　2011『朝比奈町やぐら群・坂本元屈敷やぐら群』かながわ考古学財団調査報告 270

68 宮坂淳一　2012『朝比奈町やぐら群Ⅱ』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 2　かながわ考古学財団

69 横山太郎他　2013『朝比奈町やぐら群Ⅲ』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 8　吾妻考古学研究所

70 鹿島保宏　2013『瀬戸神社旧境内地内遺跡』公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団

71 小山裕之・小林晴生・前川昭彦　2013『帝尾城址』玉川文化財研究所

72 石川真紀　2013『上郷町石原やぐら』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 12　玉川文化財研究所

73 石川真紀　2013『上郷町石原やぐら群第 2 次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書 16　玉川文化財研究所

**藤沢市**

1 奥田直栄・大三輪龍彦　1968『第一次大庭城址発掘調査概報』藤沢市西部開発事務局

2 奥田直栄・大三輪龍彦　1969『第Ⅱ次大庭城址発掘調査概報』藤沢市西部開発事務局

3 寺田兼方・澤田大太郎ほか　1983『藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査報告書　西部 215 地点遺跡』同地内埋蔵文化財発掘調査団

4 上田薫・砂田佳弘・宍戸信悟・大上周三・中田英　1986『代官山遺跡』神奈川県埋蔵文化財センター調査報告 11

5 寺田兼方・藤原直人　1987『藤沢市川名 849 番地横穴墓群発掘調査報告書』川名 849 番地横穴墓群発掘調査団

6 秋山重美・相原俊夫　1990『高倉遺跡発掘調査報告書』高倉遺跡発掘調査団

7 加藤信夫　1991『大庭城址公園内遺跡発掘調査報告書』大庭城址公園整備事業区域内埋蔵文化財発掘調査会

8 寺田兼方・澤田大太郎ほか　1992『藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査報告書　西部 212 地点遺跡』同地内埋蔵文化財発掘調査団

9 辻　真人・岡本孝之　1992『湘南藤沢キャンパス内遺跡　第 4 巻』慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室

10 秋山重美・麻生順司　1992『今田遺跡発掘調査報告書』今田遺跡発掘調査団

11 秋山重美　1993『渡内遺跡発掘調査報告書』渡内遺跡発掘調査団

12 秋山重美・麻生順司　1996『二伝寺砦遺跡発掘調査報告書』二伝寺砦遺跡発掘調査団

13 寺田兼方　1997『片瀬大源太遺跡発掘調査報告書（ミネベア藤沢製作所内）』大源太遺跡発掘調査団

14 大坪宣雄　2000『藤沢市№ 112 遺跡発掘調査報告書』藤沢市№ 112 遺跡発掘調査団

15 栗原伸好・新開基史・中田英・葉山俊章・天野賢一　2002『用田鳥居前遺跡』かながわ考古学財団調査報告 128

16 栗原伸好・新開基史・中田英・葉山俊章・天野賢一　2002『用田大河内遺跡』かながわ考古学財団調査報告 167

17 新開基史・栗原伸好・天野賢一・中田英・畠中俊明・葉山俊章　2003『葛原滝谷遺跡・葛原下滝谷遺跡』かながわ考古学財団調査報告 151

18 栗原伸好・中田英・葉山俊章・天野賢一・新開基史　2004『用田南原遺跡』かながわ考古学財団調査報告 168

19 新開基史・中田英・吉田政行・永井淳　2004『用田鳥居前遺跡Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告 185

20 宮井香・飯塚美保　2006『御幣山遺跡』かながわ考古学財団調査報告 202

**茅ヶ崎市**

1 日野一郎ほか　1976『神奈川県茅ヶ崎市下町屋における緊急調査の記録』下町屋遺跡発掘調査団

2 茅ヶ崎市教育委員会　1980『昭和 53 年度 茅ヶ崎市遺跡分布調査報告（松林地区・茅ヶ崎地区・小出地区）』

3 茅ヶ崎市教育委員会　1981『昭和 54 年度 茅ヶ崎市遺跡分布調査報告（小出地区・鶴嶺地区）』

4 茅ヶ崎市教育委員会　1992『第 3 回茅ヶ崎市遺跡発表会 発表要旨』

# 近世道状遺構の集成（2）

近世研究プロジェクトチーム

## はじめに

本プロジェクトチームでは、昨年度より近世道状遺構の集成を行っている。

県内の遺跡で発見され、報告されている近世の道状遺構のデータを集成し、規模や構築方法等について検討していく予定である。今回は吉岡遺跡群を取り上げる。

### 凡　例

・遺構名は報告書の記載に基づく（第１表）。

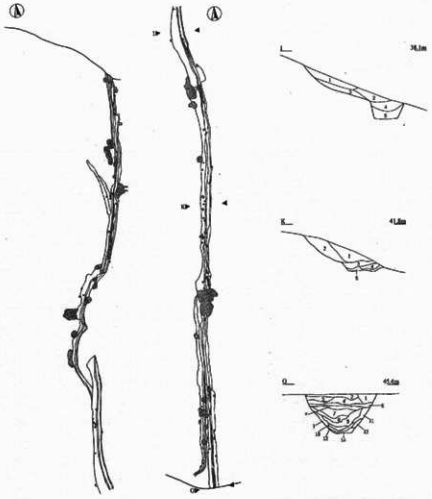
・縮尺は平面図がスペースに収まるような大きさに適宜変えているため、図ごとに示した。

・断面図は報告書に複数記載されている例もあるが、一部を記載することにした。

**第１表**　吉岡遺跡群における道状遺構一覧表

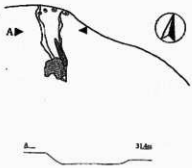
| 資料No. | 遺跡名 | 遺構名 | 文献名 |
|---|---|---|---|
| 19 | 吉岡遺跡群（AIK） | １号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 20 | 吉岡遺跡群（AIK） | ２号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 21 | 吉岡遺跡群（AIK） | ６号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 22 | 吉岡遺跡群（AIK） | ３号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 23 | 吉岡遺跡群（AIK） | ４号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 24 | 吉岡遺跡群（AIK） | ５号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 25 | 吉岡遺跡群（AIK） | ７号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 26 | 吉岡遺跡群（AIK） | ８号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 27 | 吉岡遺跡群（AIK） | ９号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 28 | 吉岡遺跡群（AIK） | 10号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 29 | 吉岡遺跡群（AIK） | 11号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 30 | 吉岡遺跡群（AIK） | 12号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 31 | 吉岡遺跡群（AIK） | １号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 32 | 吉岡遺跡群（AIK） | ３号道状遺構 | 1999年　『吉岡遺跡群Ⅶ』　かながわ考古学財団調査報告47 |
| 33 | 吉岡遺跡群（BIK　第２次調査） | K１号道状遺構 | 2003年　『吉岡遺跡群Ⅹ』　かながわ考古学財団調査報告153 |
| 34 | 吉岡遺跡群（BIK　第２次調査） | K２号道状遺構 | 2003年　『吉岡遺跡群Ⅹ』　かながわ考古学財団調査報告153 |
| 35 | 吉岡遺跡群（BIK　第２次調査） | K３号道状遺構 | 2003年　『吉岡遺跡群Ⅹ』　かながわ考古学財団調査報告153 |
| 36 | 吉岡遺跡群（BIK　第２次調査） | K５号道状遺構 | 2003年　『吉岡遺跡群Ⅹ』　かながわ考古学財団調査報告153 |
| 37 | 吉岡遺跡群（BIK　第２次調査） | K４号道状遺構 | 2003年　『吉岡遺跡群Ⅹ』　かながわ考古学財団調査報告153 |
| 38 | 吉岡遺跡群（BIK　第２次調査） | K６号道状遺構 | 2003年　『吉岡遺跡群Ⅹ』　かながわ考古学財団調査報告153 |
| 39 | 吉岡遺跡群（BIK　第２次調査） | K７号道状遺構 | 2003年　『吉岡遺跡群Ⅹ』　かながわ考古学財団調査報告153 |

| 資料No. | 19 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群A区 |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | 1号道状遺構 | | |
| 道 幅 | 1.0～3.6m | | |
| 年 代 | 近世初期には埋没か | | |
| 備 考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長202.8m（調査区外へ続く）、所々で枝分かれし南側は二股に分かれている、掘り直しによる継続使用、覆土最上層に宝永火山灰堆積 | | |



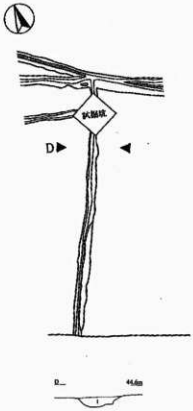
| 縮 尺 | （平面図）1/800、（断面図）1/100 |
|---|---|

| 資料No. | 20 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群Ａ区 |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | ２号道状遺構 | | |
| 道幅 | 1.6～2.0m | | |
| 年　代 | 近世後半 | | |
| 備　考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長11.8m以上（調査区外へ延びる）、1号道状遺構から枝分かれした支道 | | |




縮　尺　（平面図）1/400、（断面図）1/100

| 資料No. | 21 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群Ａ区 |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | ６号道状遺構 | | |
| 道幅 | 0.6～1.8m | | |
| 年　代 | 近世後半～近代 | | |
| 備　考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長32.7m、北端は3～5号道状遺構と交差、南側は7号道状遺構と繋がっていた可能性あり | | |

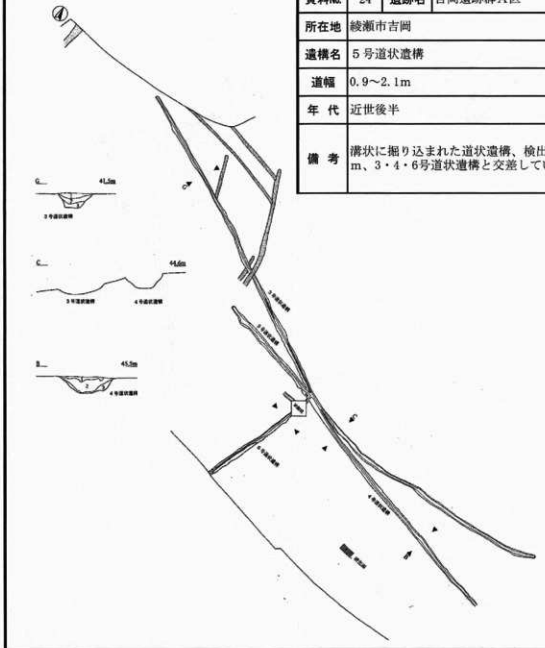



縮　尺　（平面図）1/500、（断面図）1/100

| 資料No. | 22 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群A区 |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | 3号道状遺構 | | |
| 道幅 | 0.6～1.8m | | |
| 年代 | 近世後半以降 | | |
| 備考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長163.8m、4～6号道状遺構と交差している | | |

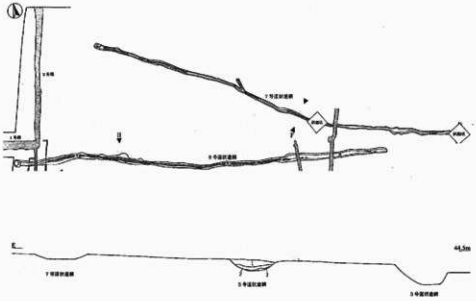
| 資料No. | 23 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群A区 |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | 4号道状遺構 | | |
| 道幅 | 0.6～1.5m | | |
| 年代 | 近世後半以降 | | |
| 備考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長72.6m、3・5・6号道状遺構と交差している | | |

| 資料No. | 24 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群A区 |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | 5号道状遺構 | | |
| 道幅 | 0.9～2.1m | | |
| 年代 | 近世後半 | | |
| 備考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長31.2m、3・4・6号道状遺構と交差している | | |



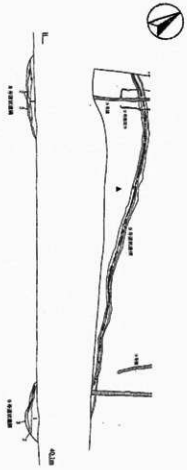

縮尺 （平面図）1/1000、（断面図）1/100

| 資料No. | 25 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群Ａ区 | 資料No. | 26 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群Ａ区 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | | 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | ７号道状遺構 | | | 遺構名 | ８号道状遺構 | | |
| 道幅 | 0.6～1.8m | | | 道幅 | 0.9～2.4m | | |
| 年 代 | 近世後半 | | | 年 代 | 近代 | | |
| 備 考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長98.4m、北へ分岐する支道状遺構あり | | | 備 考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長99.6m | | |



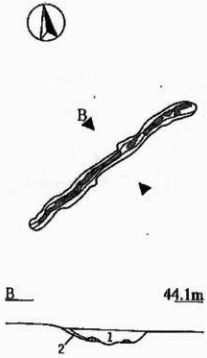

縮 尺 （平面図）1/1000、（断面図）1/100

| 資料No. | 27 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群A区 |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | 9号道状遺構 | | |
| 道幅 | 0.7～2.1m | | |
| 年代 | 近世後半 | | |
| 備考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長93.0m（調査区外へ続く） | | |



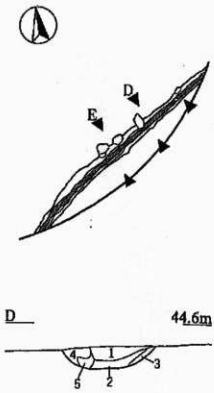
縮尺　（平面図）1/1000、（断面図）1/100

| 資料No. | 28 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群A区 |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | 10号道状遺構 | | |
| 道幅 | 0.6～1.2m | | |
| 年代 | 近世後半 | | |
| 備考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長16.8m、10m南に平行して走行する11号道状遺構あり | | |




縮尺　（平面図）1/300、（断面図）1/40

| 資料No. | 29 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群Ａ区 |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | 11号道状遺構 | | |
| 道幅 | 0.7～1.3m | | |
| 年 代 | 近世後半 | | |
| 備 考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長20.6m、10m北に平行して走行する10号道状遺構あり | | |

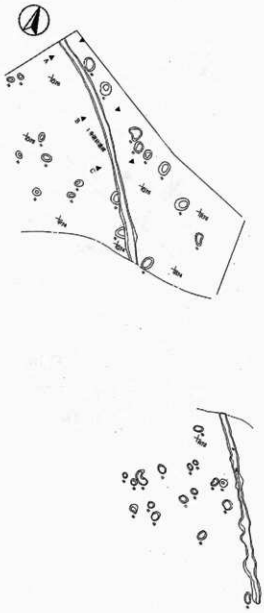



縮 尺 （平面図）1/300、（断面図）1/40

| 資料No. | 30 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群Ａ区 |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | 12号道状遺構 | | |
| 道幅 | 1.0～1.2m | | |
| 年 代 | 近代 | | |
| 備 考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長5.6m（南側は調査区外へ続く）、何回かの作り替えの可能性あり | | |

縮 尺 （平面図）1/300、（断面図）1/40

| 資料No. | 31 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群B区（第2次調査） |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | 1号道状遺構 | | |
| 道幅 | 1.9～2.1m | | |
| 年代 | 近世後半 | | |
| 備考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長84.3m（北側は調査区外へ続く） | | |

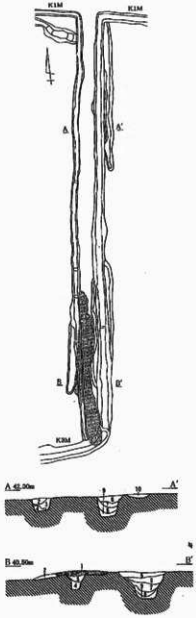


縮尺　（平面図）1/600、（断面図）なし

| 資料No. | 32 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群B区（第2次調査） |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | 3号道状遺構 | | |
| 道幅 | 1.2～1.9m | | |
| 年代 | 近代初頭 | | |
| 備考 | 明確な掘り込みを持たない道状遺構、硬化した部分の厚さ3～5cm、検出長20m以上（東側・西側は調査区外へ展開） | | |

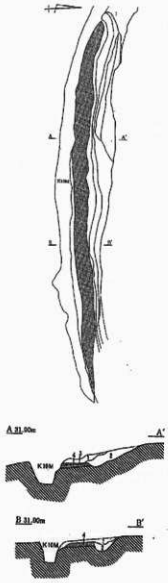
縮尺　（平面図）1/200、（断面図）なし

| 資料No. | 33 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群Ｂ区（第2次調査） |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡蟹ヶ谷 | | |
| 遺構名 | Ｋ１号道状遺構 | | |
| 道幅 | 2.5～3.4m | | |
| 年　代 | 近世後半～近・現代 | | |
| 備　考 | 東西両側に側溝あり、検出長32.3m、側溝を埋めて道幅を拡張している | | |



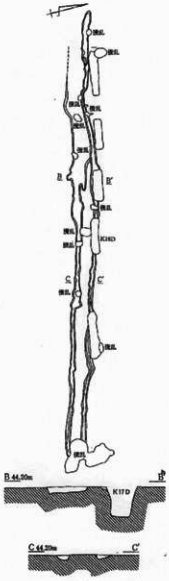

縮　尺　（平面図）1/300、（断面図）1/100

| 資料No. | 34 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群Ｂ区（第2次調査） |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | Ｋ２号道状遺構 | | |
| 道幅 | 2.2～3.0m | | |
| 年　代 | 近代初頭 | | |
| 備　考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、北側に側溝あり、検出長20.0m | | |



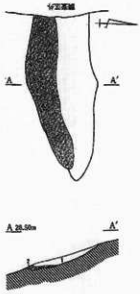

縮　尺　（平面図）1/200、（断面図）1/100

| 資料No. | 35 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群B区（第2次調査） |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | K３号道状遺構 | | |
| 道幅 | 1.3～2.2m | | |
| 年　代 | 近世前半 | | |
| 備　考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、南北両側に側溝あり、検出長33.7m、宝永の火山灰で埋没し廃絶した可能性が高い | | |



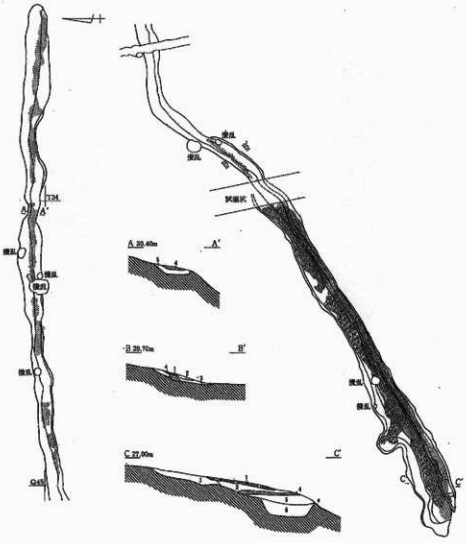

縮　尺　（平面図）1/300、（断面図）1/100

| 資料No. | 36 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群B区（第2次調査） |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | K５号道状遺構 | | |
| 道幅 | 0.8～1.8m | | |
| 年　代 | 近世後半 | | |
| 備　考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長4.1m、西側が調査区外に延びていて2号道状遺構（資料No.20）と繋がる | | |



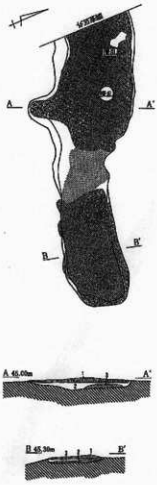

縮　尺　（平面図）1/100、（断面図）1/100

| 資料No. | 37 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群Ｂ区（第2次調査） |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | Ｋ４号道状遺構 | | |
| 道 幅 | 0.6～4.3m | | |
| 年 代 | 近世後半 | | |
| 備 考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長115.5m、道幅は西に向かって広がっている | | |



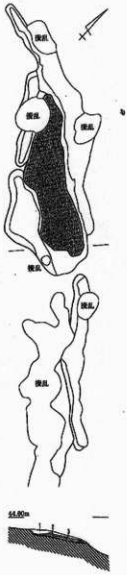

| 縮 尺 | （平面図）1/400、（断面図）1/100 |
|---|---|

| 資料No. | 38 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群Ｂ区（第2次調査） |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | Ｋ６号道状遺構 | | |
| 道幅 | 0.8～2.8m | | |
| 年　代 | 近代初頭 | | |
| 備　考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、検出長7.4m、調査区外西側に延びていて3号道状遺構（資料№22）と繋がる | | |




縮　尺　（平面図）1/100、（断面図）1/100

| 資料No. | 39 | 遺跡名 | 吉岡遺跡群Ｂ区（第2次調査） |
|---|---|---|---|
| 所在地 | 綾瀬市吉岡 | | |
| 遺構名 | Ｋ７号道状遺構 | | |
| 道幅 | 1.4～2.4m | | |
| 年　代 | 18世紀以降 | | |
| 備　考 | 溝状に掘り込まれた道状遺構、南西・東北両側に側溝あり、検出長12m | | |




縮　尺　（平面図）1/100、（断面図）1/100

研究紀要 22

かながわの考古学

発 行 日　2017（平成 29）年 3 月 22 日
発　　行　公益財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033　神奈川県横浜市南区中村町 3-191-1
TEL：045-252-8689　FAX：045-261-8162
http：//www.kaf.or.jp
印　　刷　アンクベル・ジャパン株式会社

KANAGAWA NO KOUKOGAKU

Vol.22

(Bulletin of KANAGAWA Archaeology Foundation)

## CONTENTS

Project Team for Paleolithic Studies: Stratigraphy of the Kanto loam in the area of Isehara and Hadano in Kanagawa ..... 1

Project Team for Jōmon Period Studies: Change of the Jōmon culture in Kanagawa(Ⅷ): An example in the first part of late period. An aspect of the Horinouchi-type pottery Period,part7 ..... 13

Project Team for Yayoi Studies: Study of pit dwellings in the late of Yayoi period(1) ..... 19

Project Team for Kofun Period Studies: Track of Dr.Naotada Akaboshi,A Pioneer of archaeological research in Kanagawa(14): A report of materials of the Kofun Period in the So-called "Akaboshi Note" ..... 29

Project Team for Nara and Heian Periods Studies:
Hardware in the Nara and Heian Periods in Kanagawa: The corpus of iron manufacturing artifacts(7) ..... 39

Project Team for Medieval Age Studies:
Remains of the medieval period in central Kanagawa(2): ..... 55

Project Team for Early Modern Age Studies:
The corpus of structural remains of the road in the Early Modern Age(2) ..... 67

March, 2017

KANAGAWA Archaeology Foundation

Yokohama, Japan